



つづき 水と緑の魅力アップ 推進委員会報告書

平成15年度 つづき 水と緑の検討委員会
平成16年度～18年度 つづき 水と緑の魅力アップ推進委員会

第1部会：既存の緑道の更なる魅力アップ

第2部会：南部地域の環境整備

第3部会：早淵川流域の環境整備

第4部会：中央地区の環境整備

平成19年3月

つづき 水と緑の魅力アップ推進委員会

はじめに

「つづき 水と緑の魅力アップ推進委員会」では、都筑区内の水と緑の魅力を高めていくため、当委員会の前身である「つづき 水と緑の検討委員会」での検討を基に、各部会別に取り組んできました。平成15年度から18年度までの4年間で、全体会・各部会の開催は延べ150回を超えましたが、委員の皆様の熱心な取組に、この場を借りて心からお礼申し上げます。

都筑区は平成6年11月に誕生し、今年で足掛け13年目となりましたが、まだまだ転入者も多く、古くから住んでいる住民と新しく転入した住民が入り混じって暮らしています。それらの新旧住民が委員となって、一緒に活動や検討を行ったことで、新旧住民の交流促進につながったのではないかと思います。また、区民と行政が協働したことにより、地域の実情を行政側に理解してもらい、施策にも反映できたのではないかと思います。

これまでの12年は、変化していくまちの様子に目をとられがちでしたが、これからは本委員会での活動を基に、区内に現存する水と緑の環境と地域資源を維持し、守っていくことが大切であると考えます。

つづき 水と緑の魅力アップ推進委員会 委員長 **金子 三千男**

報告書の発刊によせて

都筑区では、区内の美しく豊かな風景と歴史資源に満ちた魅力を高めることを目的に、水と緑の魅力アップの推進に取り組んでまいりました。

取り組みに際しては、地域の実情に詳しい区民の皆様の協力が不可欠です。本委員会は、自治会・町内会をはじめ、緑道や公園の愛護会、市民活動グループなどの団体で活動されている方々や公募に応じていただいた区民の方々など、総勢延べ50人の委員に参加していただくことができました。

委員の皆様の熱心な取組により、緑道の魅力のPR、南部地域の散策マップの発行、南北緑道の連結、中央地区の魅力向上の提案など、区内の魅力がより一層向上し、また、向上するための材料をいただいたものと感謝しております。

都筑区はまだまだ発展しつづけるまちであり、人口も増え続けています。新しく区民になった方々にも、区内の豊かな水と緑の地域資源に愛着を持っていただくとともに、この貴重な地域資源を地域の力で守り育てていただけるよう、都筑区としても今後も引き続き取り組んでまいります。この報告書をもって「つづき 水と緑の魅力アップ推進委員会」も幕を閉じることになりますが、これまでの皆様の取り組みにお礼申し上げますとともに、引き続き都筑区の取り組みへのご協力につきましてよろしくお願い申し上げます。

都筑区長 **伊藤 秀明**

～つづき 水と緑の魅力アップ推進委員会報告書～

目次

はじめに

1. 「つづき 水と緑の魅力アップ推進委員会」の設立	… 5
1-1. 検討の背景と目的	… 5
1-2. 検討の経過	… 8
2. 「つづき 水と緑の魅力アップ推進委員会」の活動報告	… 9
2-1. 第1部会（既存の緑道の更なる魅力アップ）	… 11
2-2. 第2部会（南部地域の環境整備）	… 32
2-3. 第3部会（早淵川流域の環境整備）	… 54
2-4. 第4部会（中央地区の環境整備）	… 69
3. 「つづき 水と緑の魅力アップ推進委員会」解散後の活動展開	… 82
3-1. 継続して取り組むべき課題	… 82
3-2. 委員会解散後の活動展開	… 82
4. 「つづき 水と緑の魅力アップ推進委員会」活動ヒストリー	… 84

1. 「つづき 水と緑の魅力アップ推進委員会」の設立

1-1. 検討の背景と目的

(1) 委員会検討の背景

1) 都筑区まちづくりプランでの位置づけ

平成 14 年 5 月策定の「都筑区まちづくりプラン」(都市計画マスタープラン・都筑区プラン)のテーマ別まちづくりの方針「1 みどりと水の環境づくり」で、「みどりのネットワークの整備」を重点的な取組として掲げている。

2) 横浜市中期政策プランでの位置づけ

平成 14 年 12 月策定の「横浜市中期政策プラン」の 5 つの重点戦略の一つ「地域でつくる魅力あるまち」の(4)市民との協働による地域のまちづくりで、都筑区の個性づくり事業として「みどりと水でうるおうまちづくり事業」を掲げている。

(2) 委員会の立ち上げと目的

上記を踏まえ、市民からより親しみを持ってもらえるような水と緑の環境を整備するために、平成 15 年度に市民参画による「つづき 水と緑の検討委員会」が立ち上げられた。この検討委員会を発展的に解消し、検討委員会で提案された活動プランを実施する母体として、平成 16 年度に再出発を図ったのが「つづき 水と緑の魅力アップ推進委員会」である。その際に、委員会活動が横浜市中期政策プランに合わせて、平成 18 年度末まで継続した事業として取り組むことが確認された。

委員会は、平成 15 年度から活動を開始した 3 つの部会「第 1 部会【既存の緑道の更なる魅力アップ】」「第 2 部会【南部地域の環境整備】」「第 3 部会【早渕川流域の環境整備】」を中心に検討が進められた。

平成 17 年度からは、中央地区の土地利用が可能になったことなどを受けて「第 4 部会【中央地区の環境整備】」が立ち上げられ、最終的には 4 つの部会で構成された。

■つづき 水と緑の魅力アップ推進委員会 4 つの部会のテーマ

第 1 部会【既存の緑道の更なる魅力アップ】 平成 15 年度～

第 2 部会【南部地域の環境整備】 平成 15 年度～

第 3 部会【早渕川流域の環境整備】 平成 15 年度～

第 4 部会【中央地区の環境整備】 平成 17 年度～

つづき水と緑の魅力アップ推進委員会の設立

つづき 水と緑の魅力アップ推進委員会委員名簿（役職等は参加時のものです。）（敬称略）

※途中参加・退会の委員のみ、氏名右側に参加年度を記載しています。

委員長	茅ヶ崎中央町内会会長	金子 三千男
副委員長	筑波大学名誉教授	川手 昭二

第1部会「既存の緑道の更なる魅力アップ」

1	北山田町内会副会長 (北山田地区公園愛護会副会長)	工藤 義一	16年度～
○2	ささぶねのみち2丁目愛護会会長	河野 進	
3	茅ヶ崎南MG C連合自治会会長	國分 治雄	16年度～
4	都筑クラブ	佐波 利昭	16年度～
5	公募委員	高橋 俊光	
6	NPO緑の街	戸塚 洋一	
7	港北ニュータウン緑の会	田中 良三	16年度～
8	都筑中央公園里山倶楽部	山岸 紀美江	
◎9	荏田南連合自治会副会長 (ゆうばえのみち(荏田南)愛護会会長)	山下 泰一郎	
10	茅ヶ崎南MG C連合自治会会長	伊藤 隆夫	15年度
11	北山田町内会会長(神無公園愛護会会長)	男全 由治	15年度
12	中川西町内会会長(山崎公園愛護会会長)	小林 寿治	15年度
13	荏田南連合自治会会長	志村 一郎	15年度
14	港北ニュータウン緑の会	永田 和宏	15年度
15	公募委員	平井 郁夫	15年度

第2部会「南部地域の環境整備」

1	佐江戸・加賀原地区	阿座上 洋祐	
2	二の丸	落合 俊彦	17年度～
3	東方町内会理事	大河内 俊雄	
4	公募委員	倉持 彦弥	
◎5	川向町内会会長	小泉 一寿	
6	大熊町内会	平野 勲	18年度
7	茅ヶ崎南第一町内会会長	清水 浩	
8	折本町内会会長	城田 作次	
9	池辺町	田丸 斉	
○10	川和町内会副会長	中山 正美	
11	池辺町	畠中 定	
12	折本町内会副会長	山田 妙子	
13	大熊町内会会長	芥藤 敏夫	～17年度

第3部会「早渕川流域の環境整備」

1	公募委員	荒井 眞一郎
2	公募委員	大川 裕子
○3	I Love つづき	川本 久美子
4	公募委員	篠田 一夫
5	公募委員	関田 章
6	公募委員	都倉 阜夫
◎7	早渕川ファンクラブ	福富 洋一郎
8	早渕川流域ネット	藤井 優子
9	大柵町町内会会長	井上 照男
10	勝田町町内会会長	鈴木 進

15年度
～16年度

第4部会「中央地区の環境整備」（平成17年度から活動開始）

1	公募委員	荒井 眞一郎
2	公募委員	宇佐見 誠一
◎3	公募委員	大嶋 珪治
4	公募委員	金尾 泰通
5	大柵町町内会	神本 保次
6	茅ヶ崎南第一町内会会長	清水 浩
7	公募委員	鈴木 兼光
8	中川中央一丁目町内会	谷川 文男
9	公募委員	永井 良和
10	茅ヶ崎東町内会	長嶋 俊男
11	早渕川ファンクラブ	福富 洋一郎
○12	公募委員	皆川 健一
13	ゆうばえのみち（荏田南）愛護会会長	山下 泰一郎
14	センター南広場公園愛護会会長	山田 美千子

18年度

◎…部会長、○…副部会長



兼任委員

1-2. 検討の経過

平成18年度末を「つづき 水と緑の魅力アップ推進委員会」の最終ゴールと認識したうえ、「緑と水と人の連携による誰もが散策したくなり、管理・活用にも参加できるような都筑区」を実現するため、それぞれの部会で検討テーマを定め活動を行った。また、部会活動は、4つの部会員が一同に会する全体会を適宜開催することで、部会間相互の連携、調整を図りながら進めた。

表-1. つづき 水と緑の魅力アップ推進委員会の検討テーマ及び平成18年度末までの主な取組

部会	部会発足時検討テーマ	平成18年度末までの主な取組
第1部会	<ul style="list-style-type: none"> ・住民主体の緑道の維持・管理体系の構築 ・観光資源としての緑道のPR 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の緑道の魅力アップに向けた課題と提案 ・魅力資源の検証と紹介及びお勧め散策コースの設定 ・つづき発見ウォーク実行委員会、緑道愛護会懇談会等とのつづきウォーク&フェスタ共催 ・緑道の魅力や課題、愛護会の活動内容等を示したPRパネルの作成と展示 ・ホームページによる緑道の魅力のPR ・緑道の利用状況調査と緑道管理計画検討会への参加 ・(仮称) 緑道委員会のあり方検討 ・緑道を活用した小中学生への教育の提案
第2部会	<ul style="list-style-type: none"> ・南部地域の河川及び寺院などを絡めた散策ルートの選定及び整備方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・南部地域の魅力資源のリスト作成 ・南部地域の散策ルート及びお勧めコースの設定 ・都筑区南部水と緑の散策マップの作成 ・まち歩きイベントの企画、実施 ・散策コースへの案内サインの設置 ・散策コース上の危険箇所の点検及び改良検討
第3部会	<ul style="list-style-type: none"> ・早淵川流域の環境整備及び早淵川を活用した南・北緑道の連結方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・南北緑道の西側を連結するルート「やさきのみち」「しらすぎのみち」の選定及び案内サインの整備 ・早淵川沿いの散策環境向上をテーマとした早淵川周辺整備基本計画の作成 ・「やさきのみち」の一部水路敷きをせせらぎとして整備することをテーマとした「都筑区親水水路の基本構想」の作成 ・ホームページによる早淵川の魅力のPR ・「やさきのみち」せせらぎ整備に向けたワークショップ ・南北緑道連結東側ルートの選定及び案内サインの整備 ・早淵川親水広場のオープニングイベントの検討
第4部会	<ul style="list-style-type: none"> ・中央地区における歩行者動線の機能やイメージ、タウンセンターを一体化する魅力アップ方策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・中央地区のあり方検討 ・魅力づけの具体的なイメージ提案の検討(地下鉄高架下交通局用地の土地活用に関する提案等) ・提案を実現する組織づくりの検討

2. 「つづき 水と緑の魅力アップ推進委員会」の活動報告

第1部会 既存の緑道の更なる魅力アップ — 11～



第2部会 南部地域の環境整備 — 32～



第3部会 早渕川流域の環境整備 — 54～



第4部会 中央地区の環境整備 — 69～



2-1.

第1部会

既存の緑道の更なる魅力アップ

2-1. 既存の緑道の更なる魅力アップ	・・・	12
(1) 第1部会4か年作業の流れ	・・・	13
(2) 平成15年度～17年度第1部会の取組	・・・	14
① 緑道の課題と提案	・・・	14
② 魅力資源の紹介及びお勤めコースの設定	・・・	14
③ 既存の緑道の更なる魅力アップ活動計画	・・・	14
④ つづきウォーク&フェスタの共催等イベントによる緑道のPR	・・・	18
⑤ 緑道の利用状況調査	・・・	23
⑥ 夜間の現地検証	・・・	24
⑦ 「防犯に配慮した緑道管理計画」検討会への参加	・・・	24
(3) 平成18年度第1部会の取組	・・・	25
⑧ 緑道を教材とした小中学校への教育の提案	・・・	26
⑨ (仮称) つづき緑道委員会のあり方検討	・・・	29
⑩ ホームページによる緑道のPR	・・・	30
(4) 平成19年度以降の既存の緑道の更なる魅力アップについての展開	・・・	31

2-1. 既存の緑道の更なる魅力アップ（第1部会）

第1部会では、区内の緑道に対する住民主体の維持・管理・活用体系の構築及び緑道の観光資源としてのPRをテーマとし、「(仮称) 緑道委員会の設置」「わかりやすい緑道の情報提供・PR」を目標として活動した。

◆これまでの主な取組

平成15年度…

- ・既存の緑道の魅力アップに向けた課題と提案
- ・魅力資源の検証と紹介及びお勧め散策コースの設定

平成16年度…

- ・つづき発見ウォーク実行委員会、緑道愛護会懇談会等とのつづきウォーク&フェスタ共催
- ・緑道の魅力や課題、愛護会の活動内容等を示したPRパネルの作成と展示

平成17年度…

- ・PRパネルの展示やホームページによる緑道のPR
- ・緑道の利用状況調査と緑道管理計画（平成17年度都筑区策定）検討会への参加

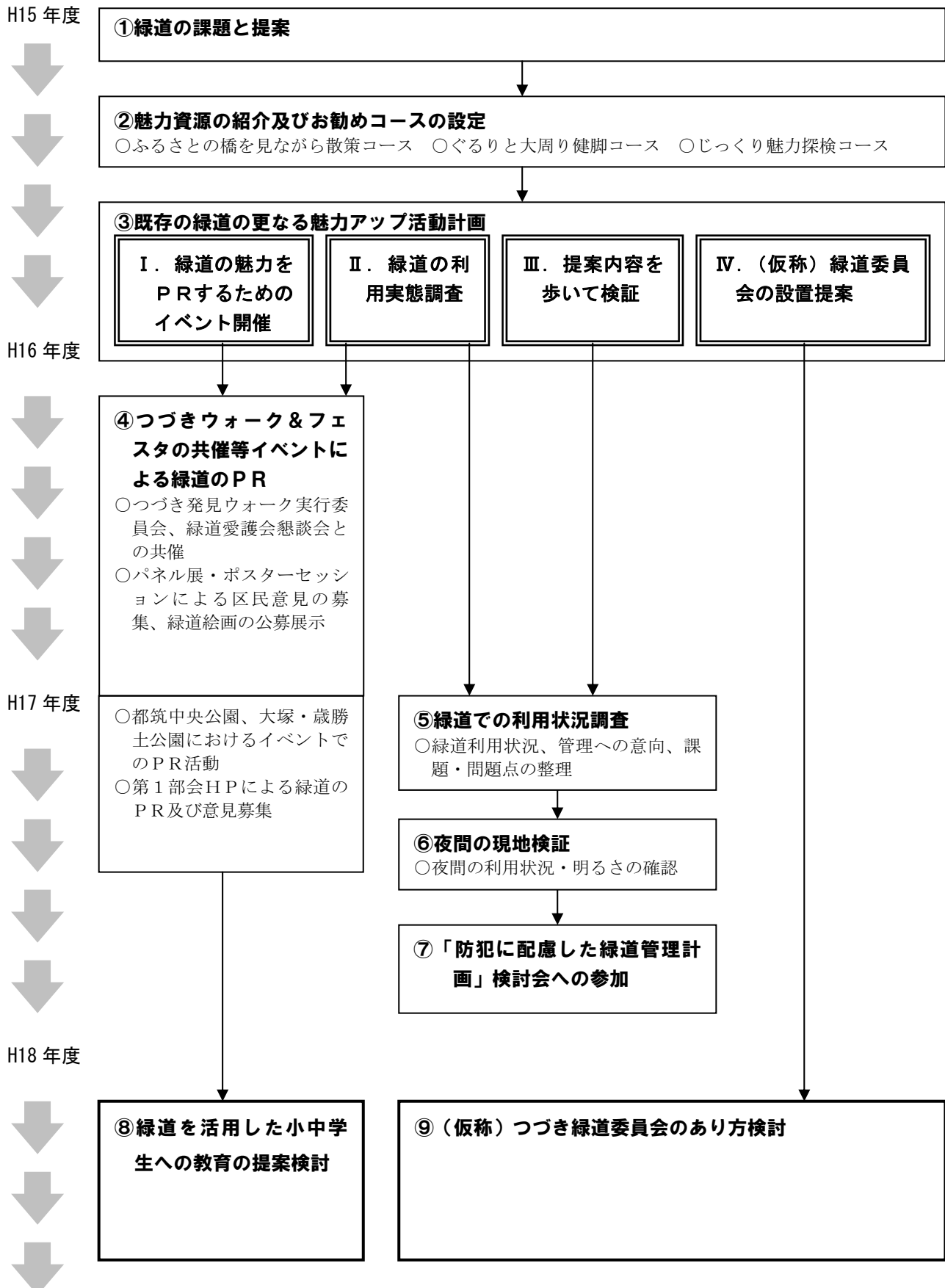
平成18年度…

- ・(仮称) つづき緑道委員会のあり方検討
- ・緑道を活用した小中学生への教育の提案



PRパネルの展示の様子

(1) 第1部会4か年作業の流れ



(2) 平成15～17年度第1部会の取組

①緑道の課題と提案

既存緑道の魅力アップの課題と提案をワークショップ方式で整理した。

【主なキーワード】

- ・魅力アップの考え方
 - ※1人でも多くの区民に自分達の緑道と認識してもらう。
 - ※学童が通学中も、学校で過ごす時間にも緑道に囲まれていることが認識できるように。
 - ※緑道の範囲は公園も歩行者専用道路も保存緑地も全て含む。
- ・管理のあり方は魅力を維持し、高めることと深く関わる。
- ・雑草も緑道の魅力 ・自転車とバイクの問題 ・犬の散歩をする人達について
- ・緑道や公園からの景色、景観について ・マナーやエチケット、ルールについて
- ・防犯と緑道 ・暗い緑道と明るい緑道（照明のあり方） ・トイレをきれいに明るく
- ・緑道の魅力は土の感触 ・緑道の周辺にある魅力もアップしたい
- ・緑道に面する店の魅力、企業の参加 ・護るべきところ ・わかりやすい緑道の情報提供
- ・緑道は安全な避難路 ・標識、掲示板をわかりやすく

②魅力資源の紹介及びお勧めコースの設定

緑道を実際に歩くことによって緑道の魅力資源の検証と確認を行った。さらに、鉄道駅やバス停、魅力資源等に関係の深い場所を起点としたお勧めコースの設定を行った。（15、17ページ図-1、2参照）

【主なキーワード】

- ・ふるさとの橋を見ながら散策コース
- ・ぐるりと大周り健脚コース
- ・じっくり魅力探検コース
- 【・十二支をたずねるコース ・お花と歴史の散歩コース ・いきもの観察コース ・お買い物ついでコース
・見晴らし映えコース ・これから魅力アップコース】

③既存の緑道の更なる魅力アップ活動計画

緑道の魅力アップの課題と提案を実践する第1部会の取り組みとして、以下の4つの提案がなされた。

<p>I. 緑道の魅力をPRするためのイベントの企画・開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皆で緑道を再認識するためのイベント（緑道まつり、ウォークラリー） ・マナーキャンペーンイベント ・公園、緑道の水面を活用する花火大会 ・公園愛護会や早瀬川関連グループとの連携によるイベント 等 	<p>II. 緑道の利用実態調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期的かつ定期的に緑道の利用調査（定点調査）をするべき ・筑波大の小場瀬教授のデータを活用する。 ・継続的に緑道祭りを開催して、利用者ヒヤリング調査をする。
<p>III. 提案内容を歩いて検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検討してきた緑道の魅力アップを歩いて検証 ・提案の個々について討論する機会をつくる ・緑道のあり方や管理のあり方で、意見が分かれたポイントを歩く。 ・魅力ポイントを一緒に実際に歩いて確認。 ・お勧めコースを歩いて確認 	<p>IV. (仮称) 緑道委員会の設置を提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑道全体を考える 緑道とは本来何かを話し合う。 ・都筑区公園愛護会連絡会と連携する。 ・緑道に関わる民（沿道の店舗など）と官の間をコーディネートする。市・区・区民、事業者の役割分担の調整をする。 ・緑道に関わるイベントを企画し運営する。 ・緑道管理のあり方を検討する。 ・緑道の再整備を審議し、区民の合意形成を図る。

図-1. 第1部会が考えた緑道のお勧めコース①

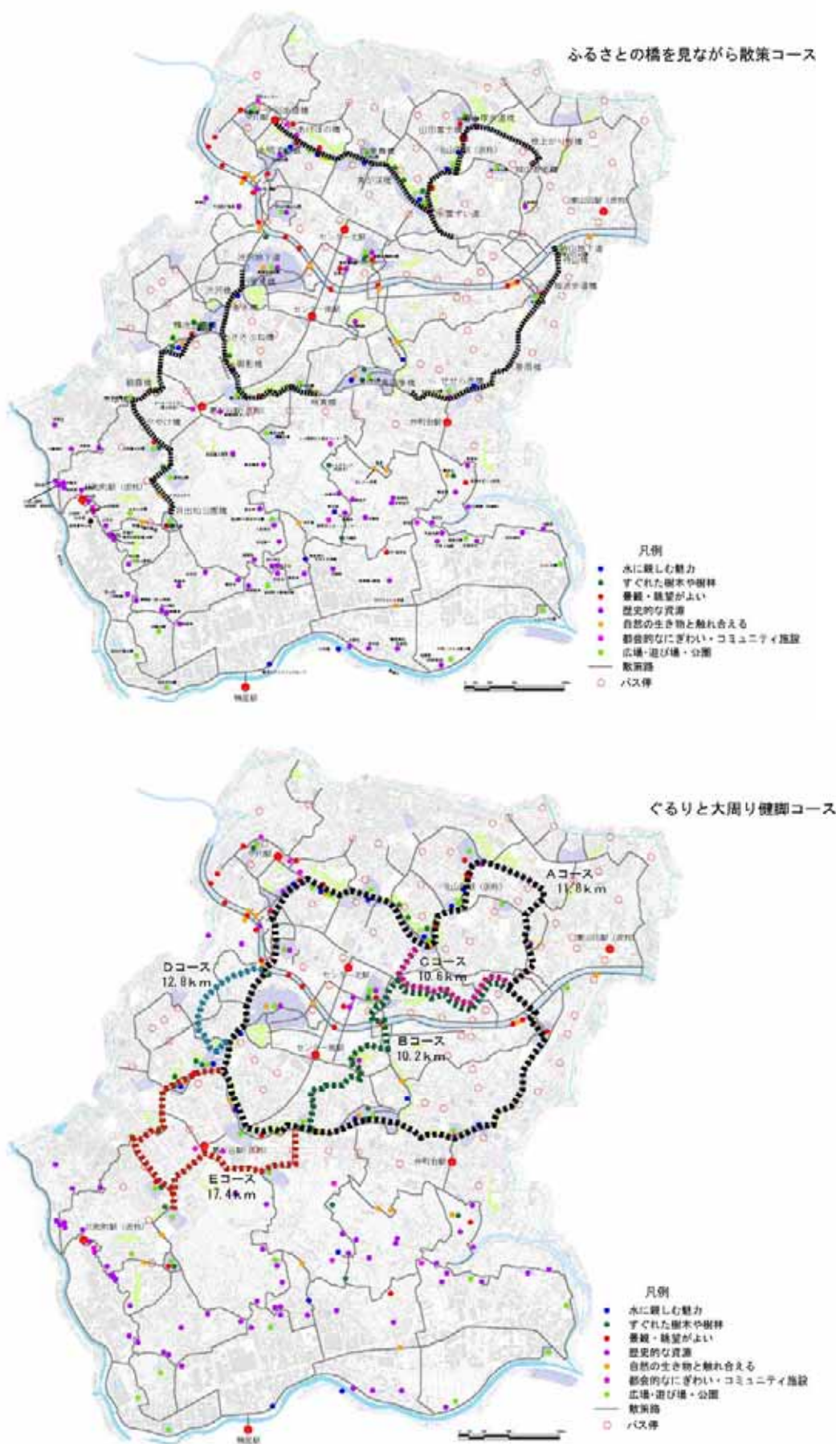


図-2. 第1部会が考えた緑道のお勧めコース



④つづきウォーク&フェスタの共催等イベントによる緑道のPR

第1部会にとっては、多くの区民と一緒に現実の空間で緑道のあり方を考える必要があること、また、既存の緑道愛護会にとっては、大きなイベント開催を通して緑道愛護会活動のアピールができることから「緑道の魅力をPRするためのイベント」として、毎年11月23日につづき発見ウォーク実行委員会主催で行われている「つづきウォーク&フェスタ」を共催で実施した。

1) 企画の目的

イベント参加者や通りかかった区民を対象に、緑道愛護会などと協力し、楽しい要素（緑道の魅力）を前面にアピールし、イベントを膨らませながら、多くの区民に緑道について考えていただくと共に、第1部会が考える緑道のあり方について理解いただくことを目的とした。

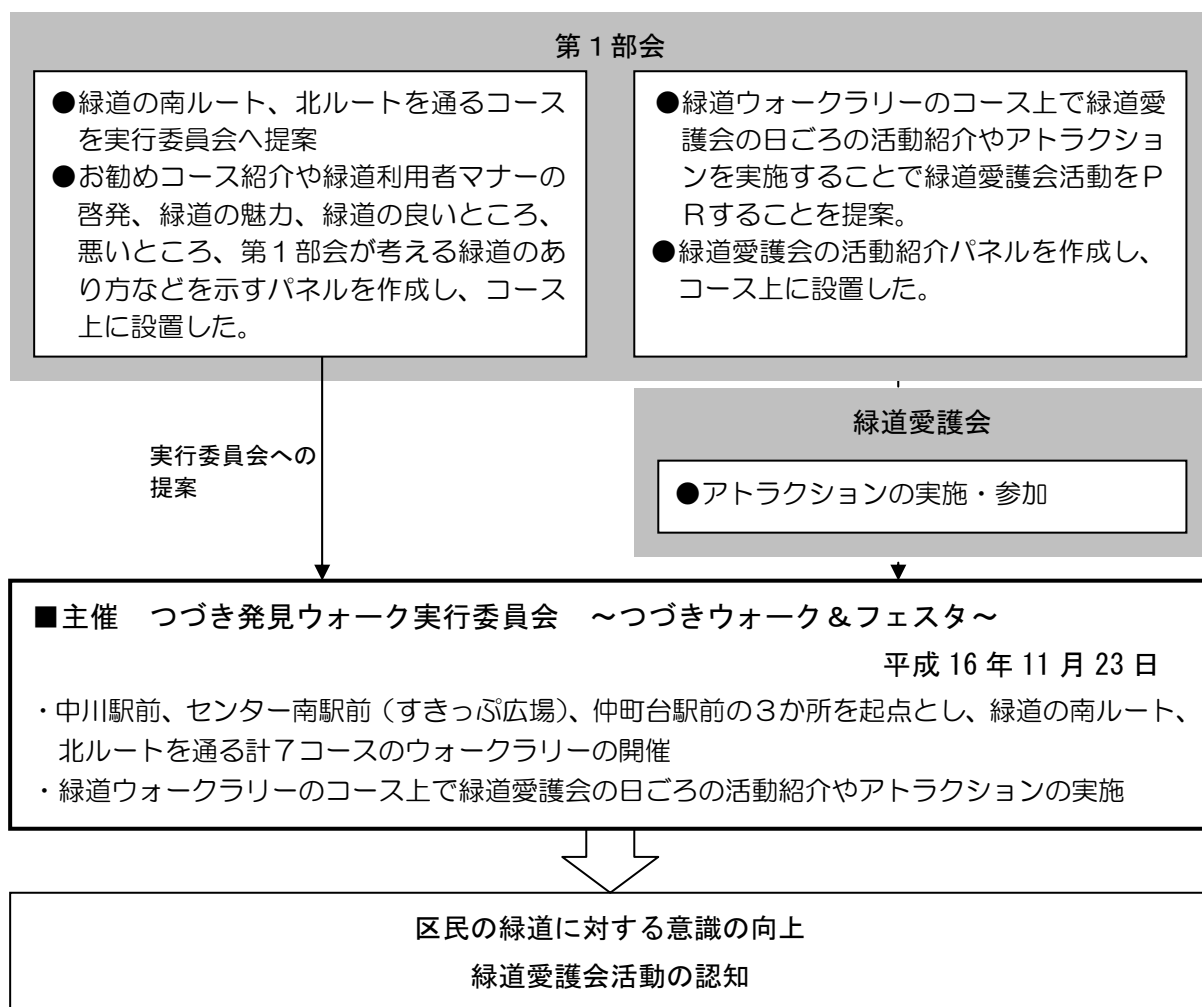
2) 企画の内容

第1部会では、「パネル展」「ポスターセッション」さらに、緑道絵画の公募、展示を実施することとした。また、「つづきウォーク&フェスタ」を開催する「つづき発見ウォーク実行委員会」に緑道ウォークラリーのコース提案を、緑道愛護会懇談会を通して緑道愛護会にイベントでのアトラクション参加を提案した。

3) パネルの作成・展示（合計10枚）

参加型のアトラクションとして、お勧めコース紹介や緑道利用者マナーの啓発、緑道の魅力、緑道の良いところ、悪いところ、第1部会が考える緑道のあり方などを示すパネルを計10枚作成し、緑道ウォークラリーのコース上ほか各イベントの際に設置・展示を行った。

図-3. つづきウォーク&フェスタ共催の活動の流れ





タイトルパネル



1. つづき水と緑の散策路ネットワーク



2. お勧めコース～ふるさとの橋を見ながら散策コース



3. お勧めコース～ぐるりと大回り健脚コース



4. お勧めコース～じっくり魅力探検コース



5. 今日歩いた緑道の良かったところは？私がよかったですか？



5'. 今日歩いた緑道の良かったところ？



6. 緑道の魅力について考えました



7. 緑道の問題



8. 緑道の魅力



9. 緑道愛護会の活動

【これまでにおこなわれたパネル展示会】

- ・つづきウォーク&フェスタ事前パネル展示会 平成16年11月15日～11月22日
会場：都筑区総合庁舎1階ホール
- ・つづきウォーク&フェスタ当日パネル展示会 平成16年11月23日
会場：センター南すきっぷ広場
- ・都筑中央公園バラ祭りパネル展示会 平成17年5月19日
会場：都筑中央公園
- ・東山田中学校コミュニティハウスグリーンサポーター研修パネル展示会
平成17年6月21日 会場：東山田中学校コミュニティハウス
- ・大塚・歳勝土遺跡公園いっぷくまつりでのパネル展示 平成17年9月21日
会場：大塚・歳勝土遺跡公園



つづきウォーク&フェスタ当日パネル展の様子



都筑中央公園バラまつりにて



大塚・歳勝土遺跡公園いっぷくまつり

4) 緑道絵画の展示

平成16年9月15日～10月15日の期間、「公園とそれを結ぶ道（グリーンマトリックス）」をテーマに作品を募集したところ、11作品の応募が寄せられた。つづきウォーク&フェスタでは、それらの作品を緑道ウォークラリーのゴール直前にある都筑中央公園レストハウスにて展示した。

5) 緑道愛護会などの活動紹介

平成16年11月23日のつづきウォーク&フェスタにおいては、各ウォークラリーのコース上でそれぞれの緑道愛護会ごとにアトラクションブースを設置し、第1部会と共同で愛護会の活動紹介等を行った。

<p>くさぶえのみち(牛久保西二・三丁目)愛護会 活動紹介 飲み物のふるまい、柿・野菜の販売</p> 	<p>ささぶねのみち(荏田東四丁目)愛護会 活動紹介 ポップコーン ふるまい</p> 
<p>ささぶねのみち(荏田東二丁目)愛護会 臨時喫煙所、ポイ捨て禁止キャンペーン 山野草の保護活動</p> 	<p>茅ヶ崎公園愛護会 花壇づくり 川の環境改善活動</p> 
<p>茅ヶ崎公園 生態園管理運営委員会 もみすり精米、お汁粉ふるまい</p>	
<p>港北ニュータウン緑の会 活動紹介 竹林管理で伐採した竹を使ったバームクーヘンづくり、販売</p> 	<p>都筑中央公園 里山倶楽部 活動紹介 竹林管理で伐採した竹から作った竹炭を使った焼き芋づくり、販売</p> 

6) つづきウォーク & フェスタの検証

イベント参加者からいただいた意見をまとめて報告ポスター（下図）を作成し、緑道利用者や緑道愛護会とともにその検証をおこなった。

毎年1万人以上が転入する都筑区において、緑道がこういった構想で作られたものかを知らない人がどんどん増えており、今回のパネルをポスターにして緑道掲示板に掲出するなど、広く区民にPRし、緑道を知って、大切にしようという意識を持ってもらい、さらに多くの区民の意見を聞いていくことを確認した。

【実施の成果を検証】

- ・パネルづくりを通して、第1部会が考える緑道のあり方をより深く確認できた。
- ・緑道愛護会の方に、第1部会の提案に応える形で協力いただくことができた。
- ・日ごろの活動では、直接、区民と触れ合う機会がない緑道愛護会の方も、今回のイベントを通して区民と触れ合うことができた。
- ・イベント参加者など区民、緑道利用者からご意見をいただき、多くの方が緑道に対して「自然豊かなきれいなところ」という印象をもっていることがわかった。一方で、暗くて怖い、禁止されているバイクが乗り入れてきて危険、せせらぎの水がかれているなど改善を求める意見も出た。
- ・イベント開催と平行して、5か所の緑道掲示板を上手く活用できた。

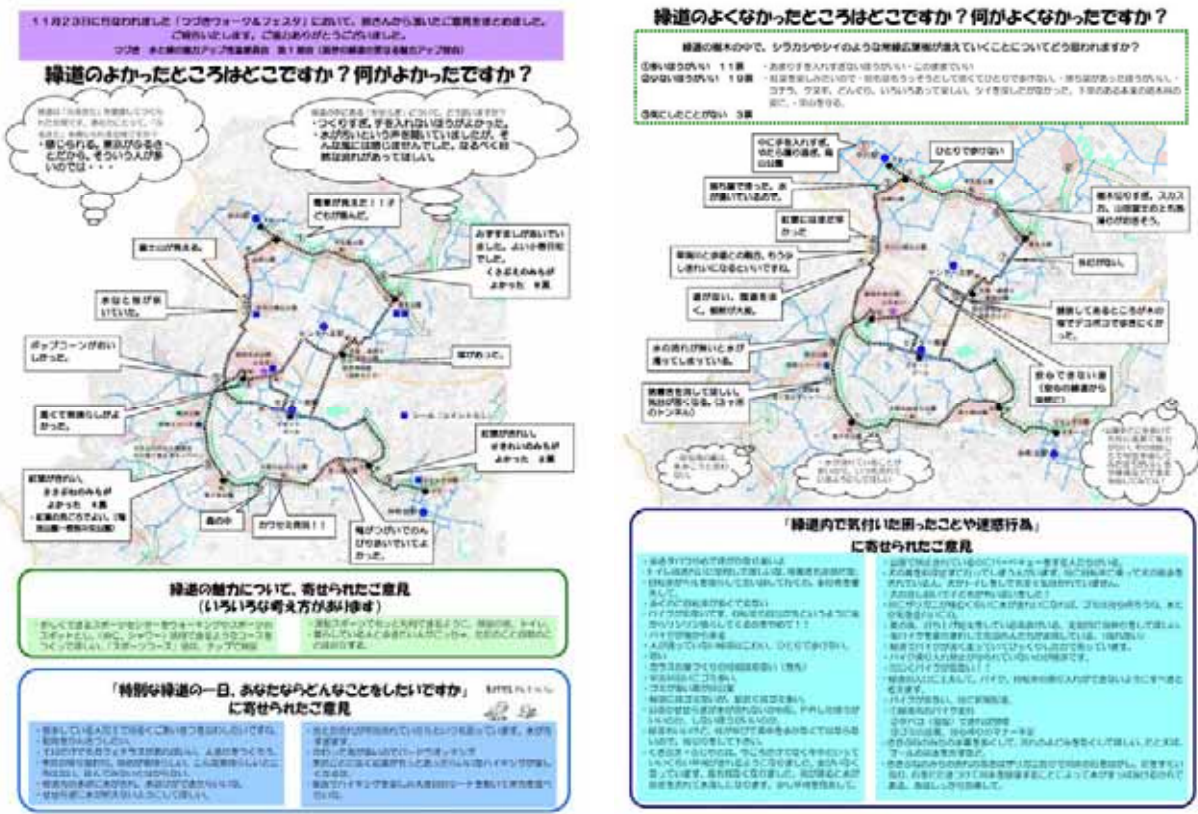
(掲載内容)

イベント開催や緑道絵画の募集の告知ポスター

お勧めコースと第1部会の緑道に対する考え方をまとめたチラシ

参加者意見をまとめた報告ポスター

図-4. イベント参加者の意見をまとめた報告ポスター



⑤緑道の利用状況調査

第1部会で緑道の魅力について検討した結果、緑道の進むべき方向は、“道”としての単なる利便性の追求ではなく、自然豊かな公園として、その自然環境を守り育てていく視点も重要であると考えた。

この検討結果に対して、現在の利用状況を把握するため、平成17年7月19日～29日の間で日ごろ緑道の清掃活動等を行っている緑道愛護会を対象に、緑道の利用状況調査を実施した。

1) 調査概要

【利用状況の調査】

- ・愛護会活動エリアごとに、平日朝夕、平日昼間、休日の3つの時間帯において、公園（散歩・ジョギング、子どもの遊び場等）としての利用頻度
- ・生活道（通勤・通学、買い物への通路等）としての利用頻度

【管理への意向調査】

- ・愛護会活動エリアごとに、照明、舗装、植栽の管理に対する意向

【課題・問題点】

- ・マウンテンバイク及びバイクの進入対策、その他自由回答

2) 調査結果

緑道の利用状況は、平日朝夕は生活道、平日昼間及び休日は公園及び生活道という、時間帯による利用傾向は全域で共通だったが、特に、せきれいのみち・ゆうばえのみちでは平日昼間及び休日も生活道として利用されていることを把握した。

各愛護会から共通して挙げられた緑道の課題は、第1部会で検討した課題と同様、バイク進入、犬の糞の放置、ポイ捨て等であり、緑道全体で一体となって課題解決に取り組む必要性を把握した。

図－5. 緑道の利用状況調査票

(調査票)

愛護活動を担当されているエリアの緑道について、教えてください。

1. 次の時間帯ごとに、緑道はどのように「使われて」いますか。
該当する欄に◎△○をつけてください。
(◎：よく利用されている / ○：利用されている / △：たまに利用されている。)

	平日の朝・夕	平日の昼間	休・祝日
通勤路として			
通学路として			
買い物等の通路に			
散歩・ジョギング等に			
子供たちの遊び場			
他()			

2. 「植栽の密度」について、適切な間伐は樹木管理面から必要ですが、貴愛護会の活動エリアの植栽は、どのようにした方がよいと思いますか。
該当する欄に○をつけてください。

	ツツジ等低木の場合	高木の場合
現状で良い。		
間伐した方がよい。		
もっと植栽した方がよい。		
植え替えた方がよい。		
→ どのような木が良いか、ご意見がありましたら、ご記入ください。		

3. 「植栽の剪定」について、適切な剪定は植栽・樹木管理面から必要ですが、貴愛護会の活動エリアの植栽は、どのようにした方がよいと思いますか。
該当する欄に○をつけてください。

	ツツジ等低木の場合	高木の場合
剪定を強化した方がよい。 (例えば、見通しが良くなり、犯罪や不法投棄の防止に役立つ。等)		
剪定を最小限にとどめた方がよい。 (例えば、全国的にも列のない街中の自然公園としての特徴を保全できる。等)		

4. 「植栽の草刈り」は、どのようにした方がよいと思いますか。
該当する欄に○をつけてください。

草刈りを徹底した方がよい。 (例えば、ゴミ捨ての防止にも役立つ。等)	
草刈りはあまりしない方がよい。 (例えば、緑道の草は雑草ではなく野草なので、草で季節感を感じることができる。等)	

5. 「舗装」は、どのようにした方がよいと思いますか。
該当する欄に○をつけてください。

現状で良い。	
舗装を増やした方がよい。 (例えば、段差がなくなり、乳母車や高齢者も利用しやすくなる。等)	
舗装を最小限にとどめた方がよい。 (例えば、土がなくなると生物の多様性が失われる。都市の中で土の感触は貴重。等)	
舗装を替えた方がよい。 → どういう風に替えた方がよいか、ご希望がありましたらご記入ください。	

6. 「照明灯」は、どのようにした方がよいと思いますか。
該当する欄に○をつけてください。

現状で良い。	
照明灯をもっと増やし、明るくした方がよい。 (例えば、夜間も安心して通れる。等)	
照明灯は、最小限にとどめた方がよい。 (例えば、植物の生育には夜間、暗い必要がある。等)	

7. オートバイやスポーツ用マウンテンバイク等が緑道を通ることについて、貴愛護会の対策や考え方を教えてください。

8. 現在困っていることや問題点・改良したい点、愛護会のあり方等、ご意見・提案等がありましたら教えてください。

7月29日(金)までに、区役所へ送付くださいますようお願いいたします。

⑥夜間の現地検証

「防犯に配慮した緑道管理計画」検討会に参加するにあたり、夜間の緑道がどれくらい暗いのか、照明の増設が必要なほど暗いのかを確認するため、平成17年10月17日の夜間（19:00～20:00）、ゆうばえのみち（月出松公園）～ささぶねのみち（葛が谷公園までの区間）を歩いて検証した。

1) 夜間の現地検証概要

- ①夜間（主な社会人の帰宅時間）に人通りはあるか。
- ②代替ルートはあるか。
- ③中低木は育ち過ぎているか。（剪定または伐採の対象か。）

2) 夜間の現地検証結果

検証時は、歩行者は少なく、無灯の自転車の通行が多いという状況であった。現地検証の結果、第1部会としては、照明などの改善が必要な箇所は数箇所にとどまり、自転車の点灯や歩行者もライト常備する等通行者自身のソフト面の安全対策が必要と考えた。

⑦「防犯に配慮した緑道管理計画」検討会への参加

「防犯に配慮した緑道管理計画」検討会に参加し、15年度からの検討内容や今年度行った緑道の利用状況調査及び夜間現地検証の結果をもとに、第1部会から緑道管理のあり方を提案した。

「緑道はグリーンマトリックスの一部として区民の貴重な地域資源であり、自然豊かな公園として守り育てたいということ、緑道の安全確保には照明増設等ハード面だけでなく、夜間の通行自粛やライトの常備等ソフト面の対策が必要」

- ・ 検討箇所 ゆうばえのみち、ささぶねのみち
- ・ 開催日 平成18年2月11日（日）、3月4日（日）
- ・ 検討メンバー 愛護会、自治会町内会、校外委員、第1部会委員
- ・ 検討内容 第1回 危険箇所の洗い出し
 第2回 植栽管理、照明の灯具交換や増設等対策を講じる内容の確認



（検討会の様子）

(3) 平成18年度第1部会の取組

○平成18年度は、連携する公園や緑地の愛護会活動や緑道のPRをおこなうとともに、緑道を教材とした小中学生への教育活動についての検討、「(仮称) つづき緑道委員会」のあり方の検討を行った。

<p>第1回検討会 平成18年6月19日(月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●平成18年度活動予定について ●「(仮称) つづき緑道委員会」の設立に関する検討について ●次世代の緑をつなぐ「子ども達(小中学生)」への緑道のPRについて
<p>第2回検討会 平成18年7月13日(木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●緑道を教材とした小中学生への教育活動について(1) <ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容についての意見 ・授業及び協力体制としての手法についての意見 ●「(仮称) つづき緑道委員会」について(1) <ul style="list-style-type: none"> ・位置づけ等
<p>第3回検討会 平成18年8月3日(木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●緑道を教材とした小中学生への教育活動について(2) <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な内容、手法についての提案 ●「(仮称) つづき緑道委員会」について(2) <ul style="list-style-type: none"> ・コンセプト、趣旨、名称 ・活動内容 ・メンバー構成 ・活動頻度
<p>第4回検討会 平成18年9月11日(月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●緑道を教材とした小中学生への教育活動について(3) <ul style="list-style-type: none"> ・科目ごとの検討結果 ・問題点、課題 ・検討会としての取り組み姿勢について ・今後の進め方
<p>第5回検討会 平成18年9月28日(木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●緑道を教材とした小中学生への教育活動について(4) <ul style="list-style-type: none"> ・学校との関わり方について ・学校へ提供していく第1部会からの資料イメージについて
<p>学校へのヒアリング 平成18年10月26日(木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●茅ヶ崎台小・荏田南小・東山田中の教師等へのヒアリング
<p>第6回検討会 平成18年11月13日(月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●緑道を教材とした小中学生への教育活動について(5) <ul style="list-style-type: none"> ・学校ヒアリング結果 ・緑道を用いた環境教育の方向性 ・地域からの支援策の具体作業について
<p>第7回検討会 平成18年12月11日(月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●緑道を教材とした小中学生への教育活動について(6) <ul style="list-style-type: none"> ・提案内容の精査 ・提案を実施する組織について など

⑧緑道を教材とした小中学校への教育の提案

都筑区の緑道は、「グリーンマトリックスシステム」と呼ばれる計画的な緑の保全・整備がなされたものであり、豊かな生物環境・都市環境を形成する全国でも有数の緑の資源となっている。

これらの「緑の資源」を守り育てていくためには、愛護会や自治会・町内会など地域の人達の日ごろの活動が必要不可欠であるが、地元住民でもこれらの保全活動が地域の人達の手で行われていること自体があまり知られていなく、活動に関わる人が固定化・高齢化してきている。

そのため、もっと多くの人達が身近な地域の活動を知って参加してもらうためには、緑道の魅力とそれに関わる人・団体や地域活動に関するPRが必要である。

そこで、第1部会は、学校教育の場にもっと緑道を活用してもらい、知る・学ぶ活動を通じて、この貴重な財産を次世代を担う子ども達に伝えていく方法について検討を行った。

1) 緑道を教材とした教育の実現に向けた第1部会の活動方針

- | | |
|-------------|---|
| 【目的】 | <ul style="list-style-type: none"> ・緑道を守るには地域の力が必要 ・地域で活動する人たちが固定化、高齢化 ・緑道への想いを次世代につなげたい「水緑を知る、学ぶ、大切にする」 |
| | ↓ |
| 【手段】 | <ul style="list-style-type: none"> ・小中学生の学びの場である、学校の授業のなかでの可能性を検討する「緑道をフィールドや教材とした教育プログラム」 |
| | ↓ |
| 【方策】 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校へ情報を提供し、先生から生徒達に伝えてもらう。 |

2) 教科書の分析

文部科学省の学習指導要領から緑道を教材とすることができそうな科目と学年をピックアップし、都筑区で使用している教科書を部会員が分担して分析した。

その結果、緑道は主に理科、社会、道徳等に沿って活用できる題材「気象、水循環、いきもの、地図作り、歴史・文化、神社仏閣、埋蔵文化財、ニュータウン計画当初の郷土情報」が豊富で、教科・クラブ活動などを通して体験の場、材料収集の場として活用できそうな事がわかった。

表-2. 緑道と関わりが深いと考えられる科目の抽出

学年	科目	頁	内容
小3	理科	P4	せせらぎを含む緑道での虫や植物の観察
		P7~57	緑道を含む通学路や畑で花や野菜を育てる。
		P30	昆虫の体の作りや住みかについて、緑道、公園で観察する。
小4			空き缶の行方
小4	理科	P4~17	生物：緑道に隣接する生物相保護区（茅ヶ崎公園、鴨池公園、都筑中央公園）の開放を中心にテーマを設定し公園関係者の協力を求める。
		P34~39	植物：竹林などの保護区やメンテ作業の実態を観測させ、植物保護の大切さを体験させる。
		P53~55	農作物：中央公園里山倶楽部田畑部会とタイアップし、希望によっては作業実習も取り入れた身近な植物の観察をおこなう。
小3 小4	社会	P10~29	つづき博士倶楽部（※1）の地図づくり講座を活用する。個性的な地図の作り方を学び、街の実態を知ると同時に緑道への関心を引き付ける。
小5	理科		温度・湿度・降水量等の観測
小6	道徳		「葉っぱのフレディ（※2）」達の仲間探し
中2	理科	もくじ	「身近に見られる野草」観察のフィールド写真+観察実験試料採取
中2	理科		温度・湿度・降水量等の観測
中3	理科 2分野	P98	都筑区の自然（水と緑）の実態とはたらきを知り、維持管理していくための方策を考えてもらう。

（※1）主に区内立地企業による区内小・中学校への出前講座

（※2）「葉っぱのフレディー いのちの旅」レオ バスカーリア著 みらいなな訳（童話屋）

3) 先生達へのヒアリング

荏田南小学校、茅ヶ崎台小学校、東山田中学校の先生達にヒアリングをおこない、緑道を活用した教育の可能性について、情報を収集した。

現状の課題と緑道の活用に向けた方向性については、以下の通りである。

【現状】

- ・現状でも一部学校では緑道を活用されている（花壇、図工、まちあるき、自然観察等）。
- ・クラブ活動での活用可能性が高い。
- ・つづき博士倶楽部等の既存のしくみの活用が低い（内容がわからず利用しにくい）。
- ・教員側に地域の情報や知識が不足している。

【緑道活用の方向性】

- ・幅広い教科（社会、理科、生活、道徳、総合的な学習の時間、選択科目等）で緑道の活用が可能
- ・教科との適合性が高い緑道を用いた教育プログラム作成が可能
- ・具体的な①プログラム②地域情報（資料）③人材など、地域からの支援が望まれている
- ・地域の活動に子供たちを受け入れる受皿が必要

（※参考 ヒアリングシート） 緑道を活用した環境教育の可能性について

【ヒアリングの主旨】

都筑区の緑道は、「グリーンマトリックスシステム」と呼ばれる計画的な緑の保全・整備がなされたものであり、豊かな生物環境・都市環境を形成する全国でも有数の「緑の資源」となっています。

私たちは、この豊かな都筑区の水と緑を守り育てる活動を続けています。そこで「緑道の魅力向上」の一環として、環境教育の場にもっと緑道を活用してもらい、知る・学ぶ活動を通じて、この貴重な財産を次世代に伝えていきたいと考えています。

このため、環境教育を行っている学校に対し、地域が支援・協力を行っていくための方策を検討しております。今回は、環境教育の主体である学校に対し、その意向や要望を汲みあげ、地域ができることを明らかにしていきたいと考えています。

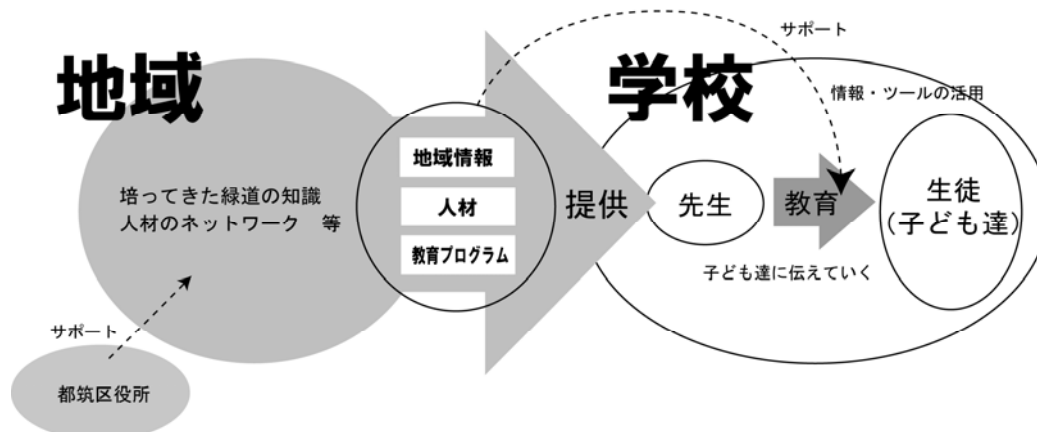
【ヒアリングの項目】

- 現在の環境教育の取り組み、実績 ○緑道活用の可能性 ○実施にあたっての問題点や課題 等
- 環境教育の支援材料としてほしいもの、望まれるもの（情報、人、もの、活動プログラム例 等）
- 地域への要望 等（支援策、体制、要望事項等）

4) 緑道を題材とした教育の方向性

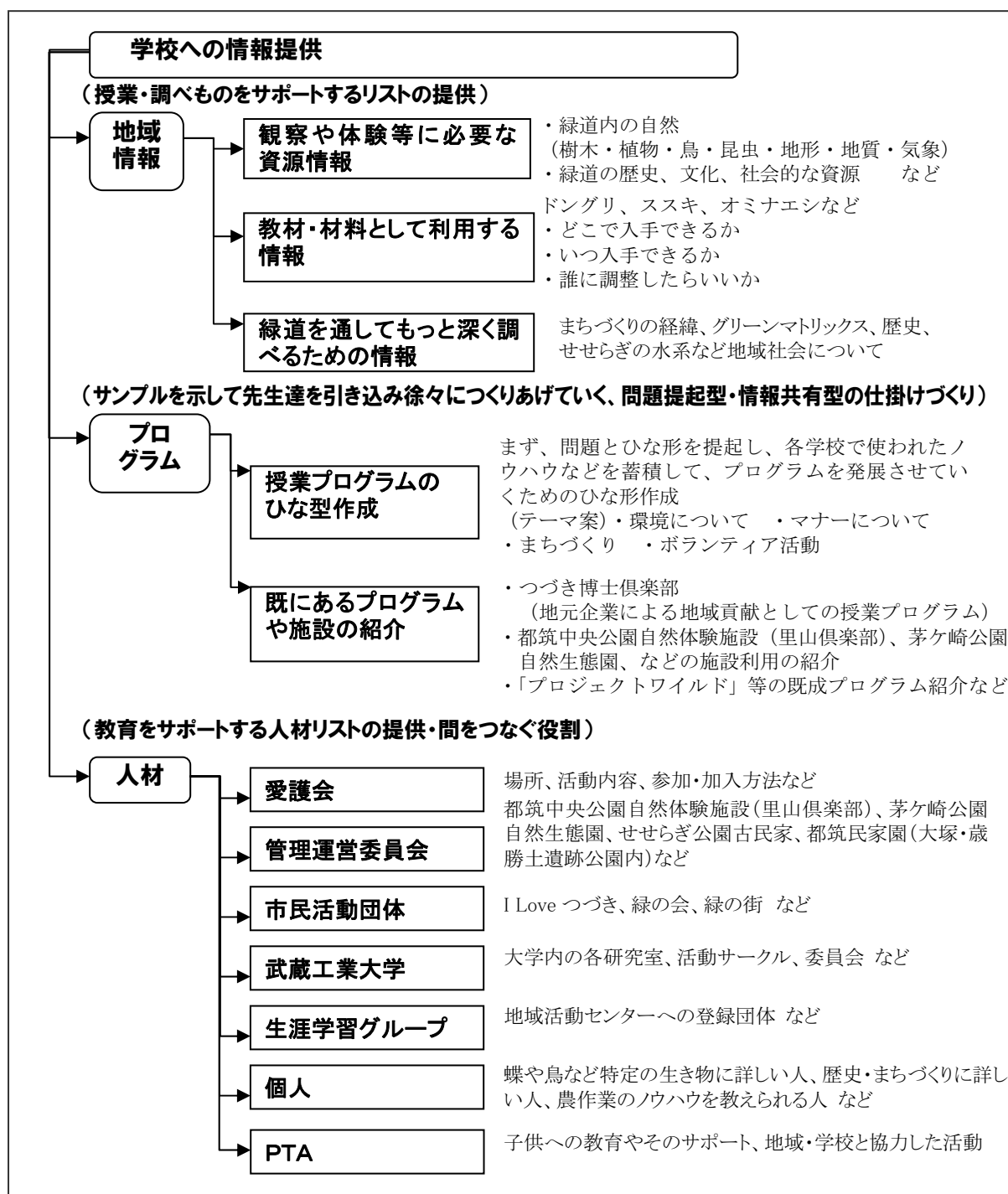
緑道という貴重な財産を次世代を担う子ども達に伝えていくために、①地域情報（文献書籍、地域資源、活動団体等）の提供 ②教育プログラムの提供 ③人材（情報提供、講師）の提供の3つの「情報・ツール」を小中学校へ提供し、先生達がそれを利用して子ども達に緑道の魅力や地域の人達の活動を伝えてもらえるよう、情報や人材等でサポートすることが考えられる。

図ー6. 緑道を題材とした教育活動イメージ



5) 教育プログラムの提案検討

学校側へ地域から支援（提供、協力）していく具体内容は、以下のように整理される。



6) 教育プログラム提案の今後に向けた課題

イ. 教員への啓発

区内へ転任してきた教員への情報提供、教員向け研修（イベント）などの実施

ロ. 地域支援の体制、窓口、資料等の管理運営の仕組み

学校が緑道を活用した教育を行う際、人材・情報等の提供や利用の際のコーディネートを行い地域と学校との間をつなぐ役割として、行政や中間組織が機能していくことが望ましい。

ハ. 子どもの安全確保

地域の人、PTAの参加・協力により、子ども達が安心して学べる環境を整える。

⑨（仮称）つづき緑道委員会のあり方の検討

緑道の進むべき方向や管理のあり方、緑の保全意識、マナー意識向上の具体策など様々な課題を抱える中で、公園愛護会や緑道愛護会、PTA、自治会町内会など地域が連携して解決に向けた取組みを検討する組織「（仮称）つづき緑道フォーラム」の設立に向けた検討をおこなった。

1) 設立趣旨

- ・「区民の共有財産であり、都筑区独自の資源である緑道を本来の魅力が維持・向上するよう、区民で知恵や力を出し合う。」
- ・「イベント等の取組みを通しながら、緑道に関する知識や情報を蓄積し、継続的にフォーラムのメンバーや緑道利用者に発信して、緑道の大切さについて意識向上を図る。」

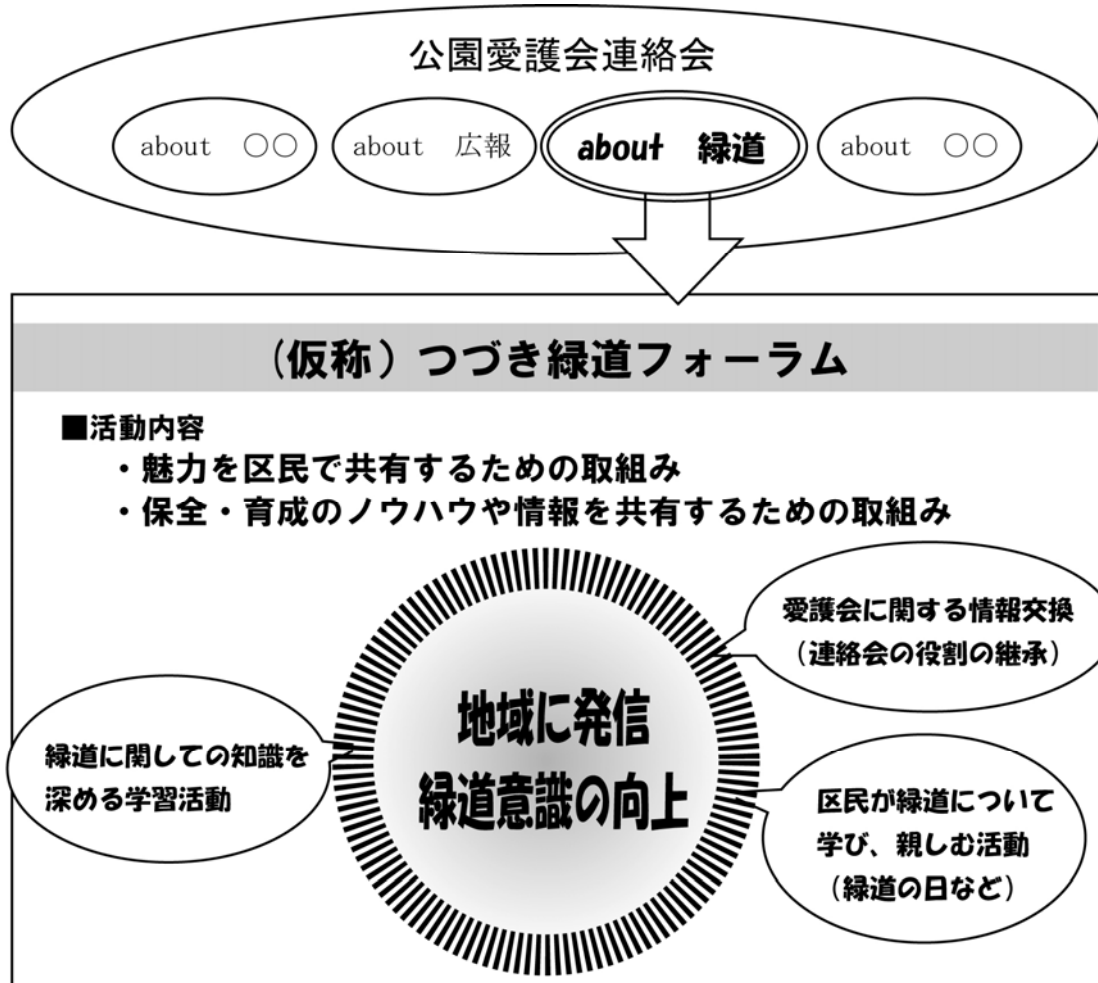
2) 主な活動内容およびメンバー構成

- ・緑道の魅力（計画的な位置づけ・緑道の存在意義など）を広く区民で共有できる取組み
 - ・緑道の保全・育成に関して、ノウハウや情報を共有する取組み
 - ・近隣の愛護会同士の協働した緑道の保全・育成活動を促進する取組み
- ※原則年4回活動する。（必要に応じて臨時会を開催する。）

■メンバー（常時参加）：緑道と緑道に接する公園の愛護会、行政（土木事務所、区政推進課）

■アドバイザー（随時参加）：緑道や水・緑・環境などについてノウハウのある団体
その他、必要に応じてPTA、保育園、幼稚園などの利用者の協力をお願いする。

図ー7.（仮称）つづき緑道委員会のあり方イメージ



⑩ ホームページによる緑道のPR

<http://www.city.yokohama.jp/me/tsuzuki/kusei/mizumidori/ryokudou/ryokudou.html>

平成17年度より、部会員の手作りで作成し、第1部会のホームページを作成し、緑道の魅力や課題などのPRを行った。

その後も各メニューの内容を更新しており、平成18年度では最終的に以下の構成となった。



◆ 緑道は自然の公園

- ・ 緑道の豊かな自然環境のPR

<http://www.city.yokohama.jp/me/tsuzuki/kusei/mizumidori/ryokudou/sizenkoen.html>



◆ 緑道を育てていこう

- ・ 緑道愛護会の活動紹介、及び利用者のマナー啓発

<http://www.city.yokohama.jp/me/tsuzuki/kusei/mizumidori/ryokudou/aigo.html>



◆ 緑道の見どころ

- ・ 緑道の見どころスポットの写真集

<http://www.city.yokohama.jp/me/tsuzuki/kusei/mizumidori/ryokudou/midokoro.html>



◆ 取り組み内容

- ・ 第1部会の会議記録等

<http://www.city.yokohama.jp/me/tsuzuki/kusei/mizumidori/ryokudou/torikumi.html>



◆ 関連リンク集

- ・ 緑道マップ

<http://www.city.yokohama.jp/me/tsuzuki/kusei/ryokudoumap.html>

- ・ 区民の手作りページ“都筑の魅力”探検隊 都筑区の緑道へようこそ!

<http://www.city.yokohama.jp/me/tsuzuki/kumin/ryokudou/index.html>

(4) 平成19年度以降の既存の緑道の更なる魅力アップについての展開

1) (仮称) 緑道委員会による緑道の魅力発信および地域の緑道意識の向上

○緑道の魅力や保全・育成の知識を区民で共有できるよう、様々な取組を進める。

○具体的には、以下の3点を中心に活動する。

- 1：緑道の魅力（計画的な位置づけ・緑道の存在意義など）を広く区民で共有できる取組
※区民が緑道について学び、親しむ活動（緑道の日など）
- 2：緑道の保全・育成に関して、ノウハウや情報を共有する取組
※愛護会に関する情報交換（連絡会の役割の継承）
- 3：近隣の愛護会同士の協働した緑道の保全・育成活動を促進する取組
※複数愛護会の合同での活動の実施
※複数愛護会で協力し、管理方法を検討実施

2) 緑道の魅力を小中学生に伝えていくための緑道教材の作成

○緑道という貴重な財産を、次世代を担う子ども達に伝えていくため、様々な取組を進める。

○具体的には、既存や新規に作成した情報リストやツールなどを小中学校に提供し、先生達がそれを利用して子ども達に緑道の魅力や地域の人達の活動を伝えてもらえるよう、市民団体等の組織がサポートしていく仕掛けを都筑区と協働してつくっていく。

○最終的には、学校と生徒だけではなく、地域の団体などが情報等を活用できるよう、対象を広げていく。

- 1：既存の組織・ツールを活用してもらえるようなPR活動
※既にある組織・個人・ツールなど情報をまとめたリスト等を作成し、提供する。
※季節ごとの動植物、資源、観察ポイント等、緑道の基礎資料を提供する。
- 2：新規の授業プログラムの仕掛けづくり
※授業プログラムのたたき台を作成して学校に提供し、そのプログラムによる授業の情報を学校や団体で共有し、より良い形に作り上げていく仕掛けづくりを行う。
- 3：人材・情報等の提供・共有による環境活動の活性化
※啓発の仕掛けづくりを行っていくことで、既存の活動団体などの活性化も図る。

2-2.

第2部会

南部地域の環境整備

2-2. 南部地域の環境整備	・・・	33
(1) 第2部会4か年作業の流れ	・・・	34
(2) 平成15年度～17年度第2部会の取組	・・・	35
①南部地域の環境整備に向けた活動方針	・・・	35
②魅力資源のリスト作成	・・・	35
③散策コース及びお勤めコースの設定	・・・	35
④都筑区南部水と緑の散策マップの作成	・・・	37
⑤まち歩きイベントの企画・実施	・・・	38
⑥アンケートによる意向調査	・・・	39
⑦散策コースへの案内サイン設置の検討	・・・	40
⑧更なる魅力アップに向けた検討	・・・	43
(3) 平成18年度第2部会の取組	・・・	44
⑨散策コース上の危険箇所の点検及び改良検討	・・・	45
⑩まち歩きイベントの企画・実施	・・・	47
(4) 平成19年度以降の南部地域の環境整備についての展開	・・・	52

2-2. 南部地域の環境整備（第2部会）

第2部会では、港北ニュータウンの南側に広がる既成市街地（南部地域）に焦点をあて、鶴見川や江川といった河川や数多く存在する寺社などを絡めた散策コースの選定および整備方法の検討を目的とし、「南部地域の散策マップの作成」「マップを使ったまち歩きイベントの開催」「散策コースのサイン・休憩スポットなどの整備」の3つを検討テーマとして活動してきた。

◆これまでの主な取組

平成15年度…

- ・南部地域の魅力資源のリスト作成
- ・南部地域の散策ルート及びお勧めコースの設定

平成16年度…

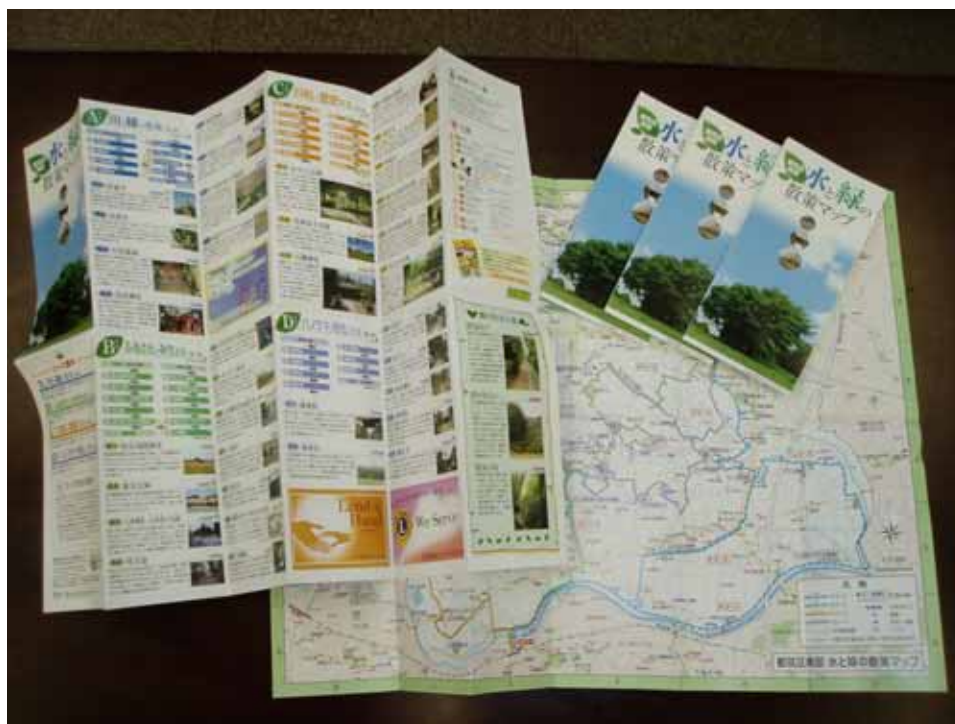
- ・都筑区南部水と緑の散策マップの作成
- ・まち歩きイベントの企画、実施
- ・散策コースへの案内サインの設置検討

平成17年度…

- ・散策コースへの案内サインの設置
- ・南部地域の更なる魅力アップの検討
- ・まち歩きイベントの企画、実施

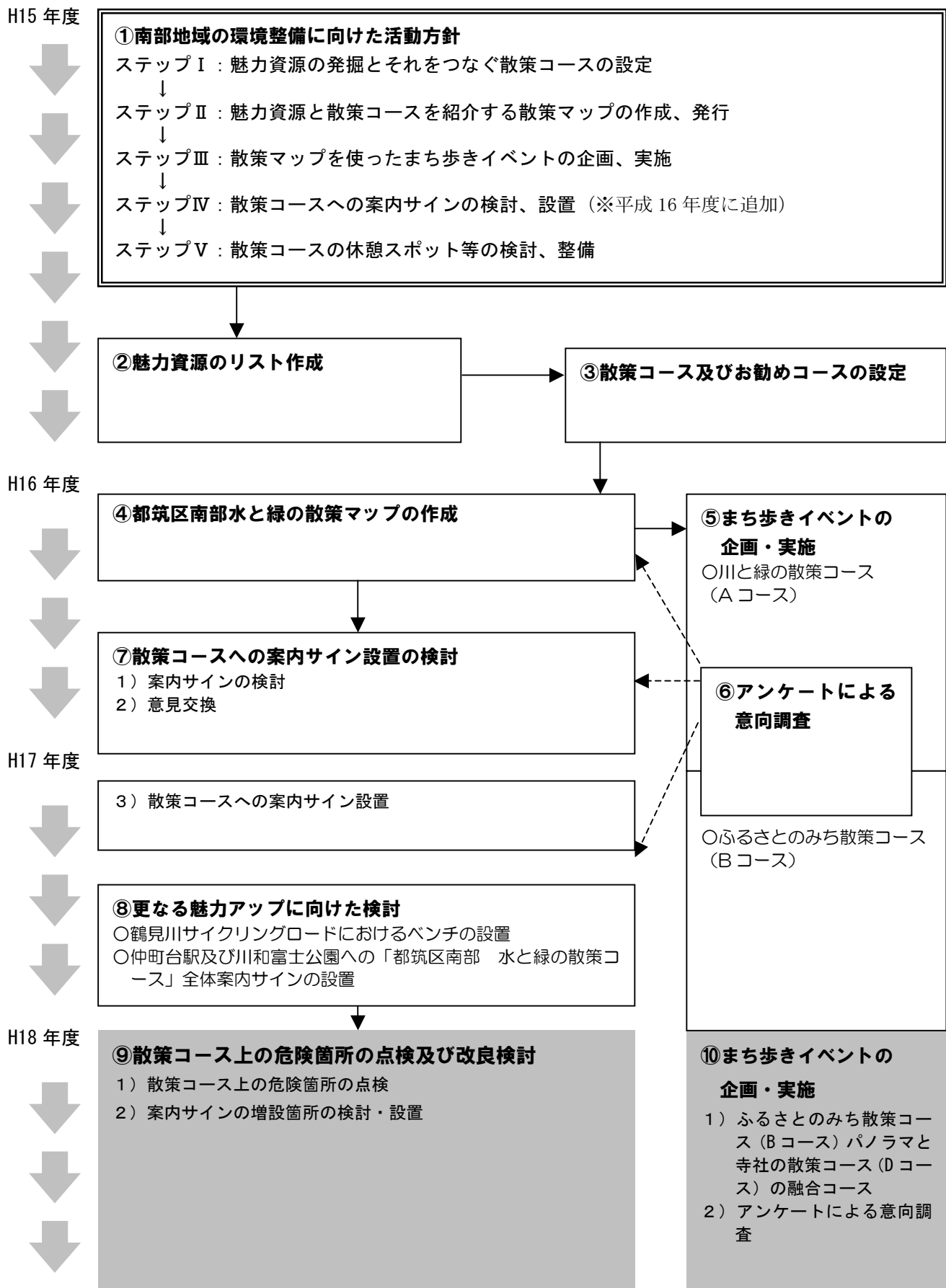
平成18年度…

- ・散策コース上の危険箇所の点検及び改良検討
- ・まち歩きイベントの企画、実施



「都筑区南部 水と緑の散策マップ」

(1) 第2部会4か年作業の流れ



(2) 平成15年度～17年度第2部会の取組

①南部地域の環境整備に向けた活動方針

第2部会では、南部地域の環境整備に向けた活動の基本方針を「魅力の発掘」と「魅力の広報・PR」とし、以下のような段階的な手順を踏んだ活動をおこなった。

ステップⅠ：魅力資源の発掘とそれをつなぐ散策ルートの設定

↓

ステップⅡ：魅力資源と散策コースを紹介する散策マップの作成、発行

↓

ステップⅢ：散策マップを使ったまち歩きイベントの企画、実施

↓

ステップⅣ：散策コースへの案内サインの検討、設置（※平成16年度に追加）

↓

ステップⅤ：散策コースの休憩スポット等の検討、整備

②魅力資源のリスト作成

魅力資源の種別については以下のように分類しながら、全部で84箇所を抽出した。これらの魅力資源の解説については部会員がそれぞれ担当した。

また、散策する際には適当な間隔で手洗いやトイレも必要な事から、それらの項目も追加している。

- ・歴史（次の寺社を除く、庚申塚や碑等を含む）
- ・寺社（神社仏閣）
- ・眺望（見晴らしがよいところ）
- ・公園・緑道（散策ルート沿道の道祖神なども含む）
- ・家並（旧集落・旧街道など面影がある場所）
- ・古民家（修復されたものも含む）
- ・名古木（市指定の名木古木が中心）
- ・トイレ、手洗い等

③散策コース及びお勧めコースの設定

1) 散策コースの設定

散策コースの設定にあたっては、次の点を基本とした。

- ・南部地域をアピールする魅力資源を網の目のようにできるだけ多かつなぐ
- ・北側のニュータウンの台地部から南側の鶴見川流域の低地を縦につなぐ
- ・もともとの居住地である丘陵部に集積する魅力資源を横につなぐ
- ・ニュータウン内の緑道や歩行者専用道路との接続を考える

2) お勧めコースの設定

南部地域のお勧めコースは、上記の4項目に次の4つの基本的な考え方を加え、5コースを設定した。

- ・できるだけ南部地域の特色が感じられるコースを優先する
- ・地域に住む人はもちろん、外から訪れる人も対象にコースを設定する
- ・すでにある駅だけでなく、開設予定の駅を相互につなぐコースをメインとする
- ・南部地域でのバランスを考え、東側、中央、西側、東西のコースを設定する

○ a コース (仲町台駅と鴨居駅をつなぐ東側コース)

大熊川、江川、鶴見川といった開放的な河川空間に沿って、四季折々の花や水鳥などを観賞できるコースである。

○ b-1 コース (葛が谷駅と鴨居駅をつなぐ中央コースの一つ)

池辺農業専用地区、坊方道、浄念寺川せせらぎ緑道など、主に池辺町の魅力資源を楽しめるコースである。

○ b-2 コース (仲町台駅と鴨居駅をつなぐ中央コースの一つ)

折本・東方の農業専用地区をはじめ、あじさい緑道、J A横浜きた総合センター、原谷戸、天満宮、八幡森など、東方の田園・集落景観などを味わえるコースである。

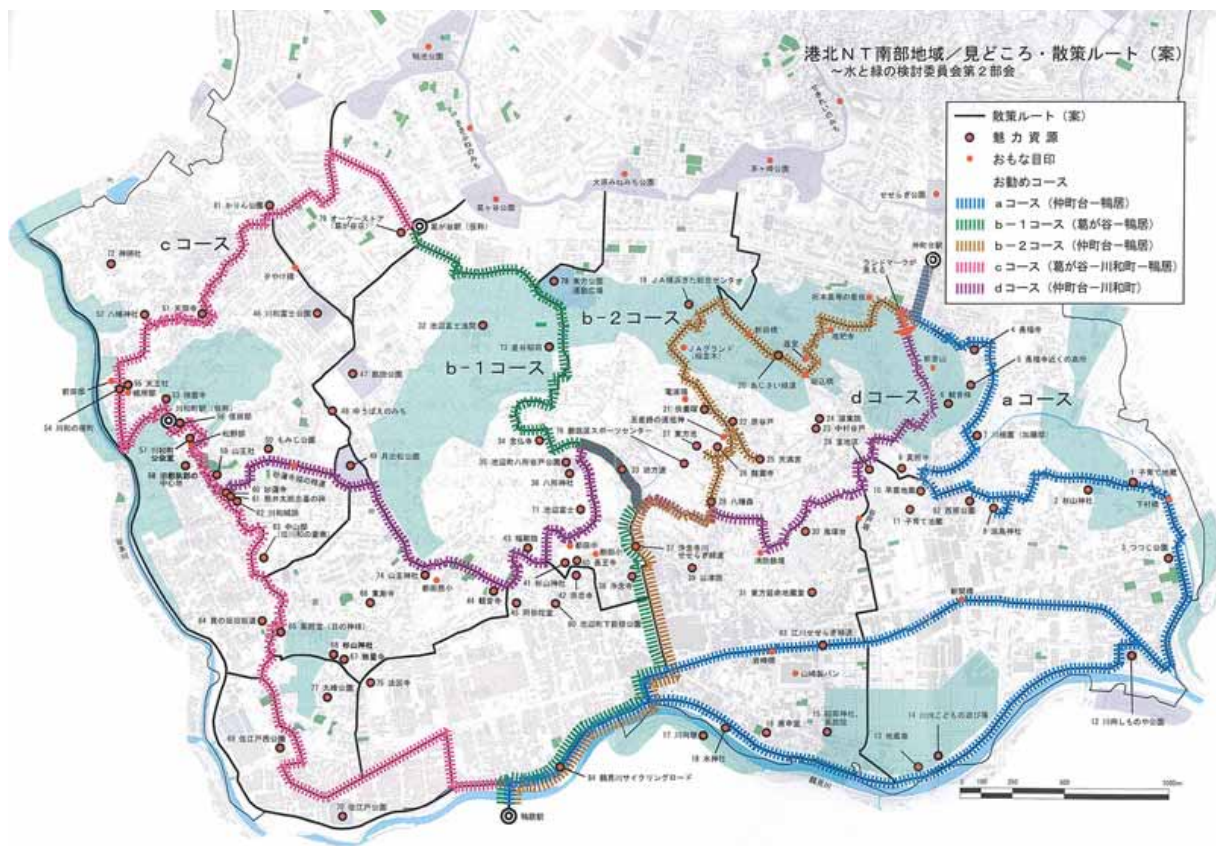
○ c コース (葛が谷駅と川和町駅、鴨居駅をつなぐ西側コース)

八幡神社、川和宿町、瑞雲寺、妙蓮寺、貝の坂など、川和町の歴史資源を心ゆくまで満喫できるコースである。

○ d コース (仲町台駅と川和町駅をつなぐ東西縦断コース)

見晴らしのよい折本農業専用地区や宝地区、鬼塚台などの田園景観、八幡森の集落景観、坊方道や池辺富士、山王神社や妙蓮寺など、南部地域の魅力をトータルに楽しめるコースである。

図-8. 港北ニュータウン南部地域の見どころ・散策コース



④都筑区南部水と緑の散策マップの作成

都筑区南部には歴史ある神社仏閣やのどかな田園風景など、港北ニュータウンとは一味違った魅力がたくさんある。その魅力をもっと広く皆さんに知ってもらい、足を運んでいただきたいという思いと、区制10周年を記念して散策マップを作成した。

作成にあたっては、平成15年度に行った地域の魅力資源の調査結果から今回の散策マップで取り上げる散策コースと資源を決めたうえで、メンバーが分担して解説文を作成した。その後、部会のメンバーが現地の視察や取材を行い、また、区内で活動する「都筑写真倶楽部」に依頼するなどして撮影した写真を選定し、区民手作りの散策マップづくりを行った。

- ・ **配布開始日** 平成16年11月8日（月）から
- ・ **配布場所**
都筑区役所、区内4地区センター（都筑・中川西・仲町台・北山田の各地区センター）で無料配布
- ・ **都筑区南部 水と緑の散策マップの内容**
 - ①情報面と地図面で構成（色覚障害の人に配慮したカラーユニバーサルデザイン）
 - ②鉄道各駅を結ぶ4つの散策コースを紹介
 - A 川と緑の散策コース（仲町台駅～鴨居駅）
 - B ふるさとのみち散策コース（（仮称）葛が谷駅／仲町台駅～鴨居駅）
 - C 川和の歴史散策コース（（仮称）葛が谷駅～（仮称）川和町駅～鴨居駅）
 - D パノラマと寺社の散策コース（仲町台駅～（仮称）川和町駅）
 - ※（仮称）葛が谷駅・川和町駅は平成20年開業予定の市営地下鉄4号線の駅
 - ③神社仏閣や公園など35の地域資源、花暦、趣のある小道などを紹介
- ・ **広告の掲載**
経費節減を目的に、広告を情報面に掲載し、広告料収入を確保
スペース：タテ60mm×ヨコ98mm／枠数：3枠／色数：4色／広告料（1枠税込み）：40,000円

図－9． 都筑区水と緑の散策マップ（オモテ）



⑤まち歩きイベントの企画・実施

都筑区南部の魅力を多くの人に知ってもらうため、「都筑区南部 水と緑の散策マップ」を使い、歴史ある神社仏閣、のどかな田園風景、開放感あふれる水辺空間などが満喫できるまち歩きイベントを企画し、平成17年度までに計2回実施した。

第1回 Aコース（川と緑の散策コース） 平成17年3月26日（土） 参加者 83名
天候：晴れ

仲町台駅～長福寺～真照寺～早苗地藏～淡島神社～江川せせらぎ緑道～庚申堂～水神社～鶴見川サイクリングロード～鴨居駅〔約6.0km〕

※山崎製パン(株)より、パンと飲み物をご提供頂いた。



スタッフ集合



真照寺での説明



鶴見川河川敷

第2回 Bコース（ふるさとのみち散策コース） 平成18年4月1日（土） 参加者 57名
天候：晴れ

仲町台駅～あじさい緑道～JA横浜きた総合センター～原谷戸～中村谷戸～天満宮～都筑スポーツセンター～八幡森～浄念寺川せせらぎ緑道～鶴見川サイクリングロード～鴨居駅〔約6.8km〕

※山崎製パン(株)より、パンと飲み物をご提供頂いた。



八幡森

浄念寺川せせらぎ緑道

⑥アンケートによる意向調査

まち歩きイベントをおこなった際に、ゴール地点で散策コースや散策マップ等に関するアンケート票を配布し、その場で回答してもらった(第1回は79名、第2回は57名 合計136名)。

1) 参加者の属性

- ・男女の内訳はほぼ半々で、年齢は60歳代(70名)が最も多く、70歳代(39名)、50歳代(18名)と合わせて中高年層で94%を占めた。
- ・区外からの参加者は14名のみで、多くが都筑区民であった。また、区内南部地域からは計58名、区内南部地域外からは計60名と、区内の各地域から参加者が集まった。(無回答4名)

2) コース設定、散策会の内容について

- ・第1回のコースは約6kmで午前中に終了する散策会であったが、短かったという人が12名いたものの、多くの人(67名)はちょうどよかったと回答している。
- ・第2回のコースは約6.8kmであったが、55名(96%)の方がちょうど良いと回答しており、散策コースの距離については一定の評価を得た。
- ・内容については、128名(約94%)が満足感(満足+やや満足)を表明している。

3) 主な感想(自由記入)**○良かった点など****【第1回】**

- ・色々お寺、地蔵尊などの説明をしてもらい、とてもわかりやすく良かった/説明をさせていただいて新しい発見がありとても楽しかったです/地元に住んで40年。初めて歩いた道に感激しています/個人では行けない名所や景色が見れた

【第2回】

- ・歩く距離、速度がちょうど良かった

【共通】

- ・自然に触れられてとてもよかった/天候に恵まれとても気持ちよかった/普段見慣れた町がちょっと寄り道するとまるで見知らぬ所に見えたところがとても良かった/山崎パンのサービスもありがたかった

●工夫してほしい点など**【第1回】**

- ・途中の桜並木が開花が遅れていたのが残念でした/昼食がとれる場所を入れてくれると良かった/少し休憩時間がほしかったと思います/班の編成はできれば10~15人くらいにして、説明をもっと詳しくしてほしい/鶴見川サイクリングロードは長すぎた

【第2回】

- ・社寺めぐりは入れてほしかった/出発時間をきちんとしてほしい/桜をもう少し多く見たかった

4) 他のコースの散策会への参加意向

- ・ほとんどの人(130名)が参加意向を持ち、希望コースは第1回(Aコース)まち歩きイベントでBコース40名、Cコース31名、Dコース31名と、第2回(Bコース)まち歩きイベントでAコース17名、Cコース20名、Dコース17名と、いずれのコースも満遍なく人気があることがわかった。

5) 散策マップの内容について

- ・持ち運びやすさや見やすさといった使い勝手については、大多数の119名(約87%)の方から良いという評価をいただいた。
- ・地図上で自分の位置を確認できたかという問に対して100名(約73%)の方はできたと回答しているが、3割近い人が確認できてないことから、工夫の余地もある。
- ・よくできているという意見の一方で、町界の明示、ポケットへの入れやすさなどの提案があった。

⑦散策コースへの案内サイン設置の検討

1) 案内サインの検討

散策マップに掲載されている散策コースの散策環境の向上を目的とし、別途専門業者の調査結果報告をもとに、部会内で意見交換しながら、案内サインの設置検討がおこなわれた。

a) サイン配置の基本的な考え方

配置の基本的な考え方については次の方針がまとめられた。

- ① ルートを間違えやすい分岐点や交差点・広場に設置する。
- ② 一本道であっても周囲に目印となるものがないところに設置する。
- ③ 迷う恐れはないが、移動距離が長いルートに案内サインを優先設置する。

なお、デザインについては、安心（明瞭な指示、ルート距離の表記、散策マップとの連動等）、簡単（文字サイズや色を使った高い視認性）、親しみ（絵文字、矢印等の意匠を工夫）を基本とすることが方針化された。

b) 案内サイン設置箇所

現地視察やその後の意見交換により、Aコース5箇所、Bコース5箇所、Cコース5箇所、Dコース3箇所の4コース全体で18箇所の案内サイン設置が提案された。

c) 道の矢印表記デザイン

ルートと進行方向の表示を基本に、4コースの認識機能、周辺施設案内機能を表記したデザインとする考え方から、真上や斜めからの俯瞰、矢印の表記方法などに応じて、4つの選択案が提示された。

自立埋設型（1ポール、2ポール）と取付型（標識、ガードレール、私有壁、電柱）が提案され、設置場所の条件からふさわしい形態が提示された。選択案としてはデザインの自由度が高い自立埋設型が多いが、私有壁を活用する形態も比較的多いスタディ結果となっている。

自立埋設型



ポール取付け型



壁面取付け型



電柱巻付け



案内サインのデザイン例

2) 第2部会内での意見交換

調査結果を基にした意見交換では、主に次のような意見が出された。

- ・わかりやすさという視点からすると、複数方向からの見やすさや散策マップと同じ記号の採用など工夫が必要ではないか。
- ・自立型でも1本足型と2本足型をどのように決めるのかとの質問に対して、コスト面では差がないので、2本足を基本に1本足を補足的に設置するという考えがよいとのアドバイスがされた。
- ・案内サインの色や素材の耐用年数はどのくらいなのかとの質問に対して、以前のシルクスクリーン印刷と違い特殊フィルム印刷は安くて更新しやすいが耐用年数は3～4年と短く、維持管理する組織が欠かせないとのアドバイスがあった。
- ・C、Dコースは距離が長いコースなので、それぞれ5箇所、3箇所は少なすぎるのではないか。次年度は部会でもう少し精査して、設置箇所を決定する必要がある。（Cコースは最終的に8箇所に増加）
- ・案内サインの著作権を誰がもつかによって維持管理のコストはかわってくるので事前によく協議しておくとともに、案内サインの台帳を作成しておきそれをもとに管理する仕組みを作っておく必要がある。

3) 散策コースへの案内サイン設置

現地に案内板見本を掲げ、見え方や表示内容、デザイン等の比較検討を行った上で、全 21 箇所に案内サインを設置した。

表-3. 水と緑の散策コース 案内サイン設置箇所・方法

サインNo.	設置箇所	設置方法				備考
		自立型	取付型			
			カーブミラー	ガードレール	私有壁	
A-①	ABD コース分岐点 仲町台 4-21	◎				道路占用 ※A・B・D コース重複箇所
A-②	長福寺高台地点 仲町台 4-10			◎		道路占用
A-③	早苗地藏付近 折本町 1388		◎			道路占用
A-④	淡島橋～淡島神社 折本町 1453				◎	民地
A-⑤	新大熊橋付近 大熊町 105	◎				河川占用
B-①	折本町 2284 付近 折本町 2284			◎		道路占用
B-②	八幡森付近 東方町 753				◎	民地 ※B・D コース重複箇所
B-③	八幡森～緑道へ至る 東方町 750	◎				民地 ※B・D コース重複箇所
B-④	都田幼稚園下 池辺町 2876	◎				道路占用 ※B・D コース重複箇所
B-⑤	念仏寺付近(原庭バス停) 池辺町 2181				◎	民地
C-①	川和町 1666 付近 川和町 1666				◎	民地
C-②	川和小学校前 川和町 1500				◎	民地
C-③	川和町 1204 付近 川和町 1204			◎		道路占用
C-④	C・D コース分岐点 川和町 1204				◎	民地 ※C・D コース重複箇所
C-⑤	川和団地内 川和町 987-2	◎				民地
C-⑥	川和団地下バス停付近 川和町 927	◎				民地
C-⑦	貝の坂旧街道入口 川和町 870	◎				民地
C-⑧	川和町 9 付近 川和町 9			◎		道路占用
D-①	折本町 1809 付近 折本町 1809	◎				道路占用
D-②	坊方道～都田中に至る 池辺町 2102				◎	民地 ※B・D コース重複箇所
D-③	都田西小学校前 池辺町 2453	◎				学校施設

図 - 10 . 水と緑の散策マップ 案内サインの設置場所



⑧更なる魅力アップに向けた検討

南部地域の魅力を発信する散策マップを作成し、今後もまち歩きイベントを行っていく一方で、より南部地域の魅力が発信できるようにするための作業方針を改めて検討した。

1) 散策ルート等に関する課題の抽出

課題	内容	方向性
散策コース上の危険箇所改良検討	散策コース上の危険箇所（信号のない道路の横断、歩道のない道路、未舗装道路等）の改良提案に向け、現地確認を行う。	平成 18 年度実施
休憩スポットの整備検討	散策コース上へちょっとした休憩スポット（ベンチ、日よけ、トイレ等）の設置について検討する。	平成 17 年度実施
散策ガイドの養成	散策コースを利用した散策会の企画から実施までを行うボランティア団体の設立・支援を行う。	北部マップ完成後、都筑区全体で実施してはどうか。
散策コースの再検討	散策マップを改訂、増刷するため、散策コースの点検を行う。	毎年実施
川和団地隣接の樹林地を散策路として整備	川和団地に隣接する樹林地（法人所有地）を開放し、散策路として整備する。	部会での検討は行わない。 (地元の意向と、まちづくりの方向性に任せる。)

2) 休憩スポットおよび全体案内サインの整備

休憩スポット等の整備については早期に実施可能となったため、要望の多かった鶴見川サイクリングロードにベンチを設置した。また、A・B・Dの散策コースの起点となる仲町台駅とCコース上の川和富士公園に、既存の案内サイン基台を利用した「都筑区南部 水と緑の散策コース」の全体案内サインを設置した。



鶴見川サイクリングロードへのベンチの設置
 設置場所：都筑区川向町9番地先(水神社付近)
 鶴見川サイクリングロード沿い
 設置物：スツール 5基



仲町台駅への「都筑区南部 水と緑の散策コース」全体案内サインの設置
 設置場所：市営地下鉄仲町台駅前広場
 設置物：全体案内サイン 1基

3) 散策マップの改訂

散策環境の向上を図るため、全 21 箇所に案内サインを設置したことから、施設名及びバス停や信号の名称等の最新情報も反映させ、平成 17 年度末に散策マップを改訂した。

(3) 平成18年度第2部会の取組

平成18年度は散策コース上の危険箇所の点検及び改良の検討とまち歩きイベントの企画、実施等を行った。

<p>第1回検討会 平成18年5月31日(水)</p> <p>●平成18年度活動予定について</p>
<p>危険箇所の点検・散策コース再検討(Aコース)</p> <p>※平成18年6月28日(水) 平成18年7月5日(水)</p>
<p>危険箇所の点検・散策コース再検討(Bコース)</p> <p>※平成18年7月5日(水)</p>
<p>危険箇所の点検・散策コース再検討(Cコース)</p> <p>※平成18年6月20日(火) 平成18年6月30日(金)</p>
<p>危険箇所の点検・散策コース再検討(Dコース)</p> <p>※平成18年7月7日(金)</p>
<p>第2回検討会 平成18年7月27日(木)</p> <p>●散策コースの点検結果について</p> <p>●まち歩きイベントの企画について(1)</p> <p>・実施時期、散策コースの素案</p>
<p>第3回検討会 平成18年9月6日(木)</p> <p>●まち歩きイベントの企画について(2)</p> <p>・詳細ルート、確認事項等</p> <p>●散策コースの点検結果について</p> <p>・点検時に気づいた事項の確認</p> <p>・サインの増設箇所について</p>
<p>第4回検討会 平成18年11月17日(金)</p> <p>●まち歩きイベントの企画について(3)</p> <p>・応募状況、運営要領等</p> <p>●散策コースの改良について</p>
<p>まち歩きイベント「ふるさとのみち散策コース～パノラマと寺社の散策コース」</p> <p style="text-align: right;">平成18年11月25日(土)</p> <p>●センター南駅～葛ヶ谷公園～東方公園～都筑スポーツセンター～真照寺～仲町台駅</p> <p>●アンケートの実施</p>
<p>第5回検討会 平成18年12月20日(水)</p> <p>●4年間の活動報告のまとめ</p>

散策コース上の危険箇所の点検及び改良検討

1) 散策コース上の危険箇所の点検

平成17年度に更なる魅力アップに向けた検討を行った中で、課題となった散策コース上の危険箇所（信号のない道路の横断、歩道のない道路、未舗装道路等）の改良提案に向け、全てのコースの現地確認を行った。主に安全配慮の視点から課題を抽出し、案内サインの増設等の改良に向けた検討を行った。

表-3. 散策コース点検結果一覧

	コースの変更	危険箇所の改善		案内サインの増設候補地	備考・意見交換等
		押しボタン信号機設置	その他		
Aコース 川と緑の散策コース	・折本の大熊川右岸周りコース 橋を渡らず左岸側を歩く（簡略化） ・淡島神社裏の階段（安全配慮）	・観音様前交差点 ・大熊地区の緑産業道路 交差点	・案内サインA5は草で見えない。	・長福寺に向かう角 ・西原公園脇の曲がり角	・案内サインA-5付近の草刈については、大熊町内会で定期的に草刈をおこなうこととなった。
Bコース ふるさとのみち 散策コース		・葛が谷オーケーストア側の緑道からタンタタウン側への横断歩道の先、約100m（コース外）	・葛が谷オーケーストア側の緑道沿いの残土置場の鉄板が膨らんでいる。	・星谷浅間神社周辺 ・東方公園から星谷稲荷への入口部分の曲がり角	・タンタタウン前の横断歩道の設置については、今後、地下鉄4号線が開通して葛が谷駅が開業すれば様々な整備が進むと思われる。 ・葛が谷の残土置場については、行政も把握しているが建築物でないため、現時点では法律上の指導はできない。
Cコース 川和の歴史散策コース	・八幡神社周辺の細道（簡略化） ・慈恩寺西側の階段 なだらかな坂を通り、石橋交差点を 経由して歩く（安全配慮） ・江川せせらぎ緑道佐江戸公園隣接部 江川せせらぎ緑道を途中で曲がり 鶴見川サイクリングコースを歩く （景観）		・貝の坂旧街道は未整備のため滑りやすい。	・貝の坂交差点からの入口	・加賀原の日立の跡地にマンションが建設されるが、案内サインC-5から貝の坂旧街道をつなぐ、昔存在したふみわけ道が復活されると散策コースとして適している。
Dコース パノラマと寺社の 散策コース	・源東院をコースから外す（安全配慮） ・宝地区～鬼塚台の坂（安全配慮）		・都田中学校裏側のパレーコート入口扉破損	・神社地区の曲がり角 （都田小学校東側） ・福聚院方面から左折する入口	・都田中学校裏のフェンスについては民有地であり、中学校側では対応できない。

2) 案内サインの増設箇所の検討・設置

散策コースの点検等の結果7箇所が候補地となったが、以下の考え方にに基づき4箇所のサイン設置を行った。

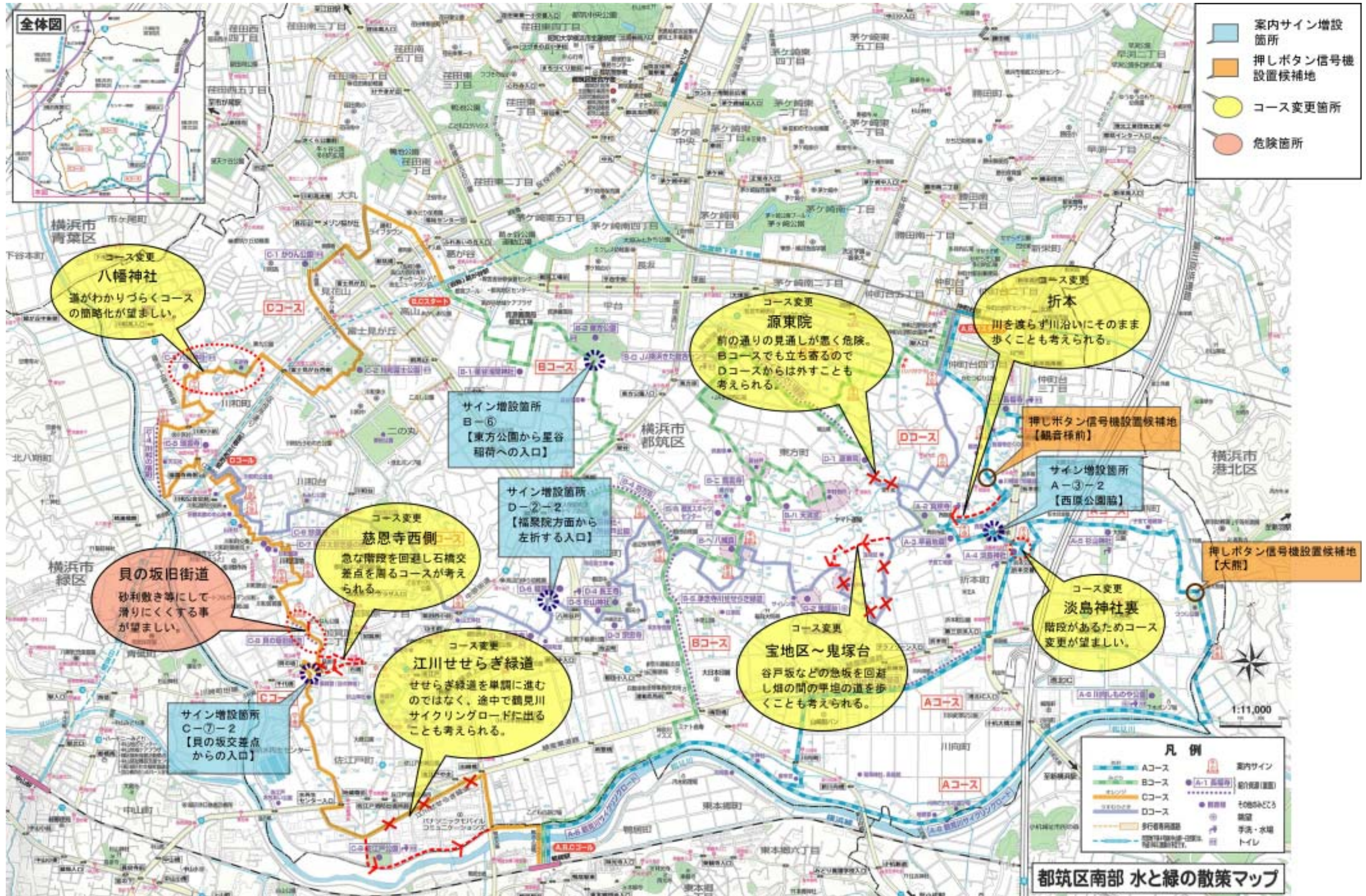
- | |
|--|
| 1. 曲がり角に目印となる建物等がなく、見落としやすい場所
2. 独立型・ポール取り付け型・壁面設置型のいずれかで案内サインの設置が可能な場所 |
|--|

増設に際しては、通行の支障にならない等の必要な配慮を行った上で、より一層見やすくなるよう案内サインのサイズを従来のものより大きくした。

表-4. 平成18年度サイン増設箇所

サインNO	設置箇所	設置方法	備考
A - 2	西原公園脇	カーブミラー	道路占用
B -	東方公園から星谷稲荷への入口	ガードレール	
C - 2	貝の坂交差点からの入口	消火栓標識柱	
D - 2	福聚院方面から左折する入口	私有壁	民地

図 - 11 . 散策コースの危険箇所及び改良検討



⑩まち歩きイベントの企画・実施

1) 第3回まち歩きイベントの概要

都筑区南部の魅力を多くの人に知ってもらうためのまち歩きイベントの第3回として、平成18年度は、より多くの区民の方が参加できるよう、市営地下鉄の「センター南駅」「仲町台駅」を起終点とした「ふるさとのみち散策コース（Bコース）～パノラマと寺社の散策コース（Dコース）」の融合したコースを設定し、11月25日（土）にまち歩きイベントを開催した。

第3回 「ふるさとのみち散策コース」＋「パノラマと寺社の散策コース」融合コース

平成18年11月25日（土） 参加者 95名

天気：晴れ

センター南駅前すきっぷ広場～葛ヶ谷公園～東方公園～星谷稲荷～坊方道～都筑スポーツセンター～鬼塚台～真照寺～折本～仲町台駅〔約7.7km〕

※山崎製パン(株)より、パンと飲み物をご提供頂いた。

表－5. 第3回まち歩きイベントのスケジュール

通過時刻の目安	経由地等	注意事項等
9:00	すきっぷ広場	
約20分		
9:20	葛が谷公園【見学】【説明】	シャッフルボードコートを見学・説明 ※トイレ有り(他に地区センターやOKストア内にも有り)
約20分		
9:40	葛が谷地域ケアプラザ	本来のルート(緑道)を通る。
約15分		
9:55	星谷浅間神社【見学】【説明】	上りの階段は急なので注意。 頂上は狭いため1グループずつ上がる。
約10分		
10:05	東方公園	【トイレ休憩】約10分
約9分		
10:24	星谷稲荷【見学】【説明】	
約7分		
10:31	星谷交差点	コンビニ有り
約10分		約10分
10:41	坊方道【説明】	車が頻繁に来るので注意。 ※トイレがどうしても必要なら「ヒルトップ池辺」で借りる
約20分		
11:01	都田幼稚園<急坂>	
約15分		本来のルートをショートカット。八幡森はスポーツセンターの後。
11:16	都筑スポーツセンター	【トイレ休憩】【パン飲み物配布】約15分 ※トイレはここが最後
約11分		
11:42	鬼塚台<急坂>【説明】	
	宝地区の畑地帯	
12:00	真照寺【説明】	境内には入らない。 ※トイレ有り
約10分		
12:10	折本D-1サイン	バス通りに突き当たったらすぐ横断。 横断時要注意。
	折本<急坂>	最後の坂
12:25	仲町台駅	

合計	約3時間30分
----	---------



都筑工場付近



星谷稲荷

2) 第3回まち歩きイベントアンケートによる意向調査

まち歩きイベントをおこなった際にゴール地点でまち歩きや散策コース、散策マップ等に関するアンケート票（下票）を配布し、その場で回答してもらった〔参加者95名（完歩93名）にグループごとに回答を依頼。回答者は58名〕。

図-12. 第3回まち歩きアンケート用紙

「水と緑の散策会」に関するアンケート ご協力をお願い

今後の参考にさせていただきますので、下記のアンケートにご協力ください。

グループ人数()人

問1 本日の散策会のコース設定はいかがでしたか？

- 1 長かった 2 ちょうどよかった 3 短かった
4 その他()

問2 本日の散策会の内容はいかがでしたか？

- 1 満足 2 やや満足 3 やや不満 4 不満
5 その他()

問3 問2で○をされた理由や感想を自由にご記入ください。

「この点がよかった」「この点をもっとこうの方がよかった」など

問4 「水と緑の散策マップ」に掲載する他のコースの散策会が開催された場合、参加したいと思われますか？

- 1 参加したいと思う（希望するコース:Aコース・Bコース・Cコース・Dコース）
2 参加したいと思わない

問5 「水と緑の散策マップ」の内容についてお伺いします。

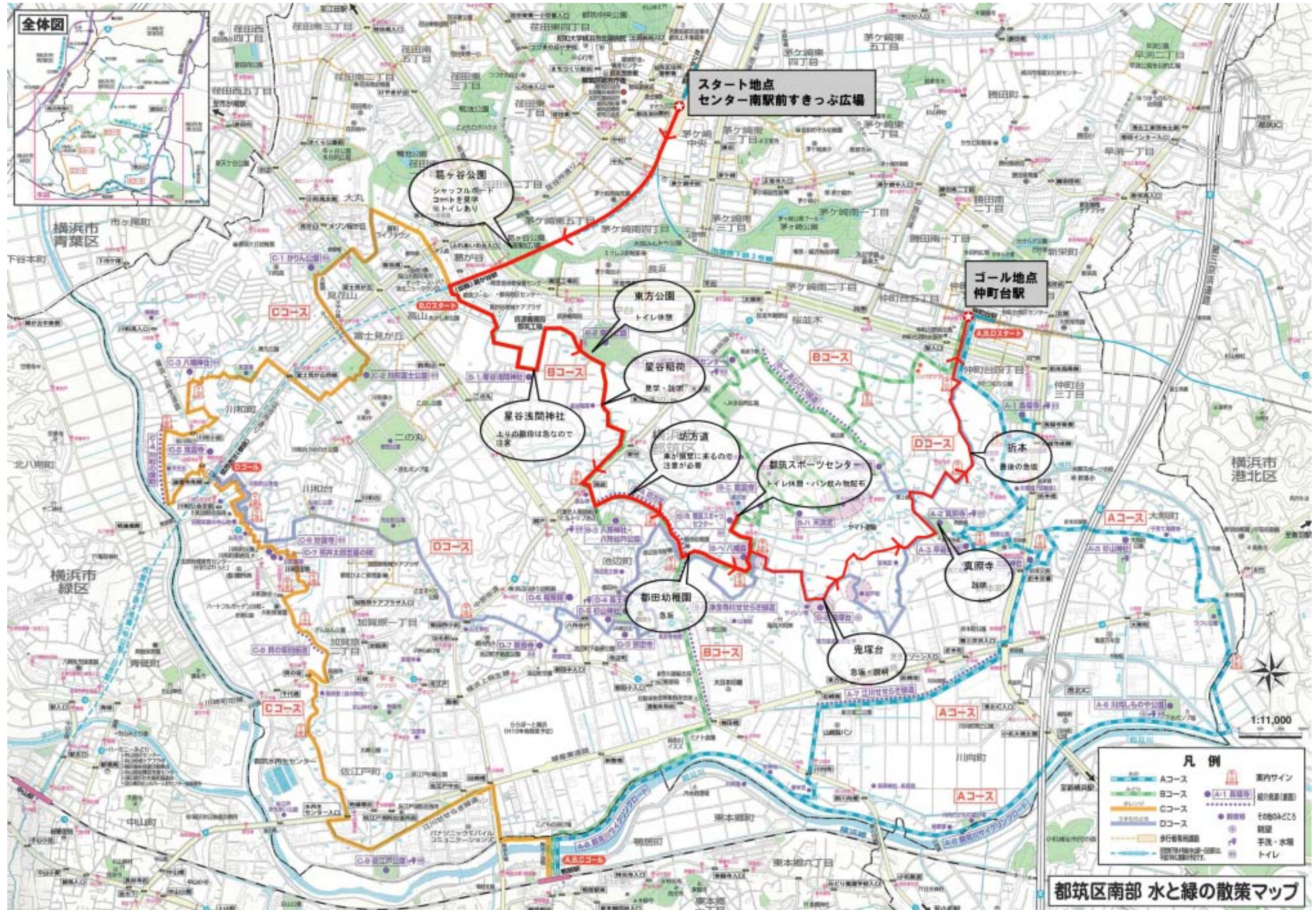
- 1 使い勝手(持ち運びやすさ、見やすさ)はいかがですか？ → [良い・悪い]
2 歩きながら、地図上でご自身の位置を確認できましたか？ → [できた・できない]
3 その他マップについてのご意見等ありましたら自由にご記入ください。

***グループの方は、代表の方がご記入ください。**

	～30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～
男					
女					

お住まいはどちらですか？ 1 都筑区(町名) 2 都筑区外(区)
ご協力ありがとうございました。

図 - 13 . 第3回まち歩きイベントルートマップ



a) アンケートの概要

イ. 参加者の属性

- ・男女はそれぞれ40名、55名で、年齢は最も多かったのが60歳代(40名)で70～80歳代(19名)、50歳代(18名)と今回も中高年層が多く81%を占めた。
- ・一方で子供とともに30～40代の方(12名)も参加しており、参加者の年齢層が広がった。
- ・区内の各地域から参加者が集まった。

ロ. コース設定、散策会の内容について

- ・コースは約7.7kmで約3時間30分の散策会であったが、「長い」「短い」と回答する人がそれぞれ2名いたものの、残る54名(約93%)はちょうどよかったと回答している。
- ・内容については、56名(約96%)が満足感(満足+やや満足)を表明しており、「やや不満」と回答した人は2名(グループ)だけであった。

ハ. 主な感想(自由記入、問3)

○良かった点など

- ・ひとりだったら気づかないところを通り散策できて良かった。/ガイドさんの説明を聞きながら散策できて充実した一日であった。/都筑の奥深い生活環境を知ることができ、有意義な時間を過ごせた。案内の方が上手であった。/近くに住んでいるが星谷浅間神社や鬼塚台など教えてもらわないとわからないところに行けたのが良かった。/なかなか行けない「いなか道」を歩いて満足。/秋のコースとしては良かった。/人も車も少ない山道は久しぶり。/名所旧跡をもう少し紹介してほしい。/緑が多い散策道で気分が爽快だった。/普段歩けない農道を歩いて面白かった。/知らない土地、初めての道、都筑の良さを再確認。/違う都筑が見られた。/緑道沿いのコースと違ったところを歩いて良かった。/きめ細かい配慮があり、距離やコースもちょうど良い。/都筑区に住んで3年だが、こんなに自然が残っていることを知り驚いている。/ほどほどの人数での行動で良かった。

●工夫してほしい点など

- ・ガイドはもう少し詳しくしてほしい。/洋式トイレを増やしてほしい。/名所旧跡をもう少し紹介して欲しかった。/歩く道の脇にゴミが散乱した場所が多かった。/紅葉シーズンなので、もっと紅葉が見れるコースでも良かったのでは。/集合時点で受付を始めた方が良い。/今日のコースが示されている簡単な地図があれば良いと思う。/受付の際は最初から並ばせること。/ガイドさんの説明が一部にしか聞こえなかった。/

ニ. 他のコースの散策会への参加意向(問4)

- ・全員(58名)が参加意向を持ち、希望コースはAコース23名、Bコース15名、Cコース23名、Dコース19名(複数回答あり)といずれのコースも満遍なく人気があることがわかった。

ホ. 散策マップの内容について(問5)

- ・持ち運びやすさや見やすさといった使い勝手については、55名(約95%)から良いという評価をいただいた。
- ・地図上で自分の位置を確認できたかという問に対して44名(約76%)の方はできたと回答している。これは前2回のアンケート結果とほぼ同率である。
- ・「案内があったので地図上で位置が把握できた。」「よくできているこのままで良い。」「山田富士の方も是非。」という意見の一方で、「水と緑という点では少し物足りない。」といった意見や「文字が小さい。」「曲がる場所の目印がほしい。」などのマップの見やすさについての改善提案があった。

b) 第1回～第3回のまち歩きイベントアンケートのまとめ

3回のまち歩きイベントを通して、全体的に中高年層の参加が目立ったが、第3回のまち歩きイベントでは子供も含め、初めて20代～30代の若年層が参加した。今後は、さらに若年層に参加者を広げていく試みが求められる。

コース設定については、「桜や紅葉等の季節が感じられるコースに」「水と緑という視点の強化」という意見も一部あったが、歩く速度や時間、内容等とともに、概ね参加者の満足感が得られた結果となっている。

特に都筑区の知られざる魅力に触れられたことを評価する回答が多く、若年層の新住民が多い都筑区の特徴を考えると、今後もこれまでのように「魅力資源の探訪」や「ガイドによる説明」などを中心としたまち歩きイベントの開催が期待される。

しかしながら、ガイドによる説明については、参加者の一部で聞こえない人が出たことやもう少し詳しく説明して欲しい等の要望もあり、今後は説明する場所や、どの世代の参加者でもより楽しく知識を深められるような説明の仕方などの試みが求められる。

散策マップについては、全般的に「使い勝手が良い」の回答が多く、同様の北部地域の散策マップ作成を希望する回答も見られた。

一方で「地図上でコースが追えなかった。」などと回答する人も全体の2割ほどおり、マップの表示などに工夫の余地もある。

(4) 平成 19 年度以降の南部地域の環境整備についての展開

水と緑の散策マップが作成され、これまでに3回のまち歩きイベントが開催された。都筑区は新しく移り住んだ住民が多いため、その参加者の多くが「都筑の魅力を知ることができた」と評価し、また、ほとんどの参加者がまち歩きイベントで歩いたコース以外にも興味を示している。

水と緑の散策マップの作成とまち歩きイベントの開催は、「都筑区南部の魅力を多くの人に知ってもらおう」という当初の目的を果たし、より多くの人々に都筑区への愛着をもってもらおうことに大きく貢献している。

今後も、これまでの活動を基本に、より幅広い世代がまち歩きイベントに参加し、都筑区の魅力を知るとともに、愛着を深め、さらにその魅力を次世代に引き継いでいくことで、人々の手で都筑区の魅力をいつまでも残していけるような取り組みを進める。

以上の事を念頭に置きながら、平成 19 年度以降は、「まち歩きイベントの開催」と「散策マップの改訂」の2つを中心に取り組む。

1) まち歩きイベントの実施

- 引き続き、水と緑の散策マップを活用した都筑区の魅力伝えるまち歩きイベントを実施する。
- 同時に、子どもから大人までの幅広い世代で南部地域の魅力を共有していくため、小中学校を巻き込んだ子ども達の参加などを図ることが望ましい。また、第2部会は平成 18 年度末をもって解散するが、今後も都筑区南部の魅力を多くの人に知ってもらおうイベントとして継続できるよう、まち歩きイベントの参加者の中からの散策ガイドの育成や既存の関連する他団体との連携なども考慮していくべき課題である。

2) 「都筑区南部 水と緑の散策マップ」の改訂

- 平成 20 年に市営地下鉄 4 号線の開業が予定されており、これに伴い（仮称）川和町駅や（仮称）葛が谷駅の周辺整備が想定されることから、平成 18 年度に抽出した課題も踏まえて、歩行者がより安全で、ルートがわかりやすく、歩き易い散策コースとなるよう案内サインの追加も含め散策マップの見直しを図る。

2-3.

第3部会

早渕川流域の環境整備

2-3. 早渕川流域の環境整備	・・・	55
(1) 第3部会4か年作業の流れ	・・・	56
(2) 平成15年度～17年度第3部会の取組	・・・	57
①早渕川流域の全体像・性格付け	・・・	57
②早渕川流域の魅力アップ方針	・・・	57
③南北緑道連結ルートの選定	・・・	58
④南北緑道をつなぐ魅力あるルートの市民参加型の探索と検討	・・・	58
⑤早渕川の散策環境向上と水路敷を活用した提案	・・・	59
⑥環境創造局と連携したやさきのみちせせらぎ整備実施設計	・・・	61
⑦やさきのみちせせらぎ整備に向けたイベントの開催	・・・	61
(3) 平成18年度第3部会の取組	・・・	62
⑧南北緑道連結東側ルートの策定	・・・	63
⑨中央地区親水広場オープニングイベントの検討	・・・	65
⑩早渕川親水広場愛護会の設立	・・・	65
⑪ホームページによる早渕川のPR	・・・	66
(4) 平成19年度以降の早渕川流域の環境整備についての展開	・・・	67

2-3. 早渕川流域の環境整備（第3部会）

第3部会では、都筑区の水と緑の魅力アップの中で、とりわけ区の中央を東西に流れる早渕川に焦点を当て、「早渕川沿い緑道化提案」「南・北緑道連結」「早渕川の自然を活かした魅力アップ」の3つを検討テーマとし活動してきました。

◆これまでの主な取組

平成15年度…

- ・南・北緑道の西側を連結するルート「やさきのみち」「しらすぎのみち」の選定及び案内サインの整備。

平成16年度…

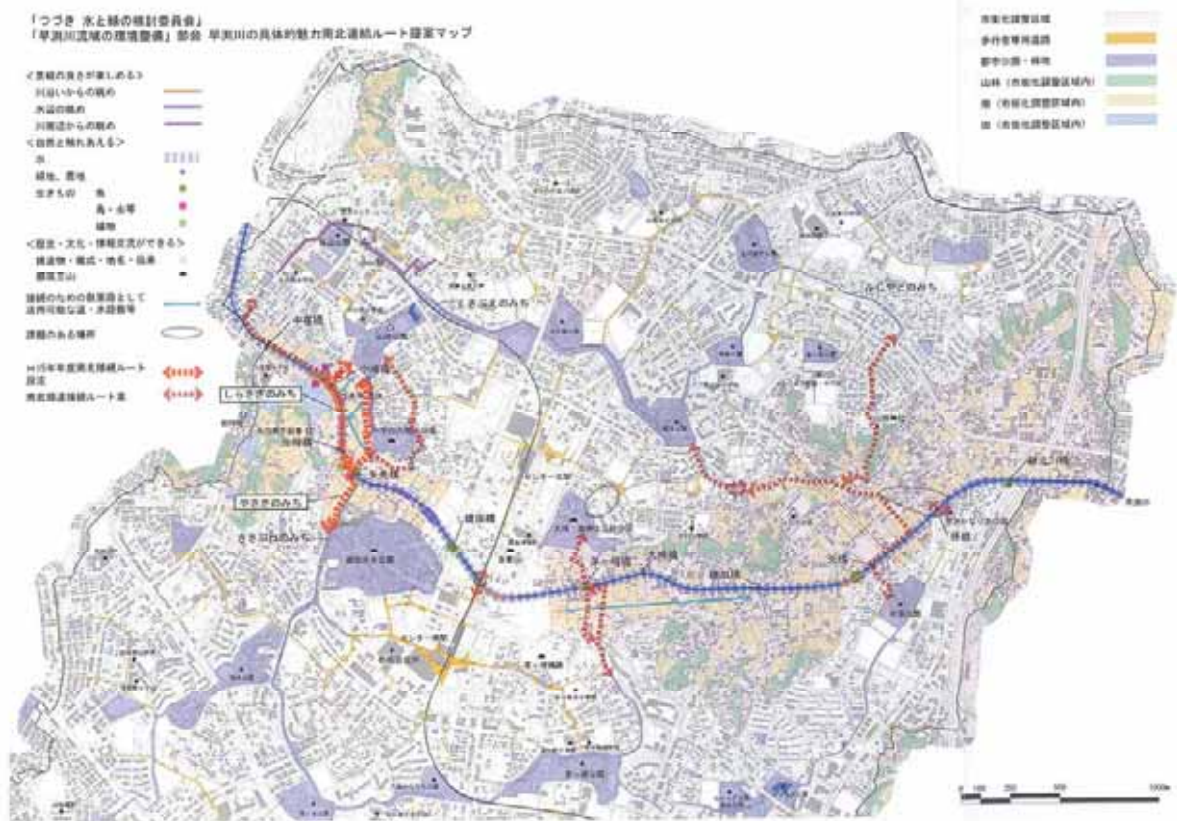
- ・早渕川沿いの散策環境向上をテーマとした「早渕川周辺整備基本計画」の作成。
- ・やさきのみちの一部水路敷きをせせらぎとして整備することをテーマとした「都筑区親水水路の基本構想」の作成。
- ・第3部会の活動内容や早渕川の魅力をもPRするホームページの作成及び継続的な更新。

平成17年度…

- ・やさきのみちの水路敷き管理者である環境創造局に要望し、整備に向けた実施設計に対する地元意見集約としてワークショップ形式の検討会を局と連携して実施。

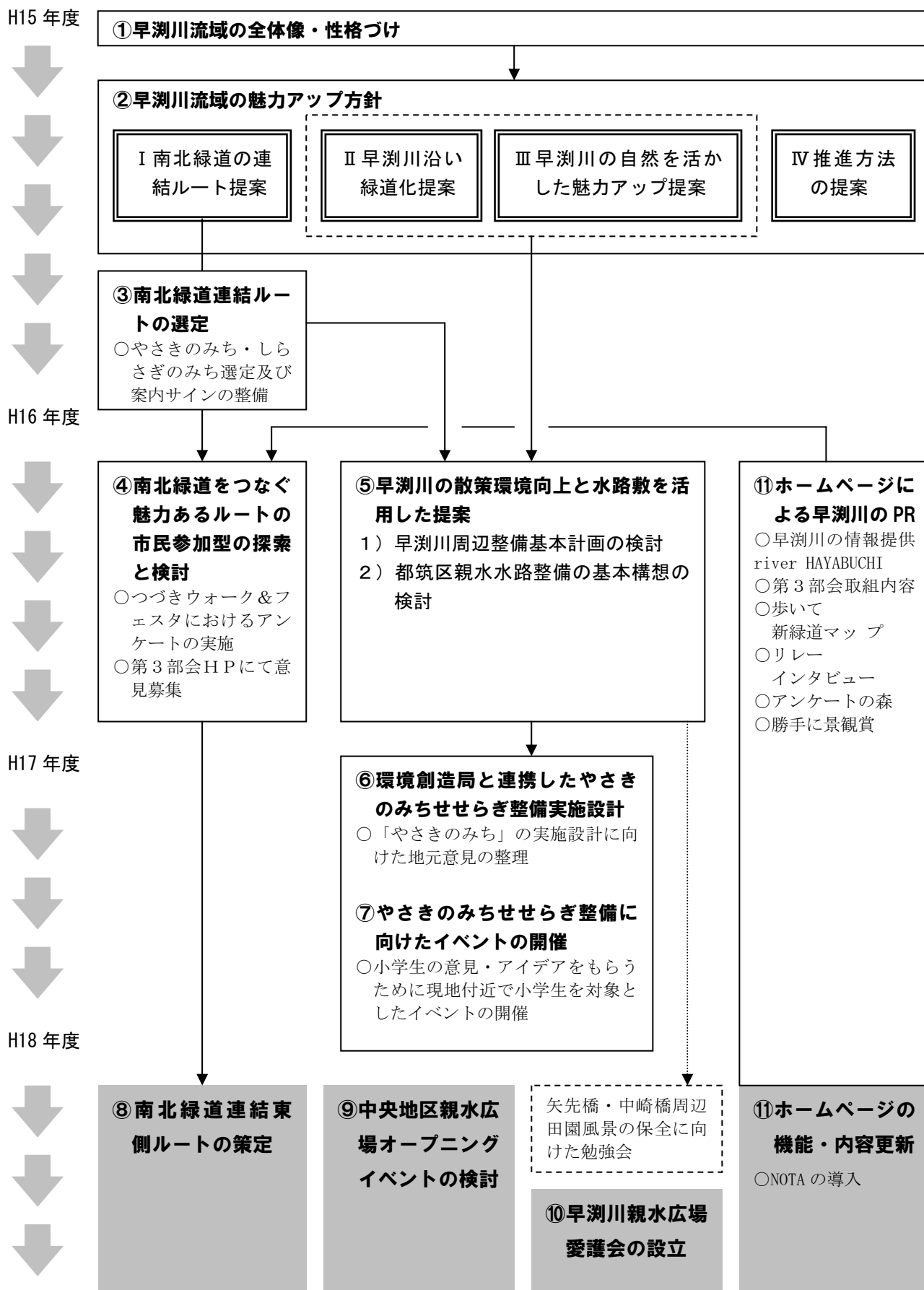
平成18年度…

- ・南・北緑道連結東側ルートの選定。
- ・中央地区親水広場のオープニングイベントの検討。



早渕川の具体的魅力南北連結ルート提案マップ

(1) 第3部会4か年作業の流れ



(2) 平成 15～17 年度第 3 部会の取組

①早渕川流域の全体像・性格づけ

早渕川および周辺地域の現状や潜在的な魅力について項目を整理し、その項目に従って大切にすべき具体的な地域資源を抽出した。

- 川沿いに開けた景観と崖線緑地、新しい街並みなど川辺ならではの風景の良さ
- 川や川沿いの農地、崖線緑地の自然に接することができる良さ
- 川に関わる様々な人々との出会いによって歴史や文化を学び、情報を提供できる良さ
- その他魅力資源



現況の魅力資源マップ

②早渕川流域の魅力アップ方針

早渕川及びその流域の魅力をよりよくしていくための4つの方針を挙げる。

- 早渕川を自然豊かな「緑道（グリーンベルト）」として位置づけ整備する。
 - 早渕川と既存の南・北緑道・歩行者専用道路とつなぎ、水と緑、歴史を巡るネットワーク（「つづきの緑道（グリーンマトリックス）」）を広げる。
 - 様々な工夫により、早渕川の自然を活かした具体的な魅力づくりをおこなう。
 - 単なるハード整備だけでなく、区民と区役所との協働による継続的な魅力アップを図る。
- 上記4つの魅力アップ方針に対応した具体的な提案として、以下の4つを中心に検討した。

I 南北緑道の連結ルート提案

- ・早渕川にかかる橋を基本に南・北緑道連結ルートを設定
- ・中荏橋ルート
- ・中崎橋ルート「しらすぎのみち」
- ・矢先橋ルート「やさきのみち」
- ・境橋ルート
- ・茅ヶ崎橋ルート
- ・矢橋ルート
- ・待橋ルート

II 早渕川沿い緑道化提案

川側に人が通れる道を確保 水路の開渠化と生き物とのふれあい場の確保

III 早渕川の自然を活かした魅力アップ提案

川へ降りる道をつくり 階段をつくる

川を望める風情のある店舗の誘致

IV 推進方法の提案

- ・より多くの区民の参加を図る。
- ・魅力アップの実現のモデルをつくり他へ展開する。
- ・川の自然をベースに必要性、ニーズを把握し事業化する。

③南北緑道連結ルートの選定

早湊川と既存の南・北緑道・歩行者専用道路とを結びつける南北連結ルートとして、「やさきのみち」「しらさぎのみち」の道が選定された。

【メインルート「やさきのみち」】

- ・既存の水路敷、川沿いの道、歩行者専用道路、歩道などを活用して中川八幡山公園を經由して山崎公園につながり、南・北の緑道をつなぎやすい。また、今後周辺の右岸沿いの水路活用の検討の足がかりとなると期待される。

※ささぶねのみち－水路敷－矢先橋－中川八幡山公園脇－歩行者専用道路－山崎公園

【サブルート「しらさぎのみち」】

- ・早湊川の右岸は田園景観が楽しめ落ち着いている。また、車止めにより車両の通過交通がなく川沿いを安全に歩ける。

※矢先橋－早湊川沿い（右岸）－中崎橋－山崎公園



○「やさきのみち」「しらさぎのみち」におけるサインの必要な箇所について検討し、以下の2種類の案内サイン設置を提案した。



タイプA（鶴見川流域5区共通案内板）

- ・早湊川沿いに1箇所設置する。
- ・案内板に早湊川の説明、地図、地域の情報を掲載する。



タイプB（緑道・公園案内板）

- ・地図入りサインを山崎公園内に2箇所設置する。
- ・Bタイプの小型版を中崎橋と中川八幡山公園の曲がる場所に1箇所ずつ設置する。
- ・都筑中央公園内の既設案内板の差し替える。

④南北緑道をつなぐ魅力あるルートの市民参加型の探索と検討

平成16年11月に実施された「つづきウォーク&フェスタ」において、「やさきのみち」「しらさぎのみち」のPRを兼ねた第2（東側）の南北連結ルート案を示したパネル展示をおこない、参加者の意向調査を実施した。

※南北連結東側提案ルート

○茅ヶ崎橋ルート	投票数 65 (35%)
○矢橋ルート	投票数 22 (12%)
○待橋～	
なつみかん公園ルート	投票数 27 (15%)
山田神社ルート	投票数 8 (4%)
ふじやとのみちルート	投票数 55 (30%)
他	投票数 8 (4%)
計	投票数 185



南北緑道をつなぐ新しいルートの提案募集



アンケートに使用したパネル

⑤早渕川の散策環境向上と水路敷を活用した提案

1) 早渕川周辺整備基本計画の検討

<http://www.city.yokohama.jp/me/tsuzuki/kusei/hayabuchi/hayahoukoku/index.html>

早渕川の魅力ポイントの抽出、川沿いの歩行者動線の確保可能性、親水施設整備案等の検討をおこない、川沿いの散策路と親水拠点・水辺スポットの整備を柱とした早渕川周辺整備基本計画をワークショップ（計5回）形式で取りまとめた。

a) 早渕川周辺整備基本計画

イ. 早渕川及び沿川整備方針

- ・早渕川左右岸の河川管理通路を活用し、歩行者専用または歩行者優先の道となるよう連続して確保し、ニーズに応じて散策路等として整備する。
- ・川沿いの道を活用して散策路等を整備することにより、既存の南北緑道とのネットワークを構築する。
- ・早渕川に流入する水路や周辺の水路敷を活用し、早渕川及び南北緑道との歩行者ネットワークとして活用を図る。
- ・早渕川の自然環境を保全、回復し、水辺の生きものの生育環境を確保するとともに、生きものとふれあえる場を工夫する。



ロ. 拠点等の整備方針

- ・沿川の河川残地、公共施設用地等を核として水辺の拠点を設定し、親水施設等の整備や沿川緑地の保全、創出等により、水辺にふれあえる場を拠点の特性に応じて整備する。
- ・水辺の拠点としては、「西」「東」「中央」の3大拠点と、敷地の工夫や地域の協力などにより水辺のスポットを適宜配置する。

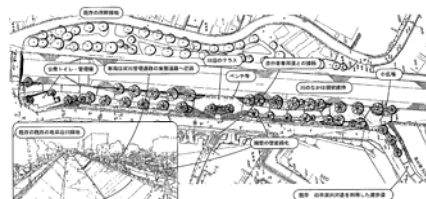
b) 早渕川沿いの散策路整備案

- ・散策路としては、現状で「車両通行不可区間」を中心に歩行者専用の道として、「車両通り抜け不可区間」は歩行者優先の道として位置づけ、検討する。
- ・「車両通行区間」については歩行者優先化としたい。
- ・歩行者専用の道または歩行者優先の道を全川わたって左右岸どちらかに連続させる。
- ・流入水路、周辺水路敷を活用して、川沿いの散策路と既存の南北緑道、歩行者専用道とを接続する歩行者ネットワークの道としたい。

c) 既存の河川残地等を利用した整備案

イ. 「西の拠点」…鍛冶橋周辺

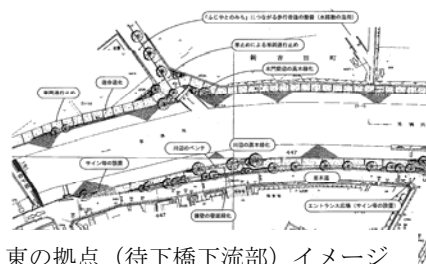
- ・既存の河畔緑地を活かし、川辺の散策や区内の周遊散策等の緑豊かな休憩地点として活用する。
- ・水辺の環境学習や高齢者、障害者等の日常的な憩いの場として活用する。



西の拠点（鍛冶橋上流部）イメージ

ロ. 「東の拠点」…待橋、待下橋周辺

- ・一般車両通行がしにくい現状を活かし、極力車両通行を抑え、川辺の散策や南北緑道の結節点としての利用を図る。
- ・建設中の市営地下鉄4号線東山田駅開設後は通行量が増えることが予想される。駅利用者にとってのアクセス性工場のためにも快適な歩行者空間の提供が必要。



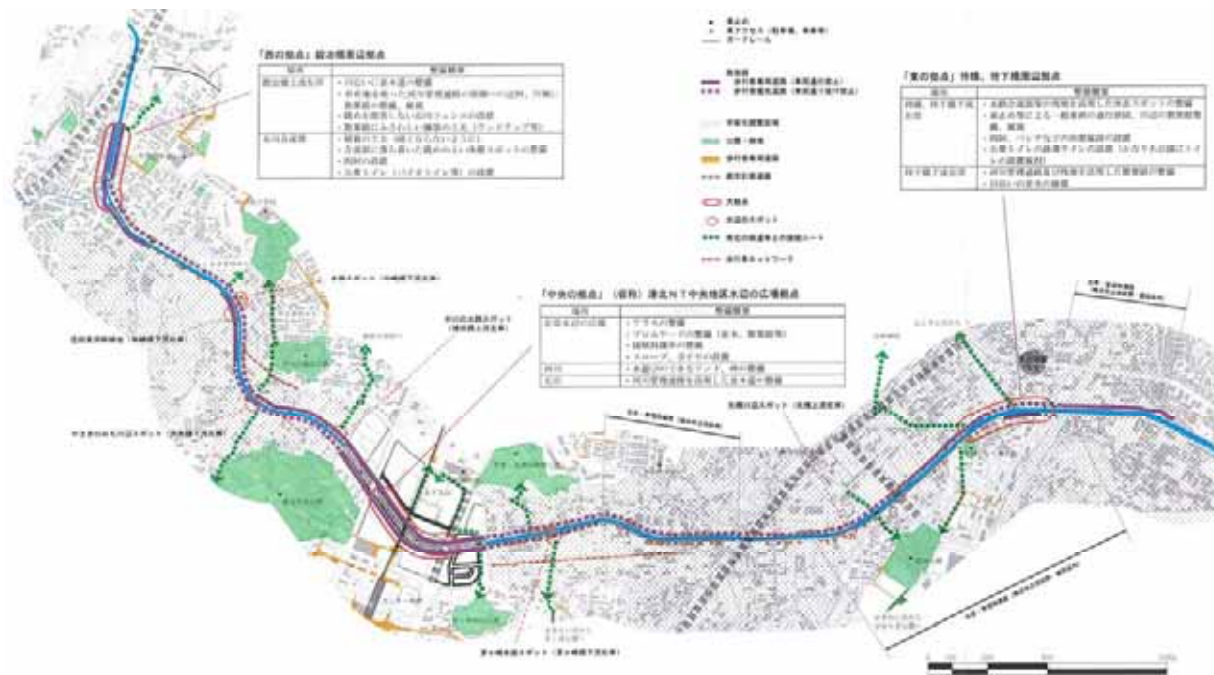
東の拠点（待下橋下流部）イメージ

ハ. 「中央の拠点」…中央地区親水広場周辺

- ・都筑の中心であるセンター南駅、センター北駅をつなぎ多くの人が集い行き交い憩う賑わいのある場として利用する。
- ・中央地区のまちづくりと連携し、様々なイベントや催事、水辺の活動が期待できる。

d) 早渕川周辺整備基本計画の実施に向けた働きかけ

鶴見川流域水のマスタープランに基づく、鶴見川水系河川整備計画に早渕川周辺整備基本計画を反映してもらうよう要望した。



早渕川周辺整備基本計画図

2) 都筑区親水水路整備の基本構想の検討

<http://www.city.yokohama.jp/me/tsuzuki/kusei/hayabuchi/yasakihokoku/index.html>

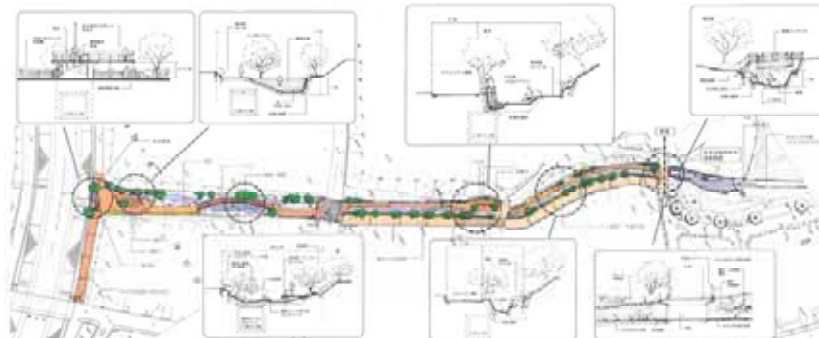
南北緑道連結ルートに選定された「やさきのみち」の水路敷き区間の親水水路整備の具体化について、ワークショップ(計3回)形式で検討をおこなった。

イ. 下流区間の整備イメージ

- ・ゆったりとした流れと水辺にふれられる工夫をおこなう。
- ・水生生物等の生育環境をつくる。

ロ. 上流区間の整備イメージ

- ・車道と一体となったせせらぎのある散策路
- ・ささぶねのみちとの連続性を確保しながら生物の生育環境を工夫する。

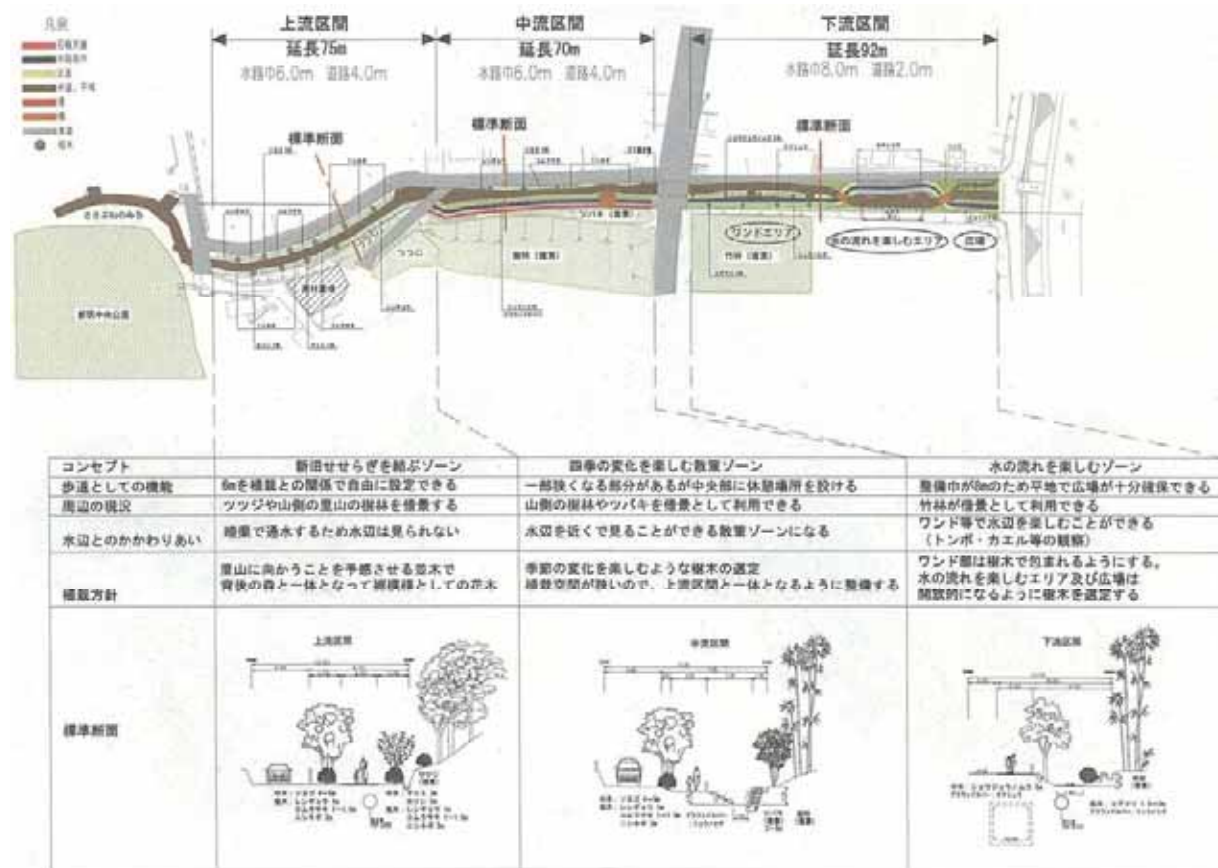


やさきのみち整備構想

やさきのみち整備方針

⑥環境創造局と連携したやさきのみちせせらぎ整備実施設計

環境創造局と協議の結果「やさきのみちせせらぎ整備」に向けて設計を実施することとなり、せせらぎ整備に関する基本事項について地元の意見も含めた検討会を計4回実施した。



やさきのみちせせらぎ整備検討委員会での最終案



やさきのみち水路敷のイメージ図案

⑦やさきのみちせせらぎ整備に向けたイベントの開催

小学生の意見・アイデアをもらうために現地付近で小学生を対象としたイベントをおこなった。イベント開催にあたっては、現地での活動を取り入れて子どもたちが具体的なイメージを持てるように配慮した。(参加者総数約50人)



(3) 平成18年度第3部会の取組

平成18年度は、南北緑道連結の東側ルートの選定及びサイン設置位置、ルート名称の検討をおこなった。また、平成18年度中に供用が予定されている中央地区親水広場に関するオープニングイベント等の魅力アップ提案、ホームページの更新等をおこなった。

<p>第1回検討会（第1回全体会后） 平成18年5月31日（水）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●平成18年度活動予定について ●主な取組事項・作業スケジュールの確認 ●HPのリレーインタビュアーの今年度候補者と順番の選定
<p>第2回検討会 平成18年6月20日（火）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●リレーインタビュアーの候補者の確認 ●中央地区親水広場オープニングイベントの実行主体及びアイデアについて
<p>第3回検討会 平成18年7月14日（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●緑道連結東側ルートの選定 ●中央地区親水広場オープニングイベントの延期について
<p>第4回検討会 平成18年8月24日（木）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●景観法の説明（都市整備局都市デザイン室 菅井係長 荻野吏員 谷口吏員） ●質疑
<p>第5回検討会 平成18年9月23日（土）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●緑道連結東側ルートの現地視察 なつみかん公園～宮の下交差点～山田神社～たけとんぼ公園～ふじやとのみち終端～待下橋・待橋～かなりあ公園～宮の下
<p>第6回検討会 平成18年10月19日（木）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●～river HAYABUCHI～ホームページについて ●南北緑道連結東側ルート及びサイン設置箇所の確認
<p>第7回検討会 平成18年11月29日（水）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●南北緑道連結東側ルートの名称について ●第3部会活動の取りまとめ

⑧南北緑道連結東側ルートの策定

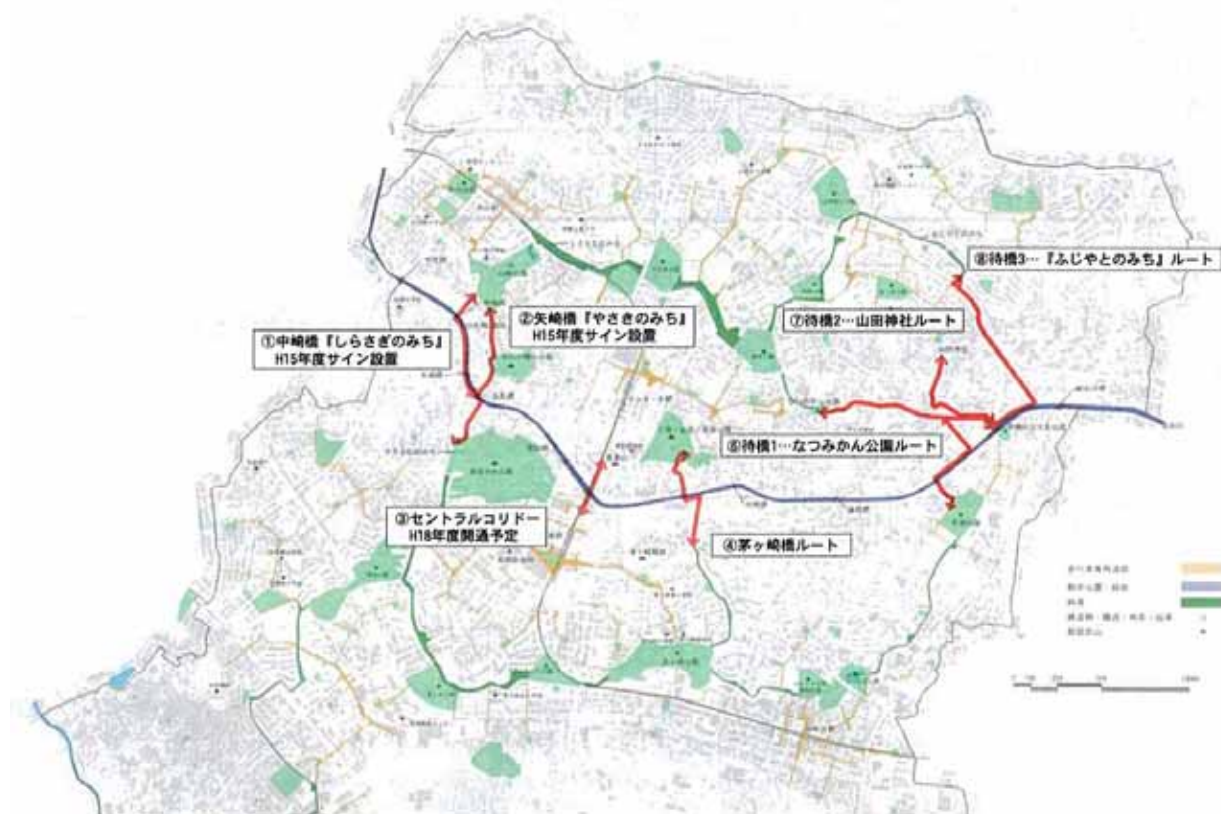
1) 南北緑道東側ルートの選定

これまで南北連結ルートについてアンケート調査を実施した「つづきウォーク&フェスタ」「やさきのみちイベント」「落書き消し」での集計結果等からルート選定をおこなった。

表-6. 南北連結ルートに関するアンケート集計結果

候補ルート	つづきウォーク & フェスタ 平成 16 年 11 月 23 日	やさきイベント 平成 17 年 8 月 23 日	落書き消し 平成 18 年 4 月 1 日	計
茅ヶ崎橋ルート	65	40	3	108
矢橋ルート	22	7	1	30
待橋なつみかん公園ルート	27	16	18	61
待橋山田神社ルート	8	15	15	38
待橋ふじやとのみちルート	55	19	21	95

図-13. 南北連結候補ルートの位置



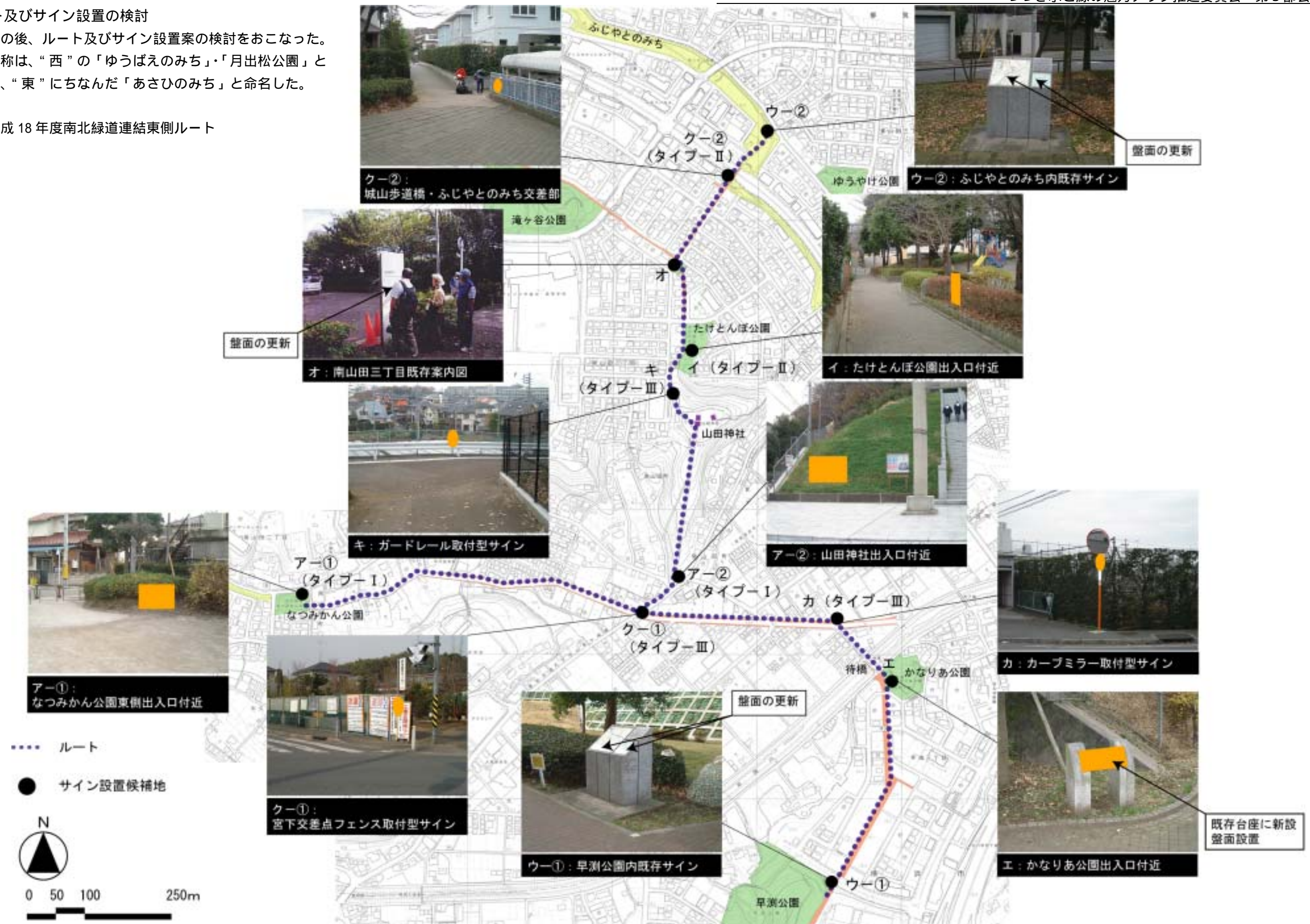
アンケート集計では茅ヶ崎橋ルートに最も多く票が集まっているが、協議の結果、平成 15 年度に選定した西側ルートと合わせて緑道を大回りできること、みなきたウォークと近接していること、アンケートを実施した場所が地区西側で茅ヶ崎橋が最も近かったこと、待橋の3ルートを集約すれば待橋ルートが最多票となることから待橋ルートに決定した。

なお、ふじやとのみちルートについては市営地下鉄4号線の東山田駅と近接し、将来の交通量予測が立てられない事、途中信号のない道路横断部分があり危険性が高いことから見送ることとした。

2) ルート及びサイン設置の検討

現地視察の後、ルート及びサイン設置案の検討をおこなった。
 ルート名称は、“西”の「ゆうばえのみち」・「月出松公園」と
 対になり、“東”にちなんだ「あさひのみち」と命名した。

図 - 14 . 平成 18 年度南北緑道連結東側ルート

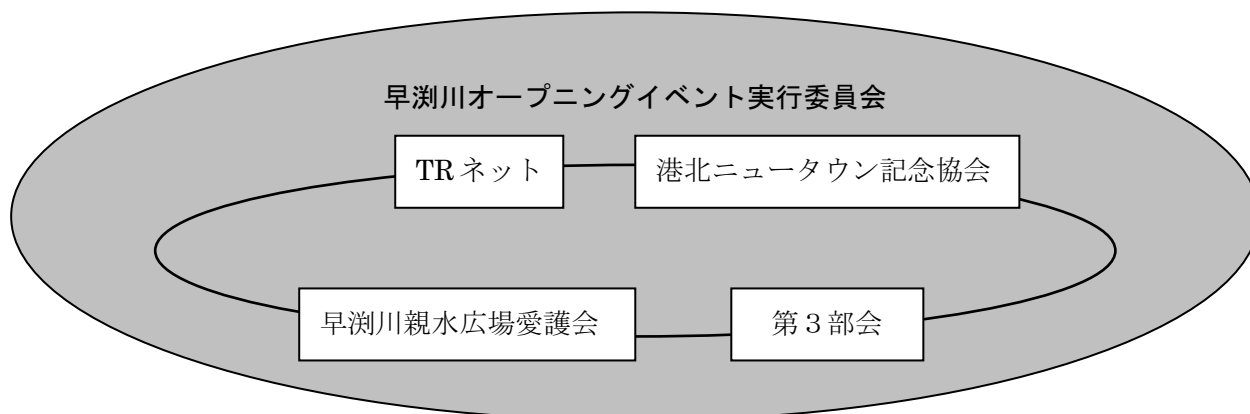


⑨中央地区親水広場オープニングイベントの検討

早渕川親水広場を区民に周知する目的でオープニングイベントを開催する検討をおこなった。

当初は、供用開始が予定されていた平成 18 年夏頃を目標としていたが、工事が延長されたことでオープニングイベントも延期されることとなった。

イベント運営については、これまでの経緯から鶴見川流域ネットワーキング（TR ネット）と協力しながら、第3部会、親水広場愛護会、NPO 法人港北ニュータウン記念協会も含めた実行委員会方式で開催し、第3部会からは正副部会長が参加する予定となっている。



イベント内容を検討し、第3部会の要望として実行委員会に以下の内容を提出することを決定した。

【自然・生きもの観察系イベント】

- ・子どもを遊ばせているうちに、生物を捕獲し、遊び終了後、生き物観察

【子どもの遊び観察系イベント】

- ・水鉄砲を作って対岸の的へ当てさせる
- ・流量や川幅、深さによってはイカダを作って子どもを乗せて大人が引っ張る
- ・竹とんぼづくり
- ・笹船を作って流す。センター橋から風船を落として流す

【早渕川の歴史紹介観察系イベント】

- ・昔の釣り道具や仕掛けの展示、実演 ・水車の設置。

【飲食物の提供観察系イベント】

- ・綿菓子 ・飲み物

【ライブパフォーマンス観察系イベント】

- ・ハーブ演奏

⑩早渕川親水広場愛護会の設立

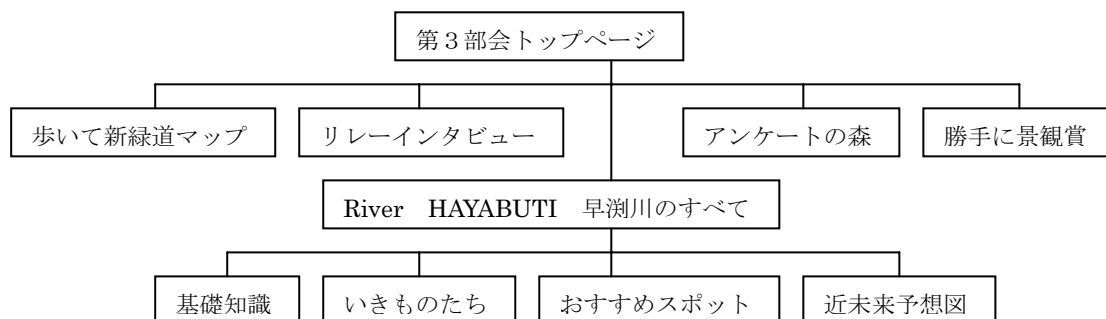
平成 19 年3月に供用を予定している早渕川親水広場の環境保全に取り組む愛護会が8月の準備会を経て平成 18 年 11 月 26 日（日）に正式に活動開始した。（P87ページ参照）

今後は早渕川周辺で活動する他の市民団体とも協力しながら、地域住民で環境保全に取り組んでいく。

①ホームページの作成・更新によるPR

<http://www.city.yokohama.jp/me/tsuzuki/kusei/hayabuchi/index.html>

早渕川の過去・現在・未来について、広く区民に知ってもらい親しんでもらうこと、及び第3部会の活動を広く広報することを目的に、つづき水と緑の魅力アップ推進委員会「早渕川流域の環境整備」部会（第3部会）のホームページを平成16年度に作成した。



その後も各メニューの内容は更新されており、平成18年度では最終的に以下の構成となった。

◆早渕川の概要 river HAYABUCHI

- ・第3部会のメンバーが持てる知識・景観・調査力の全てを活かして作成したHPにて早渕川の魅力をPRする。Q&A方式での早渕川の基礎知識(歴史・諸元など)、早渕川のいきもの、おすすめスポット、早渕川の近未来予想を掲載。

<http://www.city.yokohama.jp/me/tsuzuki/kusei/hayabuchi/hayabuchi/toppage0.html>



◆第3部会取組み内容

- ・第3部会の各検討会の議事要旨を掲載したページ

<http://www.city.yokohama.jp/me/tsuzuki/kusei/hayabuchi/bukaigijiroku/torikumi.html>



◆リレーインタビュー

- ・昔から早渕川周辺に住まれている方へ、川の思い出等についてのインタビューを掲載。

<http://www.city.yokohama.jp/me/tsuzuki/kusei/hayabuchi/interview/interview5.html>



◆歩いて新緑道マップ

- ・あたらしい緑道である「やさきのみち」「しらさぎのみち」の紹介とルートマップの掲載。

<http://www.city.yokohama.jp/me/tsuzuki/kusei/hayabuchi/course/ryokudomap.html>



◆アンケートの森

- ・「あたらしい緑道」「南北に繋ぐ緑道候補」「早渕川の耳より情報」についてのアンケートフォームの掲載。

<http://www.city.yokohama.jp/me/tsuzuki/kusei/hayabuchi/anketo/anke1.html>

◆勝手に景観賞

- ・早渕川の風景の写真を応募いただき、「今月の勝手に景観賞」として紹介。

(4) 平成 19 年度以降の早渕川の流域環境整備についての展開

1) 早渕川等の魅力アップ活動の継続

○中央地区親水広場愛護会・やさきのみちせせらぎ愛護会を通じて、早渕川や「やさきのみち」等の魅力を地域や次世代に伝えていく活動を継続的に進めていく。

2) 早渕川周辺整備基本計画の実現に向けた関係機関への働きかけ

○平成 18 年度国土交通省で策定作業中の鶴見川水系河川整備計画の中で早渕川の環境整備について「地域住民等により早渕川の魅力向上をさせる構想も検討されており、実施にあたっては、これらも踏まえて検討していく」と明記される予定となっている。

○さらに、現在、鶴見川流域水マスタープランにおける中長期の具体目標を実現するアクションプランが関係行政によって検討されており、早渕川の流域環境整備に深く関連する項目として、「緑地の保全と創出に向けたアクションプラン」の項目が挙げられている。

○今後は、上記のような関係機関が実施する整備・計画の進捗状況を見ながら、第3部会で検討した内容を要望していく。

3) 南北緑道連結ルート「やさきのみち」「しらさぎのみち」「あさひのみち」の広報・PR

○平成 19 年度以降に予定している北部散策マップに第3部会で検討した南北緑道連結ルートや魅力資源を盛り込みPRしていく。

4) 早渕川流域丘陵部の緑地保全に向けた検討

○早渕川流域の主に市街化調整区域内における丘陵地樹林や農用地によって構成される田園景観の維持・保全のシステムを提案し、行政や土地所有者等と調整しながら具体化を進める。

5) 「river HAYABUCHI」ホームページの継続的な更新

○引き続き、早渕川の流域環境整備に関する進捗状況といった情報発信や早渕川の魅力の紹介等のホームページ更新をおこなう。

2-4.

第4部会

中央地区の環境整備

2-4. 中央地区の環境整備	・・・	70
(1) 第4部会2か年作業の流れ	・・・	71
(2) 平成17年度第4部会の取組	・・・	72
①中央地区を取り巻く情勢の把握	・・・	72
②中央地区の魅力向上に向けた方策検	・・・	72
③中央地区の魅力向上に向けたイメージ提案検討	・・・	73
(3) 平成18年度第4部会の取組	・・・	77
④完成したみなきたウォークの現地視察	・・・	78
⑤提案の実現に向けた組織づくりの検討	・・・	79
(4) 平成19年度以降の中央地区の環境整備についての展開	・・・	80

2-4. 中央地区の環境整備（第4部会）

第4部会は、都筑区の中心部である港北ニュータウン中央地区が平成17年6月に土地利用が可能になったことや、平成16年度末の水と緑の魅力アップ推進委員会正副委員長提案を踏まえ、平成17年度に立ち上げ、「歩行者動線の中央地区における機能やイメージ」「タウンセンター地区の中心となる中央地区の魅力アップ手法」の検討などを目的として活動をおこなった。

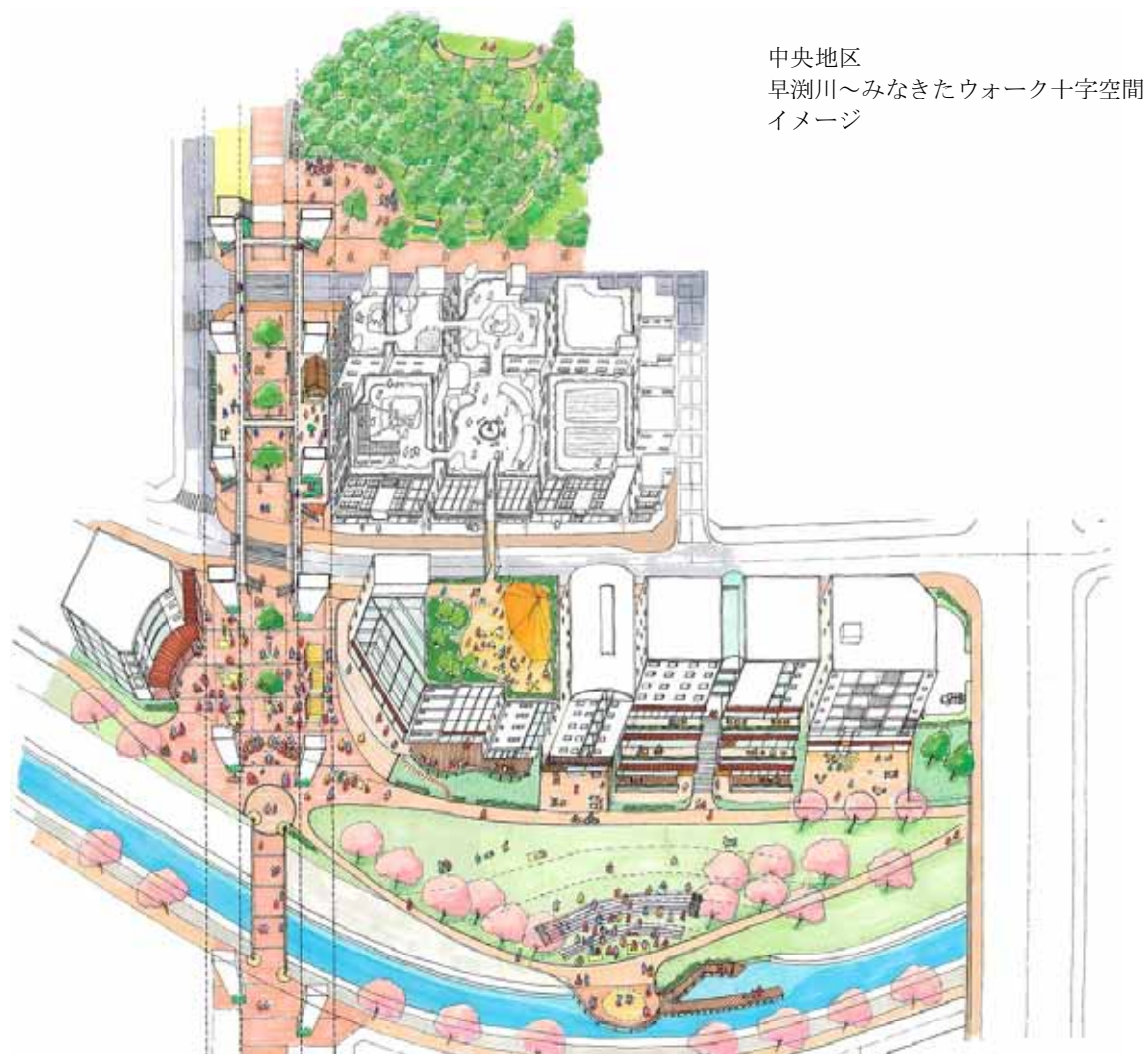
◆これまでの主な取組

平成17年度…

- ・中央地区のあり方検討
- ・中央地区の魅力づけ方策検討
- ・魅力づけの具体的なイメージ提案の検討

平成18年度…

- ・完成したみなきたウォークの現地視察
- ・提案を実現する組織づくり検討



(1) 第4部会2か年作業の流れ

H17年度

①中央地区を取り巻く情勢の把握

②中央地区の魅力向上に向けた方策検討

○以下を中心に様々な意見が出された。

- ・東西方向を通り抜ける自然資源である『早湊川の魅力アップ』
- ・南北のセンター地区を結び、中央地区へのアプローチ動線となる『みなきたウォークの魅力アップ』
- ・早湊川と南北歩専道が交差する『十字空間とその周辺宅地のあり方』
- ・南北センター地区や周辺からのアクセスを確保する『歩行者ネットワークの連携』
- ・中央地区における『文化・芸術・市民活動のあり方』

③中央地区の魅力向上に向けたイメージ提案検討

1. 十字空間と一体となったイベントの開催
2. 早湊川プロムナードのイメージアップ計画
3. 早湊川桜堤の整備
4. 親水性のあるファミリーが集まれる広場に
5. 十字空間周辺宅地における“環境に配慮した土地活用”のモデル事業化
6. 親水広場周辺宅地におけるまちづくり誘導（屋上緑化・建物セットバック・広場に面した建築等）
7. 吾妻山の見晴らし地点から五山を眺める角度にある建物は、見晴らし地点より低くする規制・誘導
8. 吾妻山公園と歩専道が一体となった広場においては、道標を囲んで一服しながら、五山を眺められる場所とする一方で、イベント空間として活用
9. 桜並木と五山を橋上で鑑賞する場所としてのセンター橋の位置づけ
10. 歩行者空間に顔を見せた沿道商店街の形成
11. 早湊川を起点とした商店街のゾーン分け（朝市・アートスペース・オープンカフェ・屋台村等）
12. 屋上緑化にした仲見世商店街や屋上利用のできる商店街の形成
13. 北と南を結ぶ芸術空間づくり
14. 変電所・鉄道橋脚壁面の緑化の可能性
15. 中央地区区画道路や歩専道を活用したパレード行進の開催
16. 子育て地蔵イベント・縁日等の開催
17. 区民まつりにおける各種お祭り広場の整備（センター北シンボル広場・ネオクラシック階段・あづま山公園入口部・早湊川親水広場・南口シンボル広場・中央公園広場）
18. “青少年の居場所”スペースの確保
19. 土木事務所所在地を文化拠点（第2図書館等）としていくための総合的な検討
20. 中央地区周辺緑道から中央地区に至る明確なアクセスルート（散策ルート）の確立
21. つづき五山が眺められる眺望点の確立
22. 吾妻山～歴史博物館間の歩行者デッキ整備の可能性
23. 中央地区歩行者専用道路（港北ニュータウン14号線）の愛称設定（みなきたウォークの決定）

○中央地区の魅力向上に向けた取組分野

早湊川の魅力アップ

歩行者専用道路の魅力アップ

文化・芸術・市民活動活性化

周辺地区との関係強化

H18年度

④完成したみなきたウォークの現地視察

- 1) 現地視察および意見交換
- 2) 意見交換を反映したみなきたウォーク管理組織の立ち上げ

市民による管理組織「みなきたウォークハマロードサポーター」の立ち上げ

早湊川の水量確保等の環境に配慮した雨水浸透枡についての勉強会

⑤提案の実現に向けた組織づくりの検討

(2) 平成17年度第4部会の取組

①中央地区を取り巻く情勢の把握

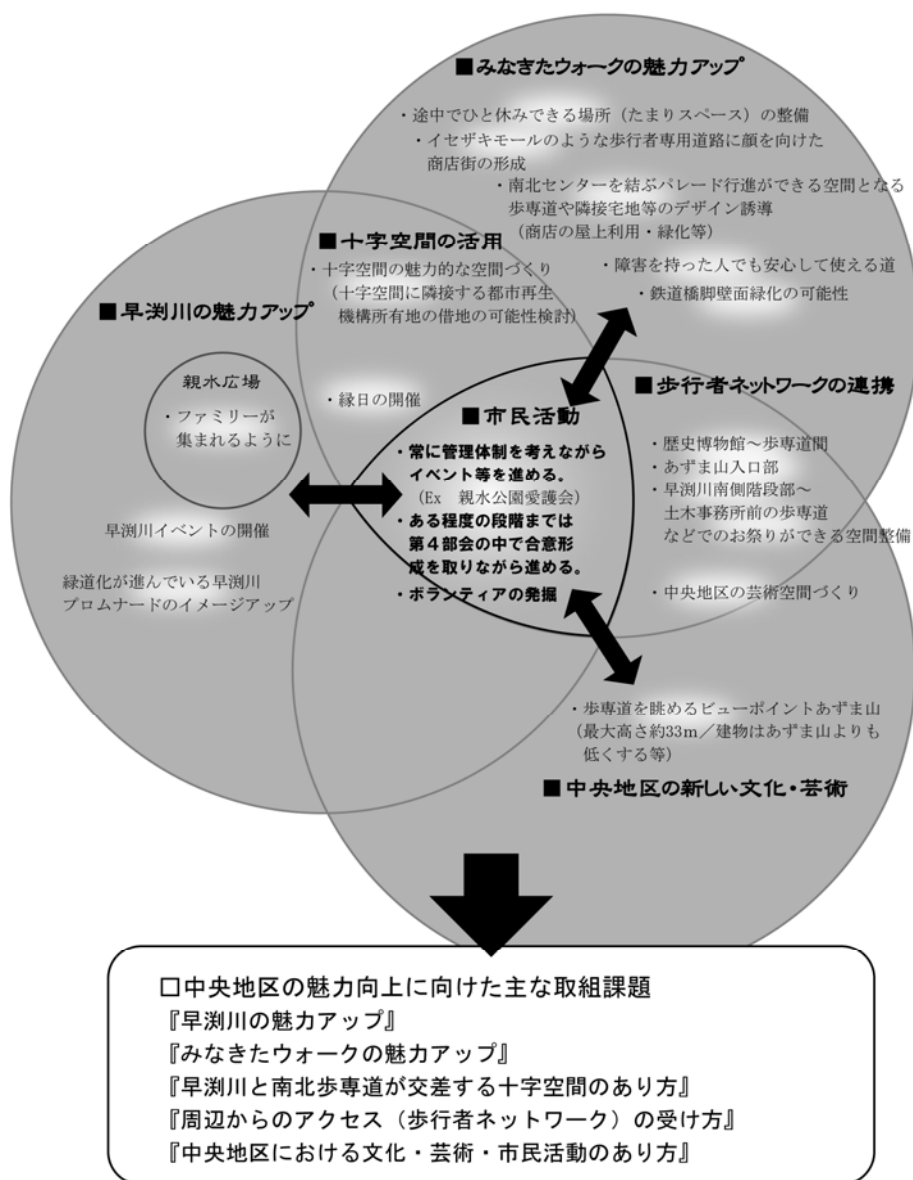
中央地区における現状課題や予測される問題等について検討をおこない、部会内での共通認識を深めた。

【キーワード】

- ・南北センター地区の賑わいを中央地区にいかに関引き込むか。
- ・中央地区のみなきたウォークに沿って、大きく3つの空間的特性に分けられそうである。
「都市化の進むセンター北駅周辺市街地」
「吾妻山や早濶川などの自然が交差する中央地区十字空間」
「都市化が進みつつあり、子育て地蔵も設置されたセンター南駅の北側市街地」
- ・センター北と南を結ぶ中央地区で区民祭り等がどうおこなわれるか。
- ・センター北地区、南地区との歩行者ネットワークの形成や中央地区周辺に点在するつづき五山との結ばれ方。

②中央地区の魅力向上に向けた方策検討

現状課題等を踏まえた上で、中央地区の魅力を高めるために重要とされる方策と、その取組課題を整理した。



中央地区の魅力向上に向けたイメージ提案検討

前述の5つの重要な取り組み課題に基づき、中央地区の魅力向上に寄与する環境整備案をイメージ図等交えて検討し、計23の具体的な提案をおこなった。

表-6. 水と緑の魅力アップ推進委員会第4部会 中央地区の魅力向上に向けた23の提案項目

	主な提案項目	内容	分類	役割(案)			その他課題等	
				地元	行政	その他事業者等		
早淵川 の魅力アップ	早淵川の魅力づくり	1. 十字空間と一体となったイベントの開催。	早淵川 / 県管理事項	早淵川イベントの管理運営団体の立上げ	河川管理者 (県土木整備部) との調整	(水と緑の推進委員会第3部会との調整)	第3部会・モデル分科会での意向確認	
		2. 早淵川プロムナードのイメージアップ計画。		早淵川プロムナード愛護会の立上げ	河川管理者 (県土木整備部) との調整	(水と緑の推進委員会第3部会との調整)		
		3. 早淵川桜堤の整備		親水公園愛護会による桜並木の管理運営体制の確立・桜の寄贈	河川管理者 (県土木整備部) との調整	(水と緑の推進委員会第3部会との調整)		
	早淵川親水広場の魅力づくり	4. ファミリーが集まれる親水性のある広場に。	親水公園愛護会による緑化推進など	河川管理者 (県土木整備部) との調整	(水と緑の推進委員会第3部会との調整)	第3部会・モデル分科会での意向確認		
		5. 十字空間周辺宅地における“環境に配慮した土地活用”のモデル事業化		土地活用のイメージ案づくり	都市再生機構、周辺地権者との調整		地権者による事業者への協力願い、規制、誘導等	都市再生機構取得地にて、モデルとなる店舗計画が進行中 周辺宅地地権者との合意形成
	早淵川～親水広場十字空間の魅力づくり	6. 親水広場周辺宅地におけるまちづくり誘導(屋上緑化・建物セットバック・広場に面した建築等)	地権者調整事項	勉強会(地元合意調整)、まちのルールづくり	(法的規制・誘導)	地権者との調整		
		7. 吾妻山の見晴らし地点から五山を眺める角度にある建物は、見晴らし地点より低くする規制・誘導		歩行者ネットワーク	吾妻山最高高さ 約31.0m 周辺の宅盤高さ 約16.0~20.0m			
		8. 吾妻山公園と歩道が一体となった広場においては、道標を囲んで一服しながら、五山を眺められる場所とする一方で、イベント空間として活用。 9. 桜並木と五山を橋上で鑑賞する場所としてのセンター橋の位置づけ			土木事務所・交通局との調整(ベンチの設置等) 広報誌等への掲載			
	五山眺望ポイントの活用	10. 歩行者空間に顔を見せた沿道商店街の形成 11. 早淵川を起点とした商店街のゾーン分け(朝市・アートスペース・オープンカフェ・屋台村等) 12. 屋上緑化にした仲見世商店街や屋上利用のできる商店街の形成	交通局調整事項	検討会の立上げ(ゾーンコンセプトの設定、デザインコード、まちのルールづくり等)	交通局等との調整	交通局用地利用者(商業者等)との調整	交通局用地全体をコントロールする管理運営団体の立ち上げ、商業事業者等の誘致、調整、デザインコードの設定等	
13. 北と南を結ぶ芸術空間づくり 14. 変電所・鉄道橋脚壁面の緑化の可能性		地下鉄高架下愛護会(管理運営組織等)の立上げ		交通局との調整	美術サークル、アーティスト等との調整			
15. 中央地区区画道路や歩道を活用したパレード行進の開催 16. 子育て地蔵イベント・縁日等の開催 17. 区民まつりにおける各種お祭り広場の整備(センター北シンボル広場・ネオクラシック階段・あづま山公園入口部・早淵川親水広場・南口シンボル広場・中央公園広場)		イベント事項		歩道イベント等の考案・開催・管理等	道路局・交通局との調整	ふるさとづくり委員会・大学サークル・その他各種団体等との調整		パレードは物理的に先導車両が入れない箇所があるなどの問題がある。
18. “青少年の居場所”スペースの確保		他		居場所の管理運営への参加	都筑区役所・交通局等との調整	現在、市歴史博物館駐車場にて暫定的に利用されている。		
既存の市民活動拠点の担保および新たな文化拠点等の創出	19. 土木事務所所在地を文化拠点(第2図書館等)としていくための総合的な検討	他	区民の意見集約等	市各局と調整	地権者(UR都市機構)との調整	新たに土地を取得する必要がある。		
周辺地区との関係強化	中央地区内の歩行者動線整備	20. 中央地区周辺緑道から中央地区に至る明確なアクセスルート(散策ルート)の確立 21. つづき五山が眺められる眺望点の確立	歩行者	眺望点の発見、ルート設定、マップづくりなど	眺望点の発見、ルート設定、マップづくり、広報など	(水と緑の推進委員会第1・第2部会との調整)		
		22. 吾妻山～歴史博物館間の歩行者デッキ整備の可能性	他		道路局・土木事務所との調整、警察協議等		隣接する南北歩行者専用道路が供用を開始	
	歩道のネーミング	歩行者専用道路(港北ニュータウン14号線)の名称等	他	ネーミングコンペでの愛称の提案、サイン板デザインの選定	愛称の公募・決定・広報など、愛称表示サイン板の設置			

■ 既に関係者との調整が始まっている項目

図-15. 中央地区の魅力づけに向けた具体的提案のイメージ



早瀬川桜堤の連続化 (No.3)



早瀬川を起点とした商店街のゾーン分け (屋台村等) (No.11)



屋上利用のできる商店街の形成 (No.12)



桜並木と五山を橋上で鑑賞する場所としてのセンター橋 (十字空間) の位置づけ (No.9)



北と南を結ぶ芸術空間づくり (No.13)

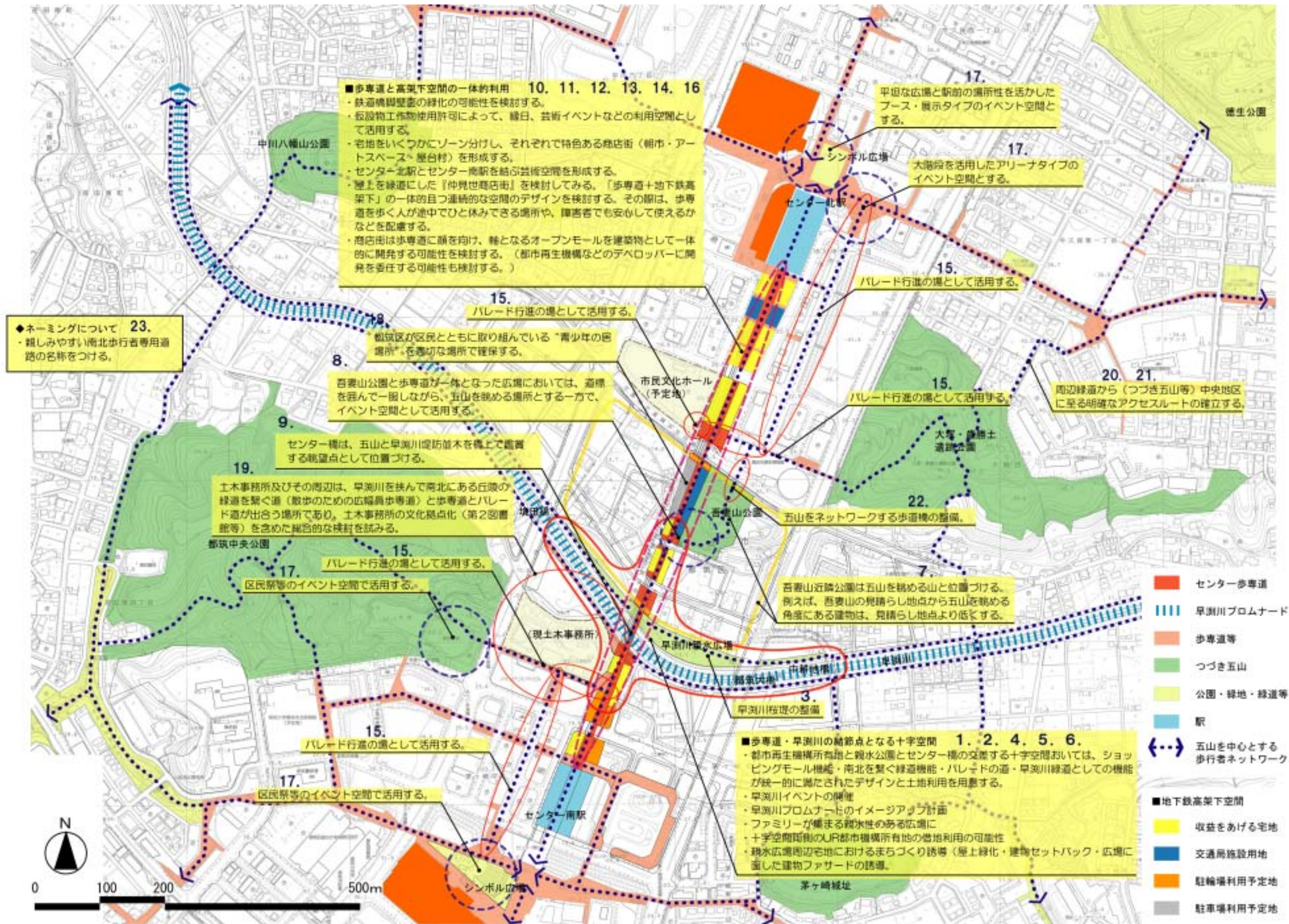


歩行者空間に顔を向けた沿道商店街の形成 (No.10)



歩行者空間を活用した子育てイベント (No.16)

図 - 16 . 中央地区の魅力づけに向けた提案分布



(3) 平成18年度第4部会の取組

平成18年度は、22（23の提案うち、歩専道の愛称設定は実施済み。以下22と示す。）の具体的な提案を踏まえた上で、完成したみなきたウォークなどの現地視察をおこなうとともに、提案の実現を推進するための地域まちづくり推進条例に基づく地域まちづくりグループによる組織づくりの検討等をおこなった。

<p>第1回検討会 平成18年6月26日（月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●平成18年度活動予定について ●22項目の実現に向けた取り組み
<p>第2回検討会 平成18年7月29日（土）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中央地区現地視察（主にみなきたウォーク）※交通局経営計画課井上係長参加 ●意見交換
<p>第3回検討会 平成18年9月7日（木）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●雨水浸透枡勉強会 ※環境創造局環境政策課、管路保全課を招いて説明してもらった。 ●意見交換
<p>第4回検討会 平成18年10月10日（火）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●みなきたウォークハマロードサポーターの立ち上げ報告 ●22の提案実現を推進するタウンセンター周辺地区の一体化に向けた組織づくりの検討
<p>第5回検討会 平成18年11月14日（火）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●センター南・北駅間の地下鉄高架下の土地利用に対する意見交換 ●横浜市地域まちづくり推進条例に基づく「タウンセンター魅力アップ推進グループ」の申請について
<p>第6回検討会 平成18年12月18日（月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第4部会活動報告

④完成したみなきたウォークの現地視察

1) 現地視察および意見交換

22の具体的な提案が出たところで、完成したみなきたウォークや周辺の交通局用地の整備状況、パレードの可否等を調査するため、みなきたウォークの現地視察をおこなった。

現地視察後の意見交換の場で、みなきたウォークや吾妻山からの眺望の魅力を確認するとともに、既に土地利用を開始している地権者もいることから、早急な規制・誘導等の取り組みが必要であること等を確認した。

また、車優先で道路計画が考えられているため、みなきたウォークの道路横断部分の使い勝手が悪いという意見も出された。

さらに、みなきたウォーク周辺にゴミや路上生活者の姿などが目に止まったことから、みなきたウォークの日常管理組織を立ち上げる必要があることを確認した。



2) 意見交換を反映したみなきたウォーク管理組織の立ち上げ

現地視察後の意見交換を受けて、平成18年9月24日にセンター北商業振興会（皆川氏）とセンター南広場公園愛護会が協同して『(仮称)南北ウォークハマロードサポーター』を組織し、月1回（毎月第四日曜日の午前11:00より30分程度）のみなきたウォーク清掃活動を開始した。（現在の名称は「みなきたウォークハマロードサポーター」）

北と南 清掃で架け橋

みなきたウォークを「キレイに」有志集う



▶センター北とセンター南の協力は意欲深い」と話す皆川健一さん

「センター北とセンター南が一緒に（何かを）やる」と話すのはセンター北商業振興会長の皆川健一さん。「南北ウォークハマロードサポーター」発起人の一人にも名を連ねた。

南北ニュータウンの象徴ともいえる大商業地域の北と南だが、未開発だった中央地区が、驛となり、これまでイベント開催なども別々がほとんど。だがここ



「センター北とセンター南が一緒に（何かを）やる」と話すのはセンター北商業振興会長の皆川健一さん。「南北ウォークハマロードサポーター」発起人の一人にも名を連ねた。

南北ニュータウンの象徴ともいえる大商業地域の北と南だが、未開発だった中央地区が、驛となり、これまでイベント開催なども別々がほとんど。だがここ

ここにきて中央地区の区画整理事業が竣工・「みなきたウォーク」の開通など、北と南を巡る状況は大きく変わろうとしている。

センター北と南を結びみなきたウォークには、メイストリートとしての期待も大きい。皆川さんは「北と南がドッキングして取り組む意義は大きい」として、今後は参加者を増やしていきたいと話している。

団体としての正式発足を控えるなか、9月24日は初の共同清掃を実施した。参加者は商店会関係者をはじめ、市民団体や近隣住民などさまさま。センター南側から参加した、発起人の一人・金子進さんは「こみもまだそれほど多くはない。目立つのはタバコとガムかな。」

「みなきたウォークの掃除を言葉に、センター北・センター南の有志協力を、『南北ウォークハマロードサポーター』として、定期的に清掃活動などを行うことになった。毎月第四日曜日の午前11時から30分ほどかけて、みなきたウォークの両サイドからごみ拾いなどを行い、道の中心で合流する。」

また新しさの残る歩道を見渡しながら「きれいだとこみも捨てにくいでしょう」と話し、環境維持の重要性を指摘した。

同団体への問い合わせは金子さん ☎943・5257まで。

タウンニュース都筑区版（平成18年9月28日号）

⑤提案の実現に向けた組織づくりの検討

これまでに検討してきた22の提案項目の実現をめざし、「みなきたウォークハマロードサポーター」に続く形で、市民によって提案を推進する組織づくりの検討をおこなった。

横浜市では、中期計画（平成18～22年度）の重要取組事項として、「協働による取組の展開」「市民活動支援の充実」を挙げており、市民が地域の事を考え、話し合いによる合意を形成し、行動することで課題を解決し、そして地域を創造していくような『協働による地域運営を土台とする市民満足度の高い都市経営』をめざし、「地域まちづくり推進条例」や「ヨコハマ市民まち普請事業」などの支援事業を進めてきていることから、これらの支援を活用する形で進めることとした。

1) タウンセンター周辺地区の状況・背景

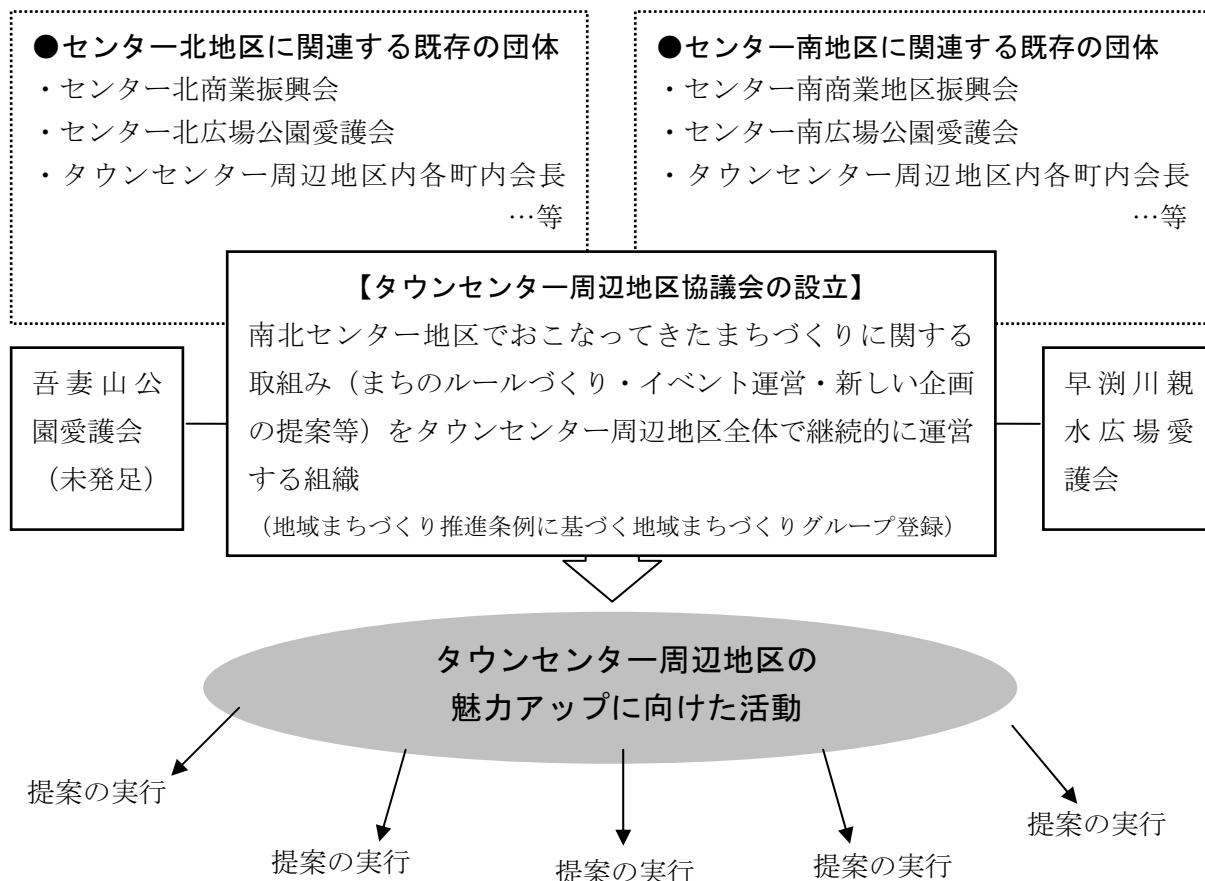
中央地区土地区画整理事業の竣工により、これまで南北センター地区で分けられていたタウンセンター周辺地区がみなきたウォークを通して“ひとつ”になった事で、タウンセンター周辺地区全体を一体として考える視点が必要となった。

また、100ha近いタウンセンター周辺地区を魅力ある街にするため、竣工間もない中央地区が成熟するまでの間はセンター北地区とセンター南地区とが協同して、イベント開催や街並み形成等で誘導していく必要がある。

2) タウンセンター周辺地区を一体化する組織づくり

第4部会の“人的財産”を活用し、後に組織されるであろう早渕川親水広場や吾妻山公園の愛護会などとも連携し、地に足をつけながら、引き続き提案事項の実現を進める。

◆組織のイメージ



(4) 平成19年度以降の中央地区の環境整備についての展開

第4部会は平成18年度末をもって解散するが、引き続き地域まちづくり推進条例に基づく地域まちづくりグループ「タウンセンター魅力アップ推進グループ(平成18年11月29日登録済み)」により提案の実現を進める。

なお、平成17年度に取りまとめられた提案項目は、その後の第4部会における検討を踏まえて改めて整理したことで、21の提案項目となっている。

「タウンセンター魅力アップ推進グループ」における各種提案の実現

○横浜市の地域まちづくり推進条例に基づく支援施策を活用しながら提案項目の実現を進める。

1) 「タウンセンター魅力アップ推進グループ」の目的

○みなきたウォークを中心にタウンセンター地区の魅力向上をめざして環境整備の提案やイベント等を継続的におこなっていく。

2) 「タウンセンター魅力アップ推進グループ」が主に取り組む事業について

イ. 早渕川の魅力アップ(※早渕川親水広場愛護会が中心となって調整)

ロ. みなきたウォークの魅力アップ

ハ. 文化・芸術・市民活動の活性化

ニ. 南・北センター地区の一体化に向けた取組

○特に②みなきたウォークの魅力アップにおいては、みなきたウォーク沿道の交通局用地の活用時期・方策などに関する今後の交通局での検討状況を把握し、これに対応する形で中央地区の魅力向上に寄与する望ましい土地や空間の利用形態について、引き続き交通局との意見交換をおこなう。

○具体的には、高架下の土地活用方策により以下の項目が考えられる。

- 1：交通局が施設整備する場合の、高架下の土地利用の要望
- 2：交通局が企画募集してデベロッパーに土地利用させる場合の条件設定
- 3：当面、手がつけられない土地における、中央地区の魅力向上に寄与する暫定的な高架下利用のあり方

○また、将来的な道路基盤整備や管理状況などを踏まえながら、地区の魅力向上につながる企画提案を随時検討する。

3. 「タウンセンター魅力アップ推進グループ」の組織体制について

○中央地区における魅力向上のための提案項目を実現・維持管理するエリアマネジメント(活動資金調達等)のあり方を検討する。

○今後、中央地区に対して様々な規制・誘導方策の検討を進めていくにあたり、地権者や自治会町内会、既存の住民活動組織等との調整をスムーズにおこなうための窓口や意見交換の場といった組織体制について検討をおこなう。

表 - 8 . タウンセンター地区の魅力向上に関して第4部会で最終的に整理された項目

		主な提案項目	内容	分類	今後の展望	その他課題等	
早 淵 川 の 魅 力 ア ッ プ	早 淵 川 の 魅 力 ア ッ プ	早淵川の魅力づくり	1. 十字空間と一体となったイベントの開催。	早 淵 川 / 県 管 理 事 項	みなきたウォークハマロードサポーターと早淵川親水広場愛護会などで親水広場オープン時にイベント開催の検討 第3部会で平成16年度早淵川周辺整備基本計画策定 早淵川親水広場愛護会(平成18年11月26日設立)が主体となって検討 親水広場レストテラスの一部に実施済み	地域まちづくりグループ活動において親水広場愛護会等既存団体との連携 植樹後の維持管理が必要	
			2. 早淵川プロムナードのイメージアップ計画。				
			3. 早淵川桜堤の整備				
		早淵川親水広場の魅力づくり	4. ファミリーが集まれる親水性のある広場に。				親水広場のPR 付帯設備等は早淵川親水広場愛護会と連携して、県治水事務所へ要望
	み な き た ウ ォ ー ク の 魅 力 ア ッ プ	早淵川～親水広場十字空間の魅力づくり	5. 十字空間周辺宅地における“環境に配慮した土地活用”のモデル事業化	地 権 者 調 整	地域まちづくりグループによるルールづくりの検討		地権者や今後進出してくる事業者との合意形成が必要
			6. 親水広場周辺宅地におけるまちづくり誘導(屋上緑化・建物セットバック・広場に面した建築等)				
		五山眺望ポイントの活用	7. 吾妻山の見晴らし地点から五山を眺める角度にある建物は、見晴らし地点より低くする規制・誘導	事 項			
			8. 吾妻山公園と歩道が一体となった広場においては、道標を囲んで一服しながら、五山を眺められる場所とする一方で、イベント空間として活用。	歩 行 者 ネ ッ ト			土木事務所・交通局との調整
			9. 桜並木と五山を橋上で鑑賞する場所としてのセンター橋の位置づけ				北部散策マップ等でPRしていく
		安全な歩行者環境の創出	10. みなきたウォークの安全な歩行者環境づくり				地域まちづくりグループにより、歩行者の安全性を高める施設の設置提案を地元で調整し、警察、土木事務所と調整する。
化 ・ 芸 術 ・ 市 民 活 動 ・ 活 性 化	タウンセンター祭等による中央地区(みなきたウォークや早淵川十字空間など)の活用に向けた環境整備	11. 子育て地蔵縁日やパレード行進等に活用できるみなきたウォークの環境改善	イ ベ ン ト 環 境	地域まちづくりグループにより、中央地区各種イベント(パレード行進・子育て地蔵イベント・縁日・お祭り広場等)の企画の考案をおこなうとともに、こうしたイベントに対応した道路環境の課題整理をおこなう。 地域まちづくりグループにより、各種イベントの開催の際には必要に応じて各種団体等と調整する。(大学サークル・センター北商業振興会・センター南商業地区振興会・センター北広場公園愛護会・センター南広場公園愛護会・みなきたウォークハマロードサポーター・早淵川親水広場愛護会等)	南・北タウンセンター地区と中央地区が一体となった「(仮称)タウンセンター祭り」の実施		
		魅力ある歩行者専用道路沿い商店街の形成	12. 歩行者空間に顔を見せた沿道商店街の形成 オープンカフェ・屋台村等)	交 通 局 調 整 事 項	平成19年度以降の高架下土地活用事業の検討状況に応じて、地域まちづくりグループによる地元提案の調整および交通局との継続的な意見交換	交通局への提案の際には、地域まちづくりグループが主体となって、地権者と調整し「地元」としての意見を統一することが必要	
高架下空間活用による歩行者専用道路の魅力づくり	14. 屋上緑化にした仲見世商店街や屋上利用のできる商店街の形成	16. 変電所・鉄道橋脚壁面の緑化の可能性					
周 辺 地 区 と の 関 係 強 化	中央地区内の歩行者動線整備	17. “青少年の居場所”スペースの確保	他	都筑区地域振興課において検討	現在、市歴史博物館駐車場にて暫定的に利用されている。		
		18. 土木事務所所在地を文化拠点としていくための総合的な検討		地域まちづくりグループと地権者によって中央地区に相応しい土地利用を検討し、今後進出してくる事業者等に対し要望していく			
		19. 中央地区周辺緑道から中央地区に至る明確なアクセスルート(散策ルート)の確立	歩 行 者	北部ルートと南部ルートを結ぶ中央地区アクセスルートと眺望点の設定およびマップの作成	平成19年度に散策マップ作成予定		
		20. つづき五山が眺められる眺望点の確立					
		21. 吾妻山～歴史博物館間の歩行者デッキ整備の可能性	他		整備費用		

既に関係者との調整が始まっている項目

3. 「つづき 水と緑の魅力アップ推進委員会」解散後の活動展開

3-1. 継続して取り組むべき課題

平成 15 年度に策定した各部会の検討テーマは、一部の取組内容を除き、平成 18 年度末までの部会活動の中で検討目標を達成した。しかしながら、継続して取り組むべき課題もあることから、水と緑の魅力アップ推進委員会活動で築き上げたネットワーク等を活かして、今後も発展的に取組を続けていくことが望ましい。

部会	継続して取り組むべき課題
第 1 部会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仮称) 緑道委員会による緑道の魅力発信及び地域の緑道意識の向上 ・ 緑道の魅力を小中学生に伝えていくための緑道教材の作成
第 2 部会	<ul style="list-style-type: none"> ・ まち歩きイベントの企画、実施 ・ 「都筑区南部水と緑の散策マップ」の改訂
第 3 部会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早渕川等の魅力アップ活動の継続 ・ 早渕川周辺整備基本計画の実現に向けた関係機関への働きかけ ・ 南北緑道連結ルート「やさきのみち」「しらさぎのみち」「あさひのみち」の広報・PR ・ 早渕川流域丘陵部の緑地保全に向けた検討 ・ 「river HAYABUCHI」ホームページの継続的な更新
第 4 部会	<ul style="list-style-type: none"> ・ タウンセンター魅力アップ推進グループにおける各種提案の実現

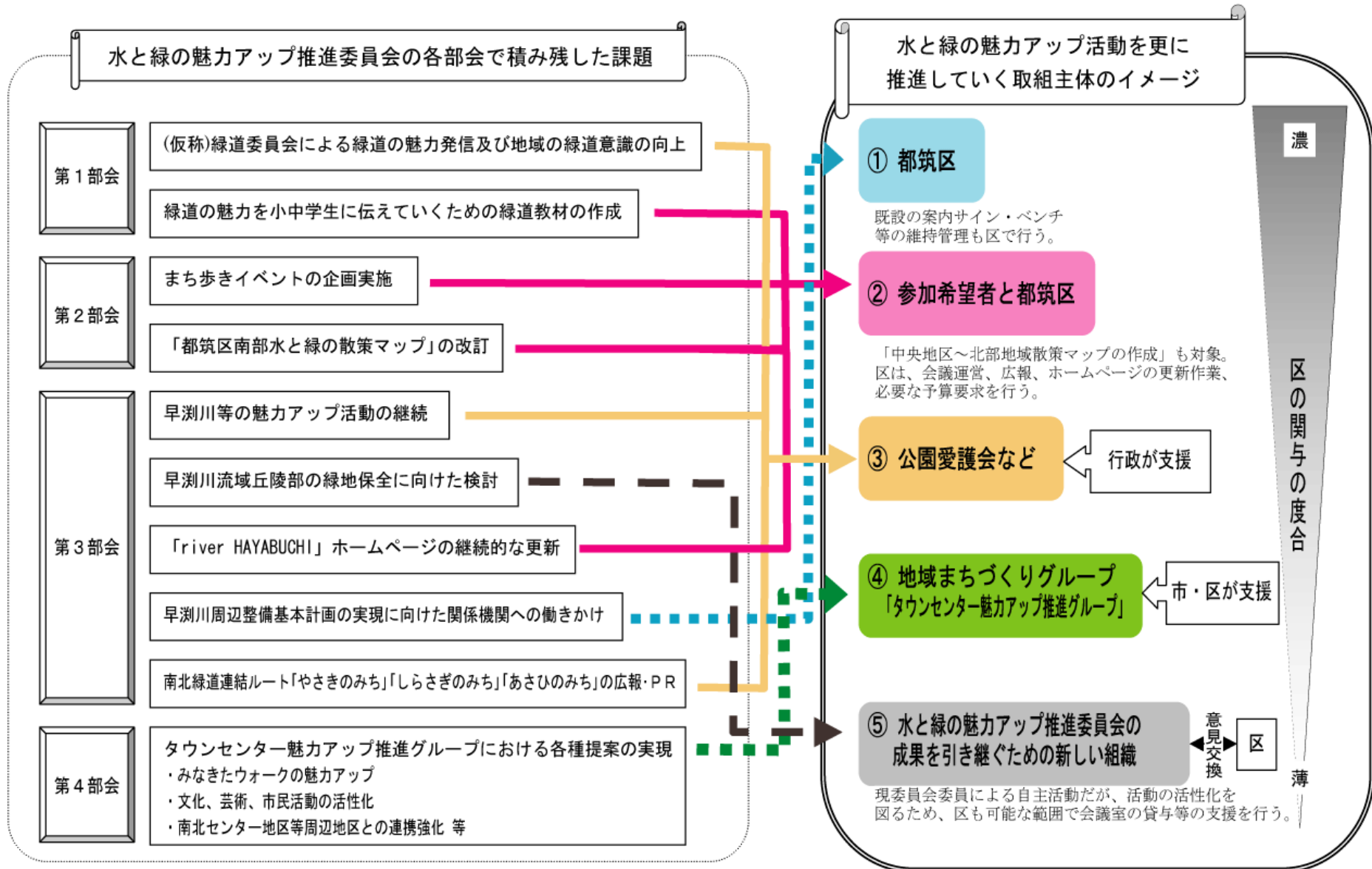
3-2. 委員会解散後の活動展開

区の水と緑の魅力アップに向けて継続して取り組むべき課題や新しく取り組むべき課題について、今後も発展的に取組を行うためには、それぞれの課題に応じて、区民と区役所等の行政とが役割を分担または協力し取り組むことが必要である。

今後の活動展開のイメージとして、上記の課題と、その課題に取り組む主体との関連を整理したものを次ページに挙げる。(図-17)

都筑区の貴重な水と緑の資源を守り育てていくためには、それぞれの地域の力が必要不可欠であり、この「つづき 水と緑の魅力アップ推進委員会」での活動で築き上げたネットワークや取組等が今後も活かされるよう、委員達と区役所との双方の協力が必要である。

図-17 委員会解散後の活動展開イメージ

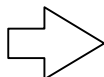


つつき水と緑の魅力アップ推進委員会解散後の活動展開

4. 水と緑の魅力アップ推進委員会活動ヒストリー

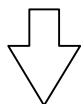
【つづき水と緑の魅力アップ推進委員会活動の紹介】

平成 16 年 6 月 10 日／読売新聞



【つづき水と緑の魅力アップ推進委員会活動の紹介】

平成 16 年 6 月 12 日／朝日新聞



読売新聞 都筑の魅力結ぶ 散策ルート提案

16.6.10

「つづき」水と緑の検討委

都筑区は、南北に長い形で、東部を東国、西部を西国と二分され、大が所の案内表示が不足している。また、近年の市町村合併で、早川・荒川を境とする東部の市界と西部の区界が一致せず、民衆の利便性が低下している。また、早川・荒川の両川は、都筑区のほぼ半分の地域を流れている。この両川に沿って、散策ルートを設定し、区民に周知する。また、早川・荒川の両川に沿って、水と緑の魅力を高めるための散策ルートを設定し、区民に周知する。

「つづき」水と緑の検討委

都筑区は、南北に長い形で、東部を東国、西部を西国と二分され、大が所の案内表示が不足している。また、近年の市町村合併で、早川・荒川を境とする東部の市界と西部の区界が一致せず、民衆の利便性が低下している。また、早川・荒川の両川を境とする東部の市界と西部の区界が一致せず、民衆の利便性が低下している。

区の水と緑の検討委最終報告

16.6.12 朝日新聞
区制10年で水や緑・寺社・民家…
「都筑区の財産」再発見
携帯マップ作りPRへ

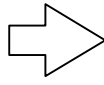
都筑区は、南北に長い形で、東部を東国、西部を西国と二分され、大が所の案内表示が不足している。また、近年の市町村合併で、早川・荒川を境とする東部の市界と西部の区界が一致せず、民衆の利便性が低下している。また、早川・荒川の両川を境とする東部の市界と西部の区界が一致せず、民衆の利便性が低下している。

都筑区は、南北に長い形で、東部を東国、西部を西国と二分され、大が所の案内表示が不足している。また、近年の市町村合併で、早川・荒川を境とする東部の市界と西部の区界が一致せず、民衆の利便性が低下している。また、早川・荒川の両川を境とする東部の市界と西部の区界が一致せず、民衆の利便性が低下している。

都筑区は、南北に長い形で、東部を東国、西部を西国と二分され、大が所の案内表示が不足している。また、近年の市町村合併で、早川・荒川を境とする東部の市界と西部の区界が一致せず、民衆の利便性が低下している。また、早川・荒川の両川を境とする東部の市界と西部の区界が一致せず、民衆の利便性が低下している。

【都筑区南部水と緑の散策マップの配布】

平成 16 年 11 月 11 日 / 朝日新聞



区南部を紹介へ11日 散策マップ配布
 都筑区、無料で
 朝「港北ニュータウン以外にも魅力あるエリアがあることを知ってほしい」と、横浜市都筑区の「水と緑の魅力アップ推進委員会」は区画整理をしていない南部の散策マップⅡ写真Ⅱを作成。区役所や地区センターで無



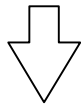
料配布を始めた。同区中・北部の港北ニュータウンは、広い緑道や歩行者専用道路が特長だ。一方、南部にも歴史ある神社仏閣やのどかな

田園風景が広がる。そんな地域資源をより魅力的にしようと昨年、区民参加の委員会が発足。調査を続けてきた。マップはA2判、蛇腹六つ折り・天地二つ折りで、情報面と地図面で構成。鉄道各駅を結ぶ四つの散策コースを紹介している。

「都筑写真倶楽部」が掲載写真を撮影するなど、区民の力の結晶だ。

【都筑区南部水と緑の散策マップの配布】

平成 16 年 11 月 16 日 / 神奈川新聞



都筑区の緑楽しんで

区民が手作り散策マップ

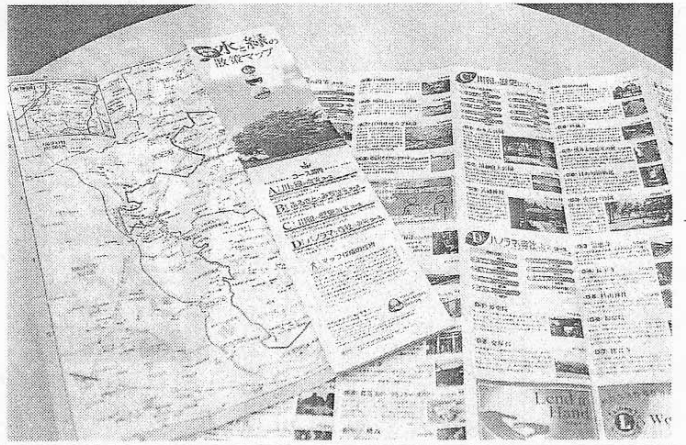
横浜市都筑区にあふれる自然を知ってもらおうと、同区民による手作りの散策マップがこのほど完成し、同区役所などで無料配布を始めた。(杉山 孝)

区制十周年を迎えた同区では、北部に港北ニュータウンを抱え、新たな街が急速に発展している。以前にも区が北部の緑道を紹介するマップを作製していたが、今回は豊かな緑が残る南部に焦点を当てた。

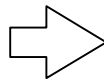
区内で活動している「都筑写真倶楽部」が写真数十点を撮影、地域の恵まれた自然環境を伝える団体「つぎ水と緑の魅力アップ推進委員会」内の「南部地域の環境整備部会」のメンバーが何度も現地を歩いて取材、執筆した。

約一年がかりで完成した区民の手による散策マップが完成した。

地図は色覚障害者も利用しやすいよう、色使いにも配慮してある。初版は五千部を印刷。同区役所や区内四カ所の地区センターで配布している。



【やさきのみち せせらぎ
イベントの開催】
平成17年7月26日／神奈
川新聞



17.7.26 神奈川新聞

遊びながら理想をイメージ

夢のせせらぎ絵に

横浜市都筑区内の三つの公園を結ぶ緑道「やさきのみち」に、区内を流れる早瀬川に注ぐせせらぎをつくる計画が浮上している。区は八月二十三日、都筑中央八幡山公園を経て、早瀬川を越えた都筑中央公園までの約五百メートルを緑道。水と緑があふれる区の魅力向上させようと、二〇〇三年から地域住民らと区で、会場アイデアを言葉や絵にして提

都筑の緑道
やさきのみち
8月にイベント

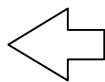
学生募集
小参加

対象は区内
在住の小学生
三十人で、住
所、氏名、電

公園（同区窪田東）のせせらぎで遊びながら、新しいせせらぎのアイデアを描くイベントを開催、参加小学生を募集している。「やさきのみち」は、同区中川の山崎公園から中川整備を進めている。新しいせせらぎは、早瀬川までの約二百五十メートルを予定しており、地下を流れる水路を生かし、緑道を歩きやすく魅力的なものにしようという計画が持ち上がった。

(鈴木 陸夫)

【歩行者専用道路の愛称「みなきたウォーク」
の決定】
平成18年2月11日／読売新聞



新聞 愛称は「みなきたウォーク」 自転車歩行者専用道路

読売
センター北駅
センター南駅間

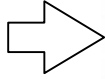
横浜市営地下鉄のセンター北駅（横浜市都筑区中川中央1）―センター南駅（同区茅ヶ崎中央）間に、3月末に開通する自転車歩行者専用道路（約790メートル）の愛称が、「みなきたウォーク」に決まった。このうち、同区市立折本小学校の児童らが応募した「みなきた通り」など、

「みなきた」がついた作品3点を、両駅名の「南」と「北」を合わせた言葉で、「みんな来た」に通じるように優秀賞に選定。「よの軽快な感じ」と、同委員会が「みなきたウォーク」と命名した。

18. 2. 11

【みなきたウォークハマロードサポーターの設立】

平成 18 年 9 月 28 日 / タウンニュース都筑区版



北と南 清掃で架け橋



みなきたウォークを「キレイに」有志集う

▶センター北とセンター南の協力は意義深いと話す皆川健一さん



「センター北とセンター南が一緒に（何かを）やるのは初めてじゃないかな」と話すのはセンター北商業振興会会長の皆川健一さん。

みなきたウォークの掃除を合言葉に、センター北・センター南の有志が協力。「南北ウォークハマロードサポーター」として、定期的に清掃活動などを行うことになった。毎月第四日曜日の午前11時から30分ほどかけて、みなきたウォークの両サイドからごみ拾いなどを行い、道の中心で合流する。

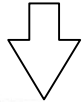
「南北ウォークハマロードサポーター」発起人の一人にも名を連ねた。港北ニュータウンの象徴ともいへき二大商業地域の北と南だが、未開発だった中央地区が驛となり、これまでイベント開催なども別々がほとんど。だがここに来て中央地区の区画整理事業が竣工。「みなきたウォーク」の開通など、北と南を巡る状況は大きく変わろうとしている。センター北と南を結ぶみなきたウォークには、メイストリートとしての期待も大きい。皆川さんは「北と南がドッキングして取り組む意義は大きい」として、今後は参加者を増やしていきたいと話している。

団体としての正式発足を控えるなか、9月24日には初の共同清掃を実施した。参加者は商店会関係者をはじめ、市民団体や近隣住民などさまざま。センター南側から参加した、発起人の一人・金子進さんは「こみは、まだそれほど多くはない。目立つのはタバコとガムかな」。

まだ新しみの残る歩道を見渡しながら「きれいだとごみも捨てにくいでしょう」と話し、環境維持の重要性を指摘した。同団体への問い合わせは金子さん（☎943・5257）まで。

【早渕川親水広場愛護会の設立】

平成 18 年 11 月 30 日 / タウンニュース都筑区版



早渕川親水広場 愛護会が発足

来年3月の正式オープンに先立ち清掃活動など



ニュータウン中央地区・センター橋のたもとに広がる親水広場の環境を守るうと、早渕川ファンクラブの福富洋一郎さん・中川中央1丁目内会の谷川文男さんらが呼びかけ人となり、愛護会を発足。今月26日の設立総会を経て、広場の正式オープンに先立ち、活動に乗り出した。総会で皆川会長は「早渕川の清掃を通して、早渕川を在りし日の姿に取り戻していければ」と話している。

来年3月頃に正式オープン控える「早渕川親水広場（仮称）」の環境保全に取り組み愛護会が、このほど発足した。川や歩道の清掃活動ボランティアや地元住民らが中心で、会長はセンター北商業振興会会長の皆川健一さんが務める。



▲挨拶する皆川健一会長
▲みなきたウォーク・センター橋で行われた設立総会



つづき

都筑区役所区政推進課企画調整係

都筑区茅ヶ崎中央32-1

TEL 045(948)2225

FAX 045(948)2399

E-mail tz-plan@city.yokohama.jp

※この印刷物は、再生紙(古紙混入率100%)を使用しています。